

日本の文学

堀尾幸平

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の文学の歴史をふまえながら、代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。若い世代の文学への関心が薄らいでいるといわれる今、文学への興味と関心を喚起したい。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 童謡、少年詩、少女小説
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本児童文学論（堀尾幸平著、中日文化、2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

英米の文学

小野迪雄

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

文学作品にはそれぞれの国の文化が反映している。主に20世紀の英米の文学の思潮をたどりながら、伝統的な英国文学や移民の国として新しい文化を作った米国学を中心に考察する。

【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難かしいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

中国の文学

寺尾剛

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古くかつ深い。日本はその影響を大きく受けてきたが、特に文学は顕著であった。中国の代表的な文学作品を紹介し、鑑賞する。

＜主なテーマ＞

- ・花木蘭（ムーラン）の物語－中国女性は強い？
- ・王昭君の物語－国際結婚、是か？否か？
- ・西施の物語－中国最大の美人は？
- ・孟姜女の物語－万里の長城と女性悲話
- ・詩仙・李白－酒仙、大いに酒を歌う
- ・詩聖・杜甫－戦争と文学と
- ・南宋最大の詩人・陸游－夫婦と嫁姑戦争
- ・妻への愛－「悼亡詩」の系譜
- ・封神演義はどこまで実話？－中国小説の魅力
- ・中国笑話選－下ネタは下品か？
- ・孔子－中国人の知恵と格言
- ・魯迅・周作人兄弟と日本との深い関係
など

【評価方法】

平常点と試験。

【テキスト】

プリント

情報と社会

梅田敏文

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 e－ビジネスの進展
- 第3講 社会の情報システム（事例1）
- 第4講 社会の情報システム（事例2）
- 第5講 社会の情報システム（事例3）
- 第6講 データと情報
- 第7講 インターネット
- 第8講 機械とコンピュータ
- 第9講 システムの概念
- 第10講 情報システムの構築
- 第11講 情報化社会の課題
- 第12講 まとめ

【評価方法】

受講態度、レポートなどで評価する。

【テキスト】

プリントを適宜、配布する。

情報と社会

沖野皓一

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は情報化社会といわれ、さまざまな情報が送受信されている。日常生活や経済社会の中で「情報」がいかにかわり、有効な活用はどうあるべきかについて考察する。

【授業計画】

- 第1～2回 歴史に見る情報と社会
情報と文化との関係を軸に、人間社会の歴史を概観する。
- 第3回 情報がモノを造る
モノの生産が、必要性・実用性から嗜好に重点を置くようになってから、生産システムも大きく変わった。いわゆる情報化社会の生産と消費の関係について
- 第4～10回 情報の氾濫がもたらすもの
次々と繰り出される扇情的な情報や、人々の行動を先取りするような情報の氾濫の結果、私たちはかえって情報への関心を失い、情報喪失の状態に陥りかねない。情報過剰の現状について
- 第11回以降 主体性確保のために
ニューメディアは多チャンネルの実現による情報の多元性を売り物にしているが、私たちにとって重要なのは、本当に必要な情報を発信・選択できる双方向性であろう。市民の側からの情報発信、メディアアクセスの現状と可能性について

【評価方法】

出席状況・試験の成績などによって総合的に行う。

【参考文献・資料】

講義の中で、その都度紹介する。

ジェンダーと社会 1

國信潤子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会において女性と男性の社会的関係は変容しつつある。男女がともに社会参画をして初めて社会における平等が確保できる。この視点から現代社会におけるジェンダー（社会・文化的性）のさまざまな問題を指摘し、検討する。

【授業計画】

男女共同参画社会の形成にむけて日本社会の各方面で努力が続いている。この講座ではグローバル化する国際・民衆交流の領域についてジェンダー（社会・文化的に形成される性別）の視点から開発途上国の現状について学ぶ。地球規模で、南北社会関係（開発途上国と先進国の対立・協同関係）に見られる各種の格差が問題となっている。そこには社会的資源の不平等分配がある。この格差是正のため、また国際・民衆交流推進のために国あるいは民間組織による開発支援が行われている。先進産業国から開発途上国に向けて社会的開発支援が行われている。その支援のあり方、文化多様性の確保とジェンダー平等化の試みの関係について考える。

この講座はオムニバス形式であり、社会開発支援の現場で活動する数名の講師による講義形式である。社会開発、国際協力の最前線で活躍する専門家によって現状分析が行われる。テーマとして開発におけるジェンダー、開発実践論、イスラム農村社会、保健・医療現場、外国人労働者などの問題をジェンダー視点から考察する。

【評価方法】

期末レポート、出席状況、履修態度等の総合評価

【テキスト】

特になし、随時配布

【参考文献・資料】

ジェンダー・開発・NGO (C.モーザー 東洋経済社)

ジェンダーと社会2

中島美幸 山下智恵子

オムニバス 1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講座では、ジェンダーの視点で文学作品を分析することによって、〈女/男〉規範がどのようにテキストに織り込まれているかを読み解き、さらに、テキストがどれほど現実の女と男の生を規定してきたかを検証する。それとともに、ジェンダーの呪縛から解放されたいとして、新たな文学表現を試みる作家・作品をできるだけ多く提示する。(オムニバス方式)

(中島美幸兼任講師)「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。なかでも、近代以降の女性表現については、他国の女性文学との比較もまじえつつ、読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係をジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 〈ことば〉とジェンダー
 - 第3回 〈書く女〉の登場①
 - 第4回 〈書く女〉の登場②
 - 第5回 女性を描く男性作家のまなざし①
 - 第6回 女性を描く男性作家のまなざし②
 - 第7回 母と娘の物語①
 - 第8回 母と娘の物語②
 - 第9回 家族の物語
 - 第10回 文学の政治性
 - 第11回 文学と映像文化
 - 第12回 まとめ
- *第8、9回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

毎回の簡単な感想と、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

教科書は使用せず、随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

毎回の講義の際に紹介する。

日本国憲法

大塚 浩

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の経過や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

- 〈前期〉
 1. 憲法と理想
 2. 憲法と法律
 3. 憲法と憲法典
 4. 国民の司法参加
 5. 憲法の最高法規性 (A)
 6. 憲法の改正
- 〈後期〉
 1. 憲法と理想
 2. 憲法と法律
 3. 憲法と憲法典
 4. 憲法の最高法規性 (B)
 5. 直接効力説
 6. 憲法裁判所
 7. 公共の福祉と義務
 8. 人権アラカルト
 9. 戦争と平和

【評価方法】

〈前期〉試験とレポートによる評価。
〈後期〉試験による評価。場合によっては、レポートの追加。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

日本国憲法

初谷良彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

憲法というのは、人権の保障や国の政治の仕組みを定める最高法規で、たとえてみれば、一国の政治のルールブックといってよい。われわれの生活は未来に開かれた限りない前進の出発点でもある。日本国憲法の正しい運用によってわれわれの未来を輝かしいものにするために人権保障のあり方や統治の仕組みは、現在どのような問題に直面し解決を迫られているのか、等を検討し課題を解明していきたい。

【授業計画】

- 第1回 近代国家と憲法
- 第2回 日本国憲法の基本原理
- 第3～5回 人権総論
- 第6～7回 信教の自由と政教分離
- 第8～9回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第10～11回 生存権、教育権、労働基本権
- 第12回 国会
- 第13回 内閣
- 第14回 裁判所
- 第15回 地方自治

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

憲法講義I（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

郷土の歴史と文化

秦達之

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

東海地方は、戦国乱世の時代に織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を生んだ土地である。この歴史的風土をふまえ、愛知県を中心に郷土の歴史と文化を講義する。

愛知県は、“三大英傑”以後、一見平穏無事で、パッとしないかみえる。しかし、よくみれば、東西の文化を巧みに織りこんで、波瀾にも富み、歴史上重要な地歩を築いてきた。講義は、尾張と三河とのちがいにも留意しつつ、隣県の三重・岐阜・静岡にも時には視野を拡げ、受験時の暗記の歴史から、考え、愉しみ、生きるための歴史へと飛翔することを目指す。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ、内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものになりたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「村方騒動と兼帯庄屋」「東海地方の山車（だし）」「渡辺崋山とその周辺」「お札降りとええじゃないか」「尾張の洋学者たち」「戦争と女性」「モルフィと廃娯運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一時間毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている（受講者もぜひご協力を）。

【評価方法】

出席状況（特に厳しいので注意！）と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。白紙で出さないように。

【参考文献・資料】

愛知県の百年（塩沢君夫、斎藤勇、近藤哲生共著 山川出版社）

愛知県の歴史（三鬼清一郎編 山川出版社）

都市と環境

谷口 武

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の都市は生活と文化の面では便利であり、快適であるが、街の緑や空気汚染など、自然環境には恵まれているとはいえない。都市をとりまく自然環境の問題を中心に講義する。

【授業計画】

- 第1講 概論1：自然環境とは
第2講 概論1：自然環境と人間
第3講 各論1：農耕の発見による生活形態の変化
第4講 各論2： ♪
第5講 各論3：都市形成の促進
第6講 各論4： ♪
第7講 各論5：現代都市生活の高度化
第8講 各論6： ♪
第9講 各論7：都市巨大化と自然環境
第10講 各論8： ♪
第11講 各論9：都市環境の改善
第12講 各論10： ♪
第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

- 都市の論理（藤田弘夫著 中央公論社）
なにが環境の危機を招いたか（バリー・コモナー著 講談社）
都市（東京大学公開講座 東京大学出版会）
環境（東京大学公開講座 東京大学出版会）
環境生物学への招待—地球生物圏と人間—（鈴木賢英著 文化書房博文社）

メディアと文化

鎌田基子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩でさまざまなメディアが新しい文化を生み、伝達する。文化の創造の伝達とメディアの関わりを考察する。

【授業計画】

- 第1回 どこからどこまでがメディアなのか？
第2回～7回 「編集」という創造
・怪物の作り方
・テーマとコンセプト
・人の流れと思考の奥行き
・発想の手順
・WORK SHOP
フォトストーリー
コラージュ
店内レイアウト
雑誌の企画
第8回～10回 現代美術はなぜ分かりにくいのか？
・作品が持つ言語
・素材の力、場の力
・伝達技術と表現手段
・WORK SHOP
即席インスタレーション
第11回～12回 社会が生んだ表現
・表現の自由と人権
・芸術が果たす役割
第13回 「見る」「聞く」行為について
状況により途中1～2回をゲスト講師の講演にあてる。

【評価方法】

出席状況、レポート等による。

国際情勢

富江良治

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化の時代とか、地球は一つなどいいながら、つい身近なことにとらわれて、視野を広げる努力を怠りがちです。世界では何が起きているのか、その背景には何があるのか、どの方向へ進むと考えられるのか。こうした問題意識と関心を持った人間が育つよう、つぎつぎと起こる新しい動きを手掛かりに分かりやすく、面白く解きほぐしていきます。世界歴史の最先端にふれる興奮と緊張を味わえれば、です。

【授業計画】

日々報じられる新聞の国際記事、解説や特集面、テレビのニュース番組、ドキュメンタリーなどのコピーやビデオを用意し、教室で放映または配布して説明します。発生する出来事の中から興味を引くとみられるものを優先します。したがって政治、経済、社会、文化といった体系的な進め方には必ずしもなりません。

【評価方法】

原則として筆記試験によります。出席状況や意見発表とか質問、問題提起、私語、遅刻など受講態度も参考にします。

【テキスト】

特にありません。

【参考文献・資料】

そのつど、必要に応じて知らせます。

生活と福祉

長谷川真人

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

戦後50年間改正されなかった児童福祉法が平成9年6月11日に改正公布され、平成10年4月1日から施行されました。並行して「介護保険法」が成立し平成12年からスタートしています。平成12年5月17日に児童虐待防止法が成立しました。さらに平成12年11月に少年法が改正されました。今子どもの問題が大変クローズアップされています。そんな社会状況をふまえた福祉の問題について「生活と福祉」の授業を展開していきたいと考えております。しかし、福祉といっても大変幅が広いため半期だけでは全体をカバーできないため、学生の皆さんが現代社会の生活にとって大切な福祉の基礎的な問題から、具体的な現実問題（ビデオ教材導入）への授業内容と考えております。したがって、この授業では福祉の基本的な問題を勉強したい学生を対象に「福祉とは何か」ということを特に乳児期・児童期から青年期を含めた社会的養護（家庭で生活できない場合の福祉対応）と、将来の子育てに役立つためのものになりたい。そのためにも地域社会や家庭問題も視野に入れた内容で皆さんと考えていきたいと思っています。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉とは、児童の福祉とは、
- 第2回 「子どもの権利条約」と日本の子どもたち
- 第3回 児童問題に関わる行政機関の仕事と役割
- 第4回 現代の子どもたち（家庭、地域、学校では）
- 第5回 乳児・児童・老人虐待の実態と問題点
- 第6回 乳児・児童・老人虐待への対応と課題
- 第7回 社会福祉サービスの現状（介護保険制度等）
- 第8回 社会的養護の現状（児童福祉施設・里親等）
- 第9回 現代の少年非行問題（少年法改正問題等）
- 第10回 保育、母子・父子家庭問題の現状と課題
- 第11回 国際化問題（国際結婚・国籍問題等）
- 第12回 福祉の仕事、福祉ネットワークの現状と課題

【評価方法】

試験の成績と、途中でのレポート及び出席率等を総合評価する。

【テキスト】

講義テキスト（自費出版）・「児童養護施設の子どもたちはいま」（三学出版）

こころの世界

清水 遼

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学は、人間を「種」として扱い（個人差を捨象し）理解しようとする領域と「個」として理解しようとする領域に大雑把に分けられる。本講義では主として後者の側面に焦点を当て、ヒトの個性（パーソナリティ）の理解にせまる。

【授業計画】

1. 心理学とは
2. パーソナリティとは
3. パーソナリティの類型論
4. パーソナリティの特性論
5. パーソナリティの診断（質問紙法）
6. パーソナリティの診断（作業検査法）
7. パーソナリティの診断（投影法）
8. パーソナリティの異常（その1）
9. パーソナリティの異常（その2）
10. パーソナリティ異常の生物学的背景
11. パーソナリティの変容法（その1）
12. パーソナリティの変容法（その2）
13. 試験

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

こころの世界

新美明夫

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

極度の精神的緊張や不安をはらむ高度情報社会の時代にヒトのこころや行動の仕組みについて改めて熟考することは、将来をより豊かに生きてゆくためにも意義深いと思われる。本講義は心理学的観点から人間を理解することをめざす。

授業は一方的な講義ばかりでなく、簡単な実験やテストなどの実習を行う予定である。学生諸君はこれらを自ら実施することによって、心理学的な方法論や考え方を理解していただきたい。

【授業計画】

1. 見る・覚える・考える
知覚／記憶／学習／認知／思考
2. 自分を深く知る
性格／自我／発達／動機づけ
3. 他者や社会との関わり
社会／集団／対人関係

【評価方法】

実習レポートおよび、試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

ばーじょんあっぷ 自分でできる心理学（宮沢秀次他編著 ナカニシヤ出版）

こころの世界

松尾貴司

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

極度の精神的緊張や不安をはらむ高度情報社会の時代にヒトのこころや行動の仕組みについて改めて熟考することは、将来をより豊かに生きてゆくためにも意義深いと思われる。本講義は心理学的観点から人間を理解することをめざす。

この講義では、実験心理学に基づく知見を中心に、行動科学としての心理学を概観していく。

【授業計画】

1. 心理学の課題と方法
2. 感覚と知覚
3. 学習と思考
4. 記憶と情報処理
5. パーソナリティ
6. 社会的適応
7. 対人行動
8. 集団と個人
9. 空間行動
10. コミュニケーション行動

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

生活にいかす心理学（古城和子編著 ナカニシヤ出版）

こころの世界

森久美子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

われわれの行動は、一見単純に見えるものであっても、つねに社会の影響を受けており、文化的社会的背景を無視してひとを理解することはできない。この授業では、われわれの日常的な認識の成り立ちについて、社会心理学を中心とした心理学知見をもとに考えてゆく。

【授業計画】

1. 社会の中の人間
2. ひとの知覚と社会（1）
3. ひとの知覚と社会（2）
4. ひとの言語と社会（1）
5. ひとの言語と社会（2）
6. ひとの記憶と社会（1）
7. ひとの記憶と社会（2）
8. ひとの判断や思考と社会（1）
9. ひとの判断や思考と社会（2）
10. ひとのコミュニケーションと社会（1）
11. ひとのコミュニケーションと社会（2）
12. まとめ：心理学とその関連領域
13. 試験

【評価方法】

テストの成績による。

【テキスト】

使用しない。授業時に資料を配布する。

ことばの世界

松本雄子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

私達が日常的にげなく行っているコミュニケーションを様々な角度から分析する。コミュニケーションの基礎概念や理論を、現実社会での生活に関連しながら講義する。その中で、地域、社会的階層、性別、年齢によるコミュニケーションの違い等にも焦点をあてる。授業は講義中心ではあるが、ビデオを使つての講義や、グループディスカッション及び自己評価など、学生参加型の授業も取り入れる。

【評価方法】

筆記試験

【テキスト】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

ことばの世界

山本雅子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ことばによるコミュニケーションは、言語的な意味だけでなく、社会的な意味においても行っている。

ことばによる社会的な意味のちがいを地域、社会的階層、性差、年齢などを軸にして考えてみたい。

【授業計画】

- 第1回 ことばと心的距離
- 第2回 ウチとソト①
- 第3回 ウチとソト②
- 第4回 敬語①
- 第5回 敬語②
- 第6回 性差①
- 第7回 性差②
- 第8回 世代差①
- 第9回 世代差②
- 第10回 名古屋方言①
- 第11回 名古屋方言②
- 第12回 ことばのはたらき

【評価方法】

出席状況・プレゼンテーション・レポートなどによる。

【テキスト】

身の回りの“日本語”。日常生活で見聞きする“日本語”に対してたえずアンテナをはっておくこと。

ビジネスの世界

藤井正志

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1講 社会人の心構え(組織人としての意識)
 - 第2講 〃 (組織内のコミュニケーション)
 - 第3講 〃 (海外でのビジネス)
 - 第4講 〃 (異文化とのコミュニケーション)
 - 第5講 主要業種の特徴(銀行・証券)
 - 第6講 〃 (商社・マスコミ)
 - 第7講 〃 (製造業・公務員)
 - 第8講 〃 (シンクタンク他)
 - 第9講 経済金融用語・解説(株式について)
 - 第10講 〃 (株式とデリバティブ)
 - 第11講 〃 (コホレート・ガバナンス)
 - 第12講 〃 (ITパワー対製造業)
- 経済金融用語・解説で取上げるテーマは、変更されることがあります。

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

ビジネスの世界

真田幸光

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀を迎え、いわゆる日本型雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には、企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業での経験をふまえ、ビジネス世界の現実を講義する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2回 「働く」ことの意義
- 第3回 日本経済概況
- 第4回 米国経済概況
- 第5回 欧州経済概況
- 第6回 アジア経済概況
- 第7回 国際金融ビジネス
- 第8回 国内金融ビジネス
- 第9回 商社ビジネス
- 第10回 製造業ビジネス
- 第11回 通信とビジネス
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

授業中に配布する。

メンタルヘルス

江口昇勇

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれる。心の病は少年期や青年期に特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもある。講義では臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考える。

【授業計画】

- 1) 事例からこころの不思議と健康を考えること、事例の取り扱いについて。
- 2) 児童期のメンタルヘルス児童期の発達課題と精神病理
- 3) ヒステリー性失失歩を呈した少年の事例から
- 4) 思春期のメンタルヘルス；思春期の発達課題、性衝動との出会いーグリム童話「かえるの王様」よりー
- 5) 箱庭療法により思春期危機を乗り越えた事例
- 6) 青年期におけるメンタルヘルス；同一性拡散の危機
- 7) 夢分析における同一性獲得の事例
- 8) 影の問題、影への気づきー自分の内なる黒い兄弟の存在、二重人格ー
- 9) 共依存の精神病理、虐待、いじめの深層ーグリム童話「猫とねずみとおともだち」からー
- 10) 女性性と母性獲得の困難さーグレート・マザーとの直面化ー
- 11) 成人期のメンタルヘルス；自分を引き受けるということーガン告知を引き受けるまでー
- 12) 老年期のメンタルヘルス；「障害者元型と個性化ー自己実現の厳しい道ー」
- 13) まとめ

【評価方法】

レポート課題の成績で評価する。課題レポート以外にも講義に関するレポートやコメントを自発的に提出する受講生が毎年いるが、それらは積極的な受講の態度として評価し、レベルが高いものは講義で紹介する。また受講態度の悪さは当然、成績評価に直結する。

【テキスト】

授業において、随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

なし。

メンタルヘルス

二宮 昭

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

1. 健常と障害（正常と異常）ということについて
 - 1) 健常（正常）とは？ 障害（異常）とは？
 - 2) 「障害者」とは？
 - 3) 「障害者」の受け入れ
2. 「こころ」と「からだ」
 - 1) 世界を捉える場としての「からだ」
 - 2) 現代における「こころ」と「からだ」の問題ー「からだ」から切り離されてしまった「こころ」
 - 3) 臨床心理学的視点からの「からだ」の捉え直し
3. 現代人とストレス
 - 1) ストレスとは？
 - 2) ストレスの処理ーリラクセーション

授業は通常の講義形式で行うが、場合によっては実際のリラクセーションのやり方などの体験実習を行うこともある。

【評価方法】

出席状況およびレポートによる。

【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

メンタルヘルス

西出隆紀

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

- 第1回 心の正常と異常
- 第2～3回 心の発達と精神的健康
- 第4回 自分を見つめる
- 第5回～10回 青年期の心の問題
 - 家族関係と不登校
 - 食の病理—拒食と過食
 - 思春期妄想症
 - 対人恐怖
 - 強迫神経症
 - パニック発作
 - 感情の障害
 - 精神分裂病
- 第11回～13回 心の援助・治療

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可（コピーを持ち込んだ場合は失格）とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【テキスト】

使用テキストなし。講義中に参考文献を紹介。

メンタルヘルス

古井 景

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

今、子どもから大人まで多くの人が心を病んでいるといわれます。心の病は少年期や青年期特有のものもあれば、時代や社会的要因によるものもあります。臨床的事例にふれながらメンタルヘルスについて考えます。

【授業計画】

資料配付により講義をすすめていきます。

力動精神医学の立場から、心の働き（自我機能）に目を向け、“心の健康と不健康”について学んでいきます。また、世界保健機関（WHO）の作成した疾病分類「ICD-10」第V章「精神および行動の障害」、および、アメリカ精神医学会の疾病分類「DSM-IV」を紹介し、これに力動精神医学的理解を加えていきます。

- I. 精神力動
 - 自我の構造モデルと自我機能・防衛機制
 - 人格構造
 - 情緒発達理論
- II. 精神症状学
 - 意識の障害
 - 記憶の障害
 - 幻覚・妄想
 - 精神運動障害
- III. ICD-10・DSM-IV
 - 薬物依存障害
 - 精神分裂病、分裂病様障害および妄想性障害
 - 気分（感情）障害
 - 不安障害、身体表現性障害、解離性障害
 - 摂食障害
 - 適応障害
 - 人格障害
- IV. その他

【評価方法】

学期末の試験、または、レポートによって判定します。

【テキスト】

使用せず、参考図書はその都度提示します。

注）受講生の希望を踏まえ、内容を変更する可能性もあります。受講される方々の積極的な意見、質問に基づいて授業は進展していきます。

暮らしの経済

森下允之

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

- 第1講 国民所得統計
- 第2講 バブル崩壊と平成不況
- 第3講 財政の現状と課題
- 第4講 金融の基礎知識（銀行、金融市場）
- 第5講 同上（金融政策、金融自由化）
- 第6講 貿易と国際収支
- 第7講 為替相場
- 第8講 世界各国、地域の経済（アジア、中東）
- 第9講 同上（ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ）
- 第10講 アジア通貨危機
- 第11講 欧州統一通貨ユーロ
- 第12講 地域経済統合vsグローバリズム
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

教材はプリントを配布する。

暮らしの経済

村上貴美子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活に密着した経済学の入門。特に今や経済社会もグローバル化しており、国際経済の流れや仕組みにもふれ、日常化している経済用語を解説する。

【授業計画】

- 第1回 最近の経済状況と用語解説
生活と経済の関わり
- 第2回 消費者の権利と意思決定
- 第3回 価値観と消費の多様化
- 第4回 生活をとりまく環境変化
- 第5回 本当の「豊かさ」とは何だろうか
- 第6回 「労働」と言う言葉はなぜキライですか
- 第7回 教育と経済
- 第8回 サービスとはタダ（無料）のことでしょか
- 第9回 余暇の為に働く
- 第10回 住宅とまちづくり
- 第11回 国際化と生活
- 第12回 未来を考える

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生活の経済学（井原哲夫著 東洋経済新報社）

外国の言語と文化 1

角田達朗

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の初歩を学ぶとともに中国の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

近年、中国映画は国際的な賞を獲得する作品が続出し、注目を集めている。この授業では、中国映画の中から、主として現代小説を原作とする作品を、題材の年代順に鑑賞することによって、中国の近現代史についての理解を深めて行く。中国の近現代は、辛亥革命・抗日戦争・文化大革命などに象徴される動乱の時代であった。中国映画がこのような動乱の時代をいかに描いているかを、映像表現についての分析も織りまぜながら検証する。

同時に、映画の中の「生きた中国語」に触れることを通じて、中国語に親しみ、言語についての理解を深める契機としたい。

- 第1～2回 張芸謀『紅いコーリャン』
(原作 莫言『紅高粱一族』)
- 第3～4回 張芸謀『菊豆くチュイトウ』
(原作 劉恒『菊豆』)
- 第5～6回 陳凱歌『黄色い大地』
(原作 柯蘭『深谷回声』)
- 第7～9回 謝晋『芙蓉鎮』
(原作 古華『芙蓉鎮』)
- 第10～11回 陳凱歌『子供たちの王様』
(原作 阿城『孩子王』)
- 第12～13回 孫周『心の香り』
(原作なし)

【評価方法】

レポート

*受講状況によっては、試験に変更することもある。

【テキスト】

なし。

*授業時に鑑賞する映画が、テキストに相当する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

外国の言語と文化 1

張勤

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の言葉と文化との関係を考えるとともに、中国語の会話もチャレンジする。

【授業計画】

- 第1回 現代中国と現代中国語とは
中国語初歩コーナー：声をかけたいとき
- 第2回 中国語の方言と少数民族の言葉
中国語初歩コーナー：感謝をしたいとき
- 第3回 中国語の挨拶
中国語初歩コーナー：何かを聞きたいとき
- 第4回 中国人の名前
中国語初歩コーナー：好きな気持ちを表したいとき
- 第5回 食べ物と中国語
中国語初歩コーナー：いやな気持ちを示したいとき
- 第6回 中国語の言葉遊び
中国語初歩コーナー：言い方が分からないとき
- 第7回 中国語と日本語の違い
中国語初歩コーナー：何かしてもらいたいとき
- 第8回 中国語の歴史
中国語初歩コーナー：何かさせてもらいたいとき
- 第9回 中国語の文学
中国語初歩コーナー：私はそう思わないよと言いたいとき
- 第10回 中国語の文字
中国語初歩コーナー：信じられない気持ちを表したいとき
- 第11回 中国語の外来語
中国語初歩コーナー：そうしようと提案したいとき
- 第12回 中国語の現実
中国語初歩コーナー：そうしたいと言いたいとき

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

外国の言語と文化 2

尹 大辰

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国・朝鮮語の初歩を学ぶとともに、朝鮮半島の風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音 (1)
- 第3回 ハングルの文字と発音 (2)
- 第4回 基本的な日常会話 (1)
- 第5回 基本的な日常会話 (2)
- 第6回 基本的な日常会話 (3)
- 第7回 言語と文化 (1) - 衣・食・住
- 第8回 言語と文化 (2) - 社会的構造
- 第9回 言語と文化 (3) - 漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第11回 朝鮮通信使の意義
- 第12回 まとめ-言語表現から見た文化比較

【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

【テキスト】

韓国・朝鮮語はプリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

韓国 (金両基監修 新潮社)
韓国と日本の比較文化論 (金煥著 明石書店)

外国の言語と文化 3

杉本一直

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学になかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなががすいたら…
- g. 自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

外国の言語と文化 3

丹邊文彦

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロシア語の初歩を学ぶとともに、ロシアの風土・歴史・文化について理解を深める。

1. ロシア語文字への習熟
2. ロシア語発音およびリズム感の養成
3. 簡単な日常表現のテキスト（本文）を朗読する習慣づけ
4. ロシア民謡などの鑑賞により、風土・歴史・文化を理解させる

【授業計画】

- 第1回～3回 文字と発音
教科書“文字と表現”(1)～(6)
- 第4回 “文字と表現”(7)
- 第1課 この人は誰ですか？
- 第5回 第2課 知ってますか？
- 第3課 ノートは机の中です
- 第6回 第4課 私は東京から来ました
- 第5課 すみません、入っていいですか？
- 第7回 第6課 今日は試験です
- 第7課 ロシア語はおもしろい
- 第8回 第8課 頭は何のためにあるのでしょうか？
- 第9課 御兄弟はいらっしゃいますか？
- 第9回 第10課 今私はモスクワにいます
- 第11課 紅茶とコーヒーどちらが大好きですか？
- 第10回 第12課 どこにいたの？
- 第13課 これはおいくらですか？
- 第11回 第14課 お店はどこでしょうか？
- 第15課 あしたは私は出張です
- 第12回 第16課 5時に会いましょう
- 第17課 私はあさってロシアへ行きます

1期終了の授業で時間が限定されているので、文法および練習問題は最小限に止め、本文（テキスト）中心に授業をすすめる。理解した文章をくり返し朗読して復習することを重視する。

【評価方法】

- a. 朗読 b. 聴取り c. ペーパーテスト の総合

【テキスト】

話すロシア語入門（米重文樹著 白水社）

【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ（講談社現代新書）

外国の言語と文化 4

藤井たぎる

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ドイツ語の初歩を学ぶとともに、ドイツの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこないたい。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらう。必要に応じてプリントを配布する。

【評価方法】

筆記試験。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

外国の言語と文化 5

清水ベアトリックス

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヨーロッパ文明の発祥の国フランスについての理解を深めることはヨーロッパ文化を理解するうえで重要である。フランス語とフランス文化の概要を学ぶことにより、フランスへの関心と理解への動機づけとしたい。

前期

このコースは、受講者の興味を考慮に入れ授業内容を考えたい。現代フランス社会と日常使用されているフランス語を学ぶとともに、担当講師（フランス人）の在日体験談を交え、フランス・日本両国を言語・文化の面から比較検討する。

とにかく、下記のテーマで行う。

- －フランスの地理
- －フランスの建国
- －フランス国民の起源
- －フランスの社会問題
- －フランスの家族
- －教育制度
- －フランスとヨーロッパ
- －フランス人と余暇など。

後期

前期と同じ。

【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題（テキストや映画についての感想文）、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

変貌するフランス（西永良成 日本放送出版協会）

外国の言語と文化 6

木下 登

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スペイン語の初歩を学ぶとともに、スペインの風土・歴史・文化について理解を深める。

【授業計画】

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペインの歴史と文化の特色
3. スペイン語を学びましょう
4. アルファベット、音節、アクセント
5. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
6. 人称代名詞、serとestar動詞、hay
7. 否定文、疑問文、関係詞、感嘆文
8. 形容詞（性数の一致）、指示形容詞、所有形容詞
9. 動詞（直説法現在）
10. 再帰動詞
11. 動詞（直説法現在完了）、過去分詞と現在分詞
12. 動詞（直説法過去：点過去と線過去）
13. 動詞（直説法未来と過去未来）
14. 動詞（直説法大過去）
15. 動詞（命令法）、無人称文
16. まとめ

【評価方法】

筆記試験に出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示します。

文章表現論

加藤孝男

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

- 第1講 はじめに
- 2～3 日記について
- 4～6 名文を読む
- 7～8 表現のレトリック
- 9～10 芸術的表現の手法
- 11～12 表現の実践
- 13～14 まとめ

【評価方法】

提出物（表現の実践）で評価します。
また、出席・平常点も重視。

【テキスト】

第一回目の講義で指示します。

文章表現論

青木 健

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

「自分にしか書けないことを誰にもわかるように書く」ことを目標にして、文章表現に必要な基本的事項を実践例をふまえながら学習する。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。（伝達と表現Ⅰ）
- 第2回 現実言葉の織物である。（伝達と表現Ⅱ）
- 第3回～6回
例文をテキストに、文章の構成、話法、リズム、形容など具体的に講義。
- 第7回～12回
課題を3回提出し、短文（2～5枚、400字詰）を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

比較文化

文 嬉眞

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化（異民族）との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

比較文化

田所光男

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界にはさまざまな国家や民族があり、多様な文化が存在する。文化人類学的な見地から外国の文化や伝統・風俗を学ぶ。

【授業計画】

ワインとか料理、香水にモード、もう少しアカデミック（？）にルーブルとかオルセー...皆さんのフランス・イメージはどうでしょうか。この授業では、異文化・異民族との関係の中にあるフランスを眺めて行きます。恐らくこれまでのフランス・イメージとはかなり違うフランスの姿にぶつかることになると思います。フランスを少し再発見してみる、ことができるのではないのでしょうか。また、フランスばかりではなく、現代世界に生じている様々な文化摩擦・民族衝突の問題を理解して行くために必要な、いくつかの知的枠組みを自分の中に取り入れることも可能だと思います。

具体的には、まず、異文化・異民族の接触・交渉・衝突についての概論を行います（7回）。次に、フランスの内部にある異文化接触の問題として、ユダヤ人、特に、ジェノサイド以降の、戦後生まれの世代の動向に注目します（5回）。

こうした検討を通して、同化、植民地化、移民、ヨーロッパ中心主義、反ヨーロッパ主義、文化相対主義、普遍主義、差異への権利、多文化主義など、様々な問題を考えて行きます。

【評価方法】

授業への積極的な参加、及びレポート（大小二回を予定しています）。

【テキスト】

異文化への視線（佐々木英昭編著 名古屋大学出版会）
その他、適宜プリントを配布します。

現代芸術 1

天野節子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

第1回 年間の授業計画として使用する教本の鑑賞の方法を説明する。

第2回～10回

書写の重要なポイントの説明をしながら実技をする。一人一人について添削指導をする。

第11回～最終回

課題に有名な作家又は詩人等の美しい文章等を各自に表現をして作品を作成させる。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

ペン字テキスト〔基本編・実務編・応用編〕(氏田菖軒著 書道教育社)

現代芸術 1

森美恵子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方 (上田桑鳩 教育図書研究会)

現代芸術 1

小川晃治

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「書道」の意義と意味を問い、名筆の鑑賞と書写の実技をする。

各時代に於ける日本の書美の変相を、他の美術と文学と対比、関連させて探求させる。そして現代社会の中にあって、書のあり方、価値感を考察し、また生活の中に於ける書文化の諸相を観る。漢字から「かな」を創造した日本人の美意識を追求する。

- 他の美術、文学を対比して、書の美学を学ぶ。
- 基本的書技を実習する。楷、行、草、篆、隸書、かなの六体を実習する。
- 日本の三筆、三蹟の古筆の鑑賞、臨書をする。
- 基本的なかなの実技と、古筆を鑑賞する。
- 漢字の細字の実技の実習をする。王羲之の蘭亭叙を臨書させる。
- 和漢の書道史を通じ、書の美の大要を学ぶ。
- 奈良、平安時代の文学、書に於ける、漢字の意義、かなの創成、大成を通じ、上代文化の成立を学ぶ。
- 鎌倉時代に於ける禅文化を墨跡にふれ、貴族文化と武家文化の対比をさせる。
- 室町、桃山時代の絵画、建築、工芸と書芸の動向を観る。また現代社会に於ける美の淵源を探る。
- 江戸時代に於ける庶民文化隆盛の中の美と、和様、唐様の書の諸相を学ぶ。
- 現代社会に於ける、文字、書文化の社会生活の中での意義を考えさせる。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代芸術 2

志水博子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1回 世界の名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみ 講義と演習
- 第3回 やさしい曲で楽しくハーモニー演習
- 第4回 外国の歌曲を原語でうたう
- 第5回 名演奏家の演奏をビデオ鑑賞
- 第6回 名演奏家の演奏をビデオ鑑賞
- 第7回 実技演奏発表のリハーサル
- 第8回 (選曲や演奏法のアドバイス)
- 第9回 混声合唱練習
- 第10回 混声合唱練習
- 第11回 演奏会形式による実技発表
- 第12回 演奏会形式による実技発表

【評価方法】

出席状況、実技演奏—各自の得意とする楽器又は歌唱例、独唱、アンサンブル、連弾、カラオケ等。

【テキスト】

プリント配布。

現代芸術 2

浅田まり子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「音楽」の意義と意味を問い、名曲を鑑賞し、歌唱をする。

【授業計画】

- 第1講 音楽について
- 第2講 声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング
- 第4講 音楽と教育
- 第5講 音楽療法
- 第6講 音のスケッチ
- 第7講 リズム
- 第8講 メロディー
- 第9講 ハーモニー
- 第10講 表現と技術
- 第11講 まとめ
- 第12講～発表

*各講それぞれのテーマで話し合い、歌唱やキーボード、ギター、鑑賞、創作を、クラスまたはグループの要望にあわせて指導していく。

*発表は、個人またはグループで、歌、楽器の演奏や、コンピューターミュージックなどによる創作とし、ジャンルを問わない。

*音楽の機能を使って、健康的な人間形成に役立てるのにはどうしたらよいかを考え、自分の音楽をよく聴きながら、ノンバーバルコミュニケーションとなる音楽を発表できることを目標とする。

【評価方法】

実技、感想レポート、出席状況、授業態度で評価。

【テキスト】

授業中に指示し、楽譜など貸与する。

現代芸術 3

横山萬里

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、又、古画のうちで親しみやすい絵巻について講義をする。

【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画を取りあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

博物館入場料 600円程

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用 計 1,600円程度

【評価方法】

出席状況と感想文レポート（6回提出）を総合的に評価。

【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」

コピーした図を見る。

【参考文献・資料】

なし。

現代芸術 3

川口 晃

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての「美術」の意義と意味を問い、名画を鑑賞し、作品を作る。特に現代美術には様々な分野がある。絵画・彫刻・工芸・デザイン・書・鑑賞のほかに、最近では映像・コンピューター・建築・環境・都市計画などでも美術の分野として考えられるようになった。

本講ではそれらの造形美術の概観、実技（課題制作）を通して基礎的な絵画表現・工芸表現・デザイン表現などの創造的能力を養う。（テキストは使用せず。）

〈前期〉

●課題1. 紙による立体造形

われわれの身のまわりには様々な素材があるが、その中でも一番身近で何気なく使っている「紙」から立体造形作品をつくる。

●課題2. 直定規とコンパスを使った平面構成

単紙な構成道具である「直定規とコンパス」を使って画面を平面構成する。

〈後期〉

●課題1. 風景写生

キャンパス内の建物および植物などを、忠実に写生する。

●課題2. 切絵からパズルへ

幾何学的な基本形態である、正方形、長方形、正三角形、円の色紙を直線または曲線で切り、各部品を再構成することによって、具象的な形態をつくる。

●課題3. 一切文字

正方形の紙を何回折ってもよいが、一回だけ直線で切る。（その直線に並行にある幅を持たせて切る。）それを広げるとアルファベット、数字、カタカナの全部および漢字の一部ができる。

【授業計画】

各週とも机間巡視・プロセスのチェックにより、個別に指導・助言をする。

【評価方法】

各課題の制作過程・成果、出欠席、受講態度等により総合して評価する。

女性学・男性学

井深淳子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

本授業を通して、私達の生活を、女性学・男性学から点検し、そこに「どういう困難があり、どういう課題があるのかを具体的に知ること」をめざす。

【授業計画】

第1回 はじめに

第2～5回 家族問題

第6～9回 子育て

第10～11回 現代の病巣

第12～13回 女性が働き続けることについて

【評価方法】

期末試験、講義時に行う課題や、受講態度等、総合的に評価する。

【テキスト】

学んでみたい女性学（中田照子他著 ミネルヴァ書房）

テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

女性学・男性学

伊藤公雄

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代日本社会におけるジェンダー問題について、おもに男性学の視点から考察を加える。

はじめに ジェンダー論入門

1. 女性問題の発展
2. 現代日本の女性問題
3. 男性問題の時代
4. 作られる「男らしさ」「女らしさ」
5. 体験的男主論/働く主夫の生活と意見
6. ニッポンのお父さん/男性の育児をめぐる
7. 男性学と男性運動の展開
8. 試験

＜参考図書＞ 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社）

【授業計画】

講義を中心に、ビデオ教材なども使用しつつ進める予定である。

【評価方法】

試験によって成績評価を行う。

【テキスト】

男性学入門（伊藤公雄 作品社 1,680円）

女性学・男性学

松井やより

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀に一層進行する経済のグローバル化が女性にどのような影響を与えるのか、女性たちはどう対応するのか—日本とアジアの関係を重点を置いて、現地の最新情報を教材に参加型の授業を行なう。

【授業計画】

- 第1講 国際的に見た女性問題—北京からニューヨークへ
- 第2講 グローバル化とは何か—女性の人権の視点から
- 第3講 貧国の女性化—アジアの現実を見る
- 第4講 人身売買と日本の性産業—タイ女性支援活動
- 第5講 国際移住労働の女性化とJFC問題
- 第6講 観光開発の問題点を考える—南北問題として
- 第7講 先住民とマイノリティ女性はいま
- 第8講 熱帯雨林の破壊—アジアの環境問題
- 第9講 ODAとアジアの開発問題—日本の責任
- 第10講 「慰安婦」問題と戦後責任—「女性国際戦犯法廷」
- 第11講 現代の武力紛争と女性—戦時性暴力不処罰問題
- 第12講 暴力のない21世紀へ—グローバル市民社会とNGOの役割

【評価方法】

出席状況とレポートで評価する

【テキスト】

『グローバル化と女性への暴力—市場から戦場まで』（松井やより著 インパクト出版会）

【参考文献・資料】

- 女たちがつくるアジア（松井やより著 岩波新書）
買春社会日本へ—タイ人女性からの手紙（明石書店）
語りはじめたタイの人びと（サニッスター・エーカチャイ 明石書店）
日本のお父さんに会いたい（松井やより編 岩波ブックレット）
第三世界の農村開発（ロバート・チェンバース 明石書店）
戦時性暴力をどう裁くか（国連マクドゥガル報告全訳 凱風社）
2000年女性国際戦犯法廷の記録全5巻（緑風出版）
女たちの21世紀9号～26号（アジア女性資料センター）
ニューヨーク2000世界女性会議 「成果文書」をどう読むか（同）
買春に対する男性意識調査（同）
憎悪のナショナリズムを越えて（VAWW-NET ジャパン）

エコロジー

大島光昭

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

今や地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を保護し、環境を守る観点から地球のエコロジーを考える。

エコロジーとは、生物とそれをとりまく外界すなわち環境との関係についての総合科学である。生物の生存は均衡のとれた有機的および無機的環境の上に成り立っており、均衡の崩壊は人類を含む生物界の未来を危うくする。人類の生活および生産活動はこれらの均衡を乱して多くの生物の生存を脅かしつつあり、地球の未来に様々な問題を投げかけている。それらの状況について解説するとともに、今後どうあるべきかについて問題提起を行う。

【授業計画】

エコロジーの歴史

自然環境の保護と育成

陸地環境

水域環境

流域圏環境

化石燃料と環境

地球の温暖化

酸性雨

光化学オキシダント

浮遊粉塵

化学物質と環境

オゾン層の破壊

生物濃縮と生態系の攪乱

ヒトの健康被害

【評価方法】

出席状況と試験成績をもとに評価する。

【参考文献・資料】

環境白書（環境庁編）

伝統文化

林和利

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業計画】

第1回 授業の目的と方針を提示。

第2回 日本芸能演劇史概説。

第3回 芸能の発生について

第4回 神楽について

第5～7回 伎楽・舞楽・散楽について

第8～10回 能について

第11～12回 狂言について

第13～14回 歌舞伎について

第15回 文楽について

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

アジアの生活と文化

楊 衛平

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本は生活も文化もアジアの影響を強く受けている。特に日本と歴史的にも関係の深い近隣の国を中心にアジアの生活と文化を講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と健康
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

生命の科学

富田 武

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質や生殖と遺伝の仕組みなど、動物の生命の維持のメカニズムについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 生命の科学序説
- 第2講 生命誕生と進化
- 第3講 動物細胞の分化
- 第4講 動物体を構成する物質
- 第5講 動物の生殖と発生
- 第6講 動物の遺伝（1）
- 第7講 動物の遺伝（2）
- 第8講 動物の生命維持（1）
- 第9講 動物の生命維持（2）
- 第10講 脳の進化、成長、老化
- 第11講 動物の生殖現象操作
- 第12講 動物の遺伝現象操作
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験で総合的に評価する。

【参考文献・資料】

生命科学への誘い（大島泰郎他編 東京化学同人）
生物小事典（丘英通、岩波洋造監修 三省堂）

食品の科学

千葉善根

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学との関わり、食品のもつ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や化学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

生活の化学

八代有

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要欠くべからざるものである。身近な生活に必要な化学の知識と関係について事例をあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と病気のしくみ
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿はからだの健康情報源
8. 食べ物および体内における酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

生き物の世界 1

服部一三

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

地球上には多種多様な植物が生存しているが、これらの植物は食物連鎖の基本を成すものである。植物の生物界における位置付けや植物の成育地について紹介し、植物と人間との関わりについて認識を深める。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
2. 生物の進化
- 第2-6回 3. 植物と人の関わり
1) 農耕の始まり
2) 世界の農耕文化
3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物-作物
1) 作物とは?
2) 世界の作物の起源
- 第7-8回 5. 作物改良の原理と方法
1) 作物改良の原理
(1) メンデルの法則-遺伝学
(2) 遺伝の物質的基礎
- 第9回 (2) 作物の改良方法
- 第10回 2) 作物の改良方法
- 第11-12回 6. バイオテクノロジー
1) バイオテクノロジーとは?
2) 作物の改良とバイオテクノロジー
(1) 細胞・組織培養
(2) 遺伝子操作
(3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
(1) 倫理
(2) 安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界 2

石崎宏矩

1~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

身近に見られる昆虫や鳥などの生態のメカニズムを解説し、生命の進化について学び、動物への関心といたわりを深めたい。

【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどうしてクワシか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○生物がもっている時計(生物時計)とはどういうものか、時差ボケはどうして起こるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○アヒルのひなは生まれて初めて見た生き物を親として認識し、終生変わらない(刷り込み)。刷り込みの起こる機構は?○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命-40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命-人間を含めて-の危機について、正しく理解してもらえらるようにつとめる。

【評価方法】

出欠、レポート、期末試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを写させてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えてつてあるので、自主的に勉強してほしい。

人類と宇宙

安野志津子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえて、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

—地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために—

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて 池内 了（新書館）
- (2) 図解雑学 天文学 二間瀬敏史（ナツメ社）
- (3) 星と宇宙の物理学読本 並木雅俊（丸善）
- (4) 図解 SPACE ATLAS 宇宙のすべてがわかる本 三品隆司・河島信樹（PHP）
- (5) 見えてきた宇宙の神秘 野本陽代（草思社）
- (6) 太陽 —その素顔と地球環境との関わり— ケネス.R.ラング著 渡辺 克/桜井邦朋訳（シュプリンガー・フェアラーク東京）
- (7) 理科年表 国立天文台編（丸善）

数学の世界

岡田克彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

我々は日常生活の中で、数学の恩恵を受けて暮らしている。数学は云うまでもなく膨大な内容を持つ学問体系であるが、ここではいろいろな分野の入門的・基本的な事項を解説し、演習により少しでも多く身につけることをめざす。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 場合の数 順列・組合せ
- 2 確率
- 3 統計、偏差値
- 4 極限值
- 5 数列・級数
- 6 ベクトル
- 7 関数・グラフ
- 8 微分
- 9 積分

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生命の倫理

加藤太喜子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の医学の進歩と発達によって今や人間の生命の誕生も医学よりも倫理の問題になった。現代社会が抱えている「生命」を倫理や哲学の面から考察する。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 安楽死・尊厳死
4. 移植医療
5. 生殖医療
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

死の選択（森下直貴著 窓社）

【参考文献・資料】

生命観を問いなおす（森岡正博著 ちくま新書）
優生学と人間社会（米本昌平ほか著 講談社現代新書）

健康と医学

阪 正和

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入り、人生80年の時代になった。しかし、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助によって初めて達成される。健康を保ち、命を守り育てるにはどうすればよいか。出生から死まで分りやすく講義する。

【授業計画】

- 1) 健康とは何か
健康の定義 健康管理 生命の尊さ
- 2) 母と子の絆
母子相互作用 児童虐待
- 3) 子どもの心と身体
子どもの特徴 発育・発達 しつけ（基本的な生活習慣）
- 4) 女性の健康
思春期への対応 ビル 更年期
- 5) 生活習慣病（成人病）とは
その予防は幼児期から KYB運動
- 6) アレルギーの話
アレルギーと免疫 アレルギー病（気管支喘息など）
- 7) 食物と健康
母乳と人工乳 離乳 幼児食 食中毒
- 8) 菌の健康
菌の生理 虫菌と菌周病 高齢者と菌
- 9) 嗜好品と健康
アルコール タバコ
- 10) セクシュアリティに関わる問題
性感染症（クラミジア感染症・B型肝炎）性教育
- 11) 高齢社会の健康問題
ライフスタイルへの介入 介護 死を考える
- 12) インフォームド・コンセントとは
3大要素 ムンテラとの違い 診療情報の提供

【評価方法】

主に筆記試験によるが、講義の理解度をみるために小テストを2回、行なう。

【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著 日本小児医事出版社）

健康とくすり

永井慎一

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。薬品についての正しい知識を学び、薬品への依存性や副作用について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 受講生に「病気とくすりについて、今最も知りたいこと」をアンケート調査後、くすりとは何か、創薬の歴史から新薬開発まで解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識について、くすりのしくみと生体内運命、くすりの効くメカニズムと受容体など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識をイラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 常用される一般用医薬品（OTC）500種と医者がよく処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因と治療薬のメカニズム
- 第8回 受講生の多くが苦しむアトピー性皮膚炎や花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
- 第10～13回 検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因、予防法と現在開発中の治療薬を含めた治療薬の作用機作

【評価方法】

配布したプリントからテーマを出題し、レポートの内容で成績評価する。

【テキスト】

家庭でも保存、利用できるようA3大の両面プリントを毎回配布し（21枚）、講義する。

ライフサイクルと健康

松田秀子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルに合わせた運動と健康の維持について身近な問題をとりあげて講義する。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 身体意識
5. 肥満とやせ
6. 隠れ肥満
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪
9. 体脂肪を正しく落とす方法
10. 筋肉と運動神経
11. 健康づくりのための運動
12. Walking
13. 学生の性意識
14. 性への理解（避妊法）
15. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツ基礎

杉山 和 山本啓子 松田秀子 寺田邦昭 門間 博

1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

各種スポーツ（テニス、ゴルフ、バドミントン）をはじめ、ストレッチ体操、トレーニングなどの運動の基礎技術を習得することを目標として行う。

【授業計画】

曜日	限	担当者	種 目	
月	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	寺田	バドミントン	ゴルフ
		杉山	テニス	バドミントン
	4	寺田	バドミントン	ゴルフ
火	1	松田	テニス	ゴルフ
	2	松田	テニス	ゴルフ
	3	山本	卓球	バレーボール
		松田	バドミントン	ゴルフ
4	山本	卓球	バレーボール	
水	2	門間	バドミントン	テニス
	3	門間	バドミントン	テニス
		山本	卓球	バレーボール
	4	門間	バドミントン	テニス
木	3	杉山	テニス	バドミントン
		山本	卓球	バレーボール
		山本	卓球	バレーボール
金	2	杉山	テニス	バドミントン
	3	杉山	テニス	バレーボール
	4	杉山	テニス	バレーボール

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行います。(天候によって種目を変更する場合があります。)
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

【評価方法】

70点＝(欠席回数×2÷授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

杉山 和

1~4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種 目	
月	2	ゴルフ	・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。 ・天候によって種目を変更する場合があります。 ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
	3	ゴルフ	
木	2	ゴルフ	
金	2	バレーボール	
	3	バドミントン	
	4	バドミントン	

〔ゴルフ〕

1. ガイダンス
2. グリップ、スタンス、アドレス
- 3～6. アイアン練習 (ショート・ミドルアイアン)
- 7～8. ウッド練習 (1、3ウッド)
9. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 10～12. PW、SW、パッティング練習
- 13～14. ショートコース (グラウンドにて)
15. 学外のゴルフ練習場にて練習

〔バレーボール〕

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. バス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
- 2～3. 歴史的ゲームの追体験、ラケットワーク
4. ストローク練習 (アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習 (サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習 (オーバーヘッドを中心に)
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【評価方法】

70点＝(欠席回数×2÷授業実施回数×70点)＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

山本啓子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
火	3	バドミントン
	4	バドミントン
水	3	バドミントン
	4	バドミントン
木	3	バドミントン
	4	バドミントン

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

松田秀子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
火	1	バドミントン
	2	バドミントン
	3	テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

〔テニス〕

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

寺田邦昭

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
月	3	テニス
	4	テニス

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕

1. ガイダンス
2. ボールとラケットに慣れる
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～15. ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ応用

門間博

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

より高度なスポーツ技術の習得を目標とし、各種スポーツを半期間通して行う。

【授業計画】

曜日	限	種目
水	2	ソフトボール
	3	サッカー
	4	サッカー

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔ソフトボール〕

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）

〔サッカー〕

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

【評価方法】

70点－（欠席回数×2／授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点

スポーツ文化論

勝部篤美

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレイの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場合と同じである

【評価方法】

単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

スポーツ文化論

松田秀子

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的・社会的事実から論証し、さらにスポーツの生成・発展・衰退に関係する諸要因（政治・経済・産業・社会・教育・科学・宗教・地理的環境等）について考え、現代社会における「人間性復権」への道程を展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツ舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況とレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

コミュニケーション入門

植村勝彦 松本青也 藤井正志

オムニバス 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

(概要) コミュニケーション学部の教育について、コミュニケーション心理、ビジネスコミュニケーション、言語コミュニケーションの3領域からの学習の動機づけをオムニバス方式で行う。★(オムニバス方式)★(植村勝彦教授) コミュニケーションの問題を心理学の立場からの理解の仕方を紹介する。中でも対人コミュニケーションについて、その理論を現実社会の問題とからめて取上げる。★(松本青也兼担教授) 言語や文化の異なるもの同士が相互に伝達を図り、交流しようとする場合に生じる様々な問題について、言語特有の発想や文化のもつ価値観、更に言語教育・政策までを比較対照しながら考察する。★(藤井正志兼担教授) コミュニケーションの問題について、現実的なビジネスの立場に立って、効果的なコミュニケーションの在り方を考察する。

【授業計画】

- 第1講 導入
- 第2講 ありのままを知らせるコミュニケーション：自己開示
- 第3講 自分を演出するコミュニケーション：自己呈示
- 第4講 対人交渉のコミュニケーション：要請と承諾
- 第5講 非言語コミュニケーション：ボディールラングエージ
- 第6講 言語と思考
- 第7講 言語と社会
- 第8講 言語と教育
- 第9講 言語と文化
- 第10講 職場の活性化とコミュニケーション
- 第11講 職場における人材教育とコミュニケーション
- 第12講 企業経営のコンセプトの変化とコミュニケーション
- 第13講 国際ビジネスの場におけるコミュニケーション

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

コミュニケーション学入門—心理・言語・ビジネス—
(植村勝彦・松本青也・藤井正志著 ナカニシヤ出版)

心とコミュニケーション

江口昇勇

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

個人は意識の中心にある自我を軸とした人格と無意識にあるもうひとつの人格との、両者のバランスを生きることになる。また、人と人とのコミュニケーションの歪みが個人の病理を生じさせることが今日、明らかになってきており、そうした対人コミュニケーションのあり方も含めた、心の不思議について述べていきたい。

【授業計画】

- 1)「自己探求」は臨床心理学の基礎であり、最終目標である、2)エゴグラムによる自己理解;現実自己と5本柱の説明と各種パターンの説明、3)エゴグラムによる自己理解;理想自己と現実自己という視点からの比較、ペルソナと他者評価の差から見る人間関係の不思議、4)精神分析の基本的考え方(I);無意識の存在、局所論、三層説、防衛機制、5)精神分析の基本的考え方(II);力動論、適応論、発達と固着、6)Projectionを体験的に味わう(I);バウムテストに投影するもの(解説を理解する前後で試行)、7)Projectionを体験的に味わう(II):F-C-C-Dにより家族力動を実際に探索してみる、8)イメージ療法を体験する;感受性訓練の一環としてのイメージ体験、球体アクティブ・イマジネーション体験、体験を意識化することの大切さ、9)心理療法の実際;事例を通しての人間理解の視点、10)心理療法からコミュニティへ;スクールカウンセラーの体験、虐待へのコミュニティ・アプローチ、11)心理療法からコミュニティへ;学校、児童相談所、家庭裁判所、福祉施設等、現場でのスーパービジョンから分かること、12)現在社会における臨床家の役割;時代の要請の中で自分の臨床活動を組み立てる、13)自我の野心と魂の野心

【評価方法】

基本的には授業中に与える課題レポートによって評価する。その他、講義中、その後での質問やE-mail等での質問、コメントも評価に加える場合もある。

【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

【参考文献・資料】

なし。

言葉とコミュニケーション

張 勤

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間のコミュニケーションの手段は様々あるが、本講義では言葉によるコミュニケーションにスポットライトをあて、言葉とコミュニケーションの複雑な関係を整理し、言葉のコミュニケーションにおける役割を考える。

【授業計画】

- 第1回 言葉によるコミュニケーションとは
実践：中国語コミュニケーション（1）
- 第2回 依頼のストラテジー（1）
実践：中国語コミュニケーション（2）
- 第3回 人間関係とコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（3）
- 第4回 依頼のストラテジー（2）
実践：中国語コミュニケーション（4）
- 第5回 丁寧さとコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（5）
- 第6回 挨拶のストラテジー
実践：中国語コミュニケーション（6）
- 第7回 社会関係とコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（7）
- 第8回 質問のストラテジー
実践：中国語コミュニケーション（8）
- 第9回 言語行為とコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（9）
- 第10回 非言語コミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（10）
- 第11回 コミュニケーションにおける日本語の可能性
実践：中国語コミュニケーション（11）
- 第12回 コミュニケーションにおける中国語の可能性
実践：中国語コミュニケーション（12）

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

ビジネスとコミュニケーション

浅井敬一郎

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本企業の海外戦略の方向性をケーススタディーを通して学習。その中でビジネス交渉に関するキーポイントを解説し、生きたコミュニケーション術を考察する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～3回 企業経営の仕組み
- 第4～6回 IT化がビジネスに与える影響
- 第7～9回 日本企業の国際化と問題点
(組織感覚の違いとコミュニケーション)
- 第10～12回 企業と社会のコミュニケーション
- 第13回 まとめ

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

- いま、なぜビジネスコミュニケーションか（宮智宗七著 アルク新書）
- アジアからの視線（今田高俊・園田茂人編著 東京大学出版会）
- 国際経営（吉原英樹著 有斐閣アルマ）

コンピュータ入門

元吉忠寛 坂本剛

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータの初心者を対象にWindowsの基本操作、ワープロソフトの操作、並びにインターネットの使用法について学習する。授業のゴールは2つで、(1) レポートをワープロで作成できるようになること、(2) メールを使ってのコミュニケーションができること、である。

【授業計画】

- 第1回 Windowsの基本操作(1)
- 第2回 Windowsの基本操作(2)
- 第3回 ワープロソフトの操作(1)
- 第4回 ワープロソフトの操作(2)
- 第5回 ワープロソフトの操作(3)
- 第6回 メールの使い方(1)
- 第7回 メールの使い方(2)
- 第8回 ブラウザ使用法
- 第9回 ブラウザの活用
- 第10回 表の作成
- 第11回 図の作成
- 第12回 その他のアプリケーションの操作法
- 第13回 補足とまとめ

【評価方法】

出席、課題、レポートなどの総合評価による。

【テキスト】

未定

コンピュータ応用

松尾貴司 吉崎一人

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

データ集計、整理、分析を行うために不可欠の道具である表計算ソフトの基本的操作方法を習得する。

【授業計画】

- 1. エクセルの基本操作(1) (エクセルへのデータ入力、並びに編集。)
- 2. エクセルの基本操作(2) (コピー、移動、文字装飾等)
- 3. エクセルでの計算 (四則演算、セルを使った計算)
- 4. エクセルでの計算 (相対参照、絶対参照)
- 5. 表作成とエクセルでの印刷
- 6. グラフ作成(1)
- 7. グラフ作成(2)
- 8. 関数を使った計算(1)
- 9. 関数を使った計算(2)
- 10. 実際のデータを使ってのデータ処理(1)
- 11. 実際のデータを使ってのデータ処理(2)
- 12. 実際のデータを使ってのデータ処理(3)
- 13. 実際のデータを使ってのデータ処理(4)

【評価方法】

出席、レポートの提出、並びにテストの総合評価による。

【テキスト】

未定

プレゼンテーション

松田照美

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書の取り扱いなどについて学習する。

【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 コミュニケーションは協同作業
- 第3回 効果的な言語表現(1)
- 第4回 効果的な言語表現(2)
- 第5回 電話によるコミュニケーションの特性
- 第6回 ビジネス電話における自己表現
- 第7回 文書による表現技法
- 第8回 文書による表現
- 第9回 対人接遇の基礎-印象管理-
- 第10回 対人接遇の基礎-ビジネスマナー-
- 第11回 面接でのプレゼンテーション-先入印象-
- 第12回 面接でのプレゼンテーション-自己PR-
- 第13回 ビジネスプレゼンテーション

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによって総合的に評価する。

【テキスト】

説明・説得のプレゼンテーション技法(三浦大亮・通産資料調査会)

【参考文献・資料】

社会人のパスポート増補版(東福賢監修 嵯峨野書院)

異文化トレーニング

近藤祐一

集中 2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々がともに生活し、問題を解決するためにどのような知識・態度をもちながらコミュニケーションを取るべきかについて、ロールプレイやシミュレーションを用い分析・考察する。

【授業計画】

- 異文化コミュニケーションとは
- 授業の概要・授業の進め方について
- どう言えば...
- 言語メッセージとコミュニケーション
- 黙って座ればぴしゃりとあたる
- 非言語メッセージとコミュニケーション
- あばたもえくぼ
- 知覚
- 私の大事なもの
- 価値観とコミュニケーション-1
- 「水戸黄門」の謎
- 価値観とコミュニケーション-2
- あなたって回りくどい!
- 文化と思考方法
- 私はだれ?
- ステレオタイプ
- あなたは男だから...
- 共文化
- もう昔の私には戻れない...
- 異文化コミュニケーションと自己変化

【評価方法】

授業の特質上、出席状況および授業への参加度に重きを置く。また、ジャーナルおよび最終レポートを課す。

【テキスト】

関連する資料を適宜授業中に配布する。

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ディビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング
ハリー・T. ノリス ジェームズ・A. ジョリー ディビッド・P. レヴィ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

This course is not available for students who have completed TOEFL level II (2) or higher.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. Students combined TOEFL ITP score and attendance will be used to set grade.

A minimum TOEFL ITP score of 339 must be achieved to receive a passing grade

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ディビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング
ハリー・T. ノリス ジェームズ・A. ジョリー ディビッド・P. レヴィ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means "Test Of English for International Communication".

This course is not available for students who have completed TOEIC level II (2) or higher.

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions/responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance.

A minimum TOEIC ITP score of 220 must be achieved to receive a passing grade

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

ジョナサン・E. ロング ディビッド・P. レヴィ
シャレル・A. ラインツマ

1・2年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEFL (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEFL level III (3) or higher.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

[Assessment]

1. Assessment for students who have not completed TOEFL I (1).

TOEFL II (2) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 375 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL I (1).

TOEFL II (2) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEFL I (1) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

[Textbooks]

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

ジョナサン・E. ロング ディビッド・P. レヴィ
シャレル・A. ラインツマ

1・2年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEIC level III (3) or higher.

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the student's to the type of questions to expect in the TOEIC test.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions/responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

[Assessment]

1. Assessment for students who have not completed TOEIC I (1).

TOEIC II (2) will be based on the students TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 310 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC I (1).

TOEIC II (2) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEIC I (1) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

[Textbooks]

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEFL level IV(4) or higher.

This is a high-beginner course for the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEFL score.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. For students who have completed TOEFL I(1) or TOEFL II(2) courses.

The TOEFL III(3) grade will be based on the students classwork, homework and attendance. Assessment will not be based on TOEFL score.

Students can ,but will not have to do the TOEFL ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEFL course. A minimum score of 400 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEFL ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEIC level IV(4) or higher.

This is a high-beginner course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. For students who have completed TOEIC I(1) or TOEIC II(2) courses.

The TOEIC III(3) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEIC score.

Students can but will not have to do the TOEIC ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEIC course.

A minimum score of 375 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEIC ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEFL level V(5) or VI(6).

This is a pre-intermediate level course(TOEFL 420+) for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEFL ITP test.

TOEFL IV(4) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 422 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL II(2) or III(3).

TOEFL IV(4) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their previous TOEFL ITP total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEIC level V(5) or VI(6).

This is a pre-intermediate level course (TOEIC 425+) for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEIC ITP test.

TOEIC IV(4) will be based on the student's TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 430 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC II(2) or III(3).

TOEIC IV(4) will be based on the students' TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on improvement from their previous TOEIC ITP total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEFL level VI (6).

This is an intermediate course(TOEFL 440+) for the TOEFL test.

TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEFL score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEFL III (3) or IV (4) courses.

TOEFL V (5) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEFL score.

Students can but will not have to do the TOEFL ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEFL course, a minimum score of 400 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEFL ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

[Textbooks]

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEIC level VI (6).

This is an intermediate course(TOEIC 475+) for the TOEIC test.

TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEIC III (3) or IV (4) courses.

TOEIC V (5) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEIC score

Students can but, will not have to do the TOEIC ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEIC course, a minimum score of 375 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEIC ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

[Textbooks]

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a high-intermediate to advanced level course (TOEFL 450+) for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. Listening comprehension and reading comprehension will be the main areas of study

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEFL ITP test.

TOEFLⅥ(6) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 458 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL IV (4) or V (5).

TOEFLⅥ(6) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEFL IV (4) or V (5) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a high-intermediate to advanced level course (TOEIC 550+) for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. Listening comprehension and reading comprehension will be the main areas of study

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEIC ITP test.

TOEICⅥ(6) will be based on the students TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 520 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC IV (4) or V (5).

TOEICⅥ(6) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on improvement from their TOEIC IV (4) or V (5) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

異文化コミュニケーション

高井次郎

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本的対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 対人認知
6. ステレオタイプ
7. 人種偏見
8. 人種差別
9. 異文化間能力
10. 異文化間トレーニング
11. コミュニケーション研究
12. コミュニケーション理論
13. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

異文化コミュニケーション論（古田 暁編 有斐閣選書）

国際交流論

榎田勝利

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

経済大国となった日本は、国際社会の有力な一員として責任ある行動をとることが必要となってきた。近年の「国際化」に伴い、政治、経済、学術、芸術、スポーツなどの分野でも、盛んに国際交流が行われているが、果たして真の交流が実現しているのだろうか。主に日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のありかたについて論ずる。

【授業計画】

講義と各学生によるプレゼンテーションにより授業を展開する。

- 1) 戦後の国際交流の軌跡
- 2) 日本の国際交流の現状と課題
 - ・多様化、複雑化する国際交流
 - ・自治体主導の地域の国際化
 - ・民間非営利活動の社会的認知
- 3) NGOとボランティア
 - ・国連組織とNGO
 - ・国際ボランティア
- 4) 交流相手から見た国際交流
- 5) 国際交流活動を担う専門的な人材育成
 - ・プログラム・オフィサーと求められる能力
- 6) 多文化共生社会と多文化共生能力
 - ・多文化共生社会とは
 - ・求められる多文化共生能力
- 7) よりよい地球市民社会の形成を目指して

【評価方法】

課題研究レポートおよび平常点にて評価する。

【テキスト】

国際交流入門（榎田勝利監修 アルク）

【参考文献・資料】

実践国際交流（大阪国際交流センター発行）
在日外国人（新版）（田中 宏著 岩波新書）
外国人労働者から市民へ（宮島・梶田編 有斐閣）
異文化接触と日本人（横田・堀江編 至文堂）
ボランティアが変える世界（ケン・アレン著 アルク）

メディア論

遠藤雄久

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本構の目的は、マルチメディア時代といわれる現代のメディア状況をよりよくとらえるために、歴史社会的視点に立ってメディアと人間・社会の関わり方を振り返って見ようというものである。十九世紀後半に出現した電信、電話から始めテレビジョンそしてパーソナルコンピュータに至る電子メディアの発展の過程を、人間や社会がどのようにメディアをデザインしてきたかという観点からたどっていく。

【授業計画】

- 第1回 総論
- 第2回 新聞の誕生と発展
- 第3回 新聞ジャーナリズム
- 第4回 電信と電話の発明
- 第5回 ラジオ放送の開始
- 第6回 写真技術の開発
- 第7回 映画の誕生
- 第8回 ハリウッド映画と観客
- 第9回 映画ソフトの多様化
- 第10回 テレビ放送の誕生と発展
- 第11回 デジタル放送
- 第12回 メディアの境界領域
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合判断する

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際関係論

明石陽至

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講座は国際関係論入門科目である。多様な国際関係を国家・民族の利害・戦略が交錯する国際社会の動きや構造を外交・国力・経済など視点から国際関係理論と仕組を体系的に解き明す。

【授業計画】

- 第1講 国際関係論のアプローチ
- 第2講 国家と国際体系
- 第3～4講 国家の能力と影響力
- 第5～6講 外交政策の決定
- 第7～8講 外交政策の手段
- 第9～10講 各国の外交
- 第11講 国際平和の維持
- 第12講 南北問題・国際平和へのアプローチ

【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの討論の積極的参加等を総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

【テキスト】

新国際関係論 (花井等著 東洋経済新報社)

異文化教育論

霜田一敏

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を国際理解教育の観点から具体的に論究する。

比較教養論

渡辺かよ子

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

言語を中心とする「教養」に関する各国の思想史を概説し、国際化・高齢化・情報化の進展の中で今後の自己教育としての「教養」の在り方、普遍的教養の有無、コミュニケーションの基礎としての「教養」の問題を論じる。

【授業計画】

- 1：古代ギリシャ時代の教養と人間観
- 2：中国の伝統的教養と人間観
- 3：インドの伝統的教養と人間観
- 4：キリスト教の人間観と教養
- 5：西洋近代思想の人間観と教養
- 6：近現代日本の修養論と教養論
- 7：教養とコミュニケーション

【評価方法】

平常レポートと討議

【テキスト】

地球市民を育てる教育（箕浦康子 岩波書店）

【参考文献・資料】

教養とヒューマニズム（村瀬裕也 白石書店）
ディスタンクシオン（ブルデュー 藤原書店）
新しい教養を拓く（筒井清忠編 岩波ブックレット）
知と教養の文明学（梅棹忠夫他編 中央公論社）
東洋と西洋（レーヴィット 未来社）
美徳なき時代（マッキンタイア みすず書房）
知の文化と型の文化（鹿毛誠一 創文社）

比較文化論Ⅰ（日・米）

松本青也

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価

【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

比較文化論Ⅱ（日・欧）

トマー・トドロヴィック

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

西ヨーロッパの主な国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化活動の状況、問題点に関する最近のデータを利用して比較を行ない、異文化（ヨーロッパ文化）への理解と関心を深める。

【授業計画】

西ヨーロッパ諸国の文化の特色について、各種データを用いて日本文化と比較対比しながら、次の順序で概説し、ヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

- (1) フランス文化の特色
- (2) イギリス文化の特色
- (3) ドイツ文化の特色
- (4) イタリア文化の特色
- (5) スペイン文化の特色

【評価方法】

レポートにより評価する。

【テキスト】

特に指定しないが、授業時に参考図書、参考資料について指示する。

比較文化論Ⅲ（日・アジア）

馮富榮 尹大辰

オムニバス 2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

（概要）アジア諸国の中でも、特に日本と深い関りのある中国と韓国を取り上げ、歴史認識や政治までを含めた広範囲な文化を日本と比較する。

（オムニバス方式）

（馮富榮兼助教授）日本と中国の文化・習慣の違いについて説明する。主として、両国の政治・食文化、風俗習慣・建築文化、漢字の文化、交流文化及びお茶とお酒の文化などをテーマにし、講義し、比較する。

（尹大辰兼任講師）「日韓両国の歴史認識への接近」をテーマに韓国近代史に焦点をあて、まず自らを点検し、共有する歴史認識の確立をめざし、今後のあるべき姿を模索していこうとするものである。

【授業計画】

この授業は、学生のアジア諸国に対する真の理解を深めることを目的としているので、中国や韓国の文化習慣を多面的に紹介する。授業は、具体的に以下の内容を中心に展開していく予定である。

- ①中国の現代社会と風俗習慣
- ②何千年の歴史を持つ中国の漢字文化
- ③世界でも大変評判になっている中国の食文化
- ④中国の政治制度と教育事情
- ⑤中国の古都の紹介
- ⑥日・中の文化交流史
- ⑦中国に関する全体的なまとめ
- ⑧日本と朝鮮半島との文化交流（古代）
- ⑨ （中世）
- ⑩ （近代）
- ⑪朝鮮半島の自然と文化・風土
- ⑫韓国の家族制度と姓・本貫
- ⑬韓国の社会生活から見た文化比較

【評価方法】

レポート及び平日の出席状況などを考えて、総合的に判断する。

【テキスト】

自作教材

【参考文献・資料】

金函基監修図説「韓国の歴史」河出書房新社

比較文化論Ⅳ（日・中東）

岡真理

集中 2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

アラビア語という言語の問題、その歴史言語学的性格と社会言語学的特徴、「小説」という近代的認識の枠組みの問題、そして主体としての民族あるいは女性とその表象の問題等を主要なテーマとし考察する。

レポート作成法

植村勝彦 江口昇勇 二宮昭 森久美子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専門の講義科目、研究法演習科目の開始とともに、レポートを作成する機会がきわめて多くなる。最終目標の卒業論文作成のためにも、これは必須のスキルであり、テーマの設定、資料の検索・収集、論理の構成、文章表現、図表の作成などの要点を講義と実践によって学習する。

【授業計画】

全体構想として、授業4コマ分を1セッションとし、3セッションの課題と冬休みの宿題から講義を組み立てる。1回目はオリエンテーションとして「レポート作成とは」と題して講義を行い、同時にグループ分け等を行う。2回～5回は課題図書「子どもの虐待」（岩波ブックレット）を熟読吟味した上で、指定された視点からの討論を行い、それを記録に残し、最終的には客観性の高いまとめに仕上げるまで推敲する作業を行う。6回～9回は実験法のレポートであり、ミュラー・リヤーの錯視実験を行い、そのデータに基づきレポートを作成する。10回～13回は、信号無視行動というテーマを設定し、そうした行動が起こる原理をあれこれ仮説を立ててみる。次にそれらの仮説を実証するための方法論を組み立て、実際に観察を実施して、結果を考察するまでのレポート作成を行う。なお冬休みは課題として、「子どもの生活実態についてのインタビュー・レポート」を作成することになっている。

【評価方法】

評価は、出席およびレポートの提出に基づいて行う。

【テキスト】

子どもの虐待—その権利が虐待されるとき—（森田ゆり著 1995 岩波ブックレット No.385）
その他の使用教材は、授業中に指示する

【参考文献・資料】

大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（吉田建正著 1997 ナカニシヤ出版）

英語論文講読入門Ⅰ

キース・イーズリー

1年 前期 必修 2単位

【Course Content】

英語読解の基礎を養成する。コンピュータ活用、インターネット活用においても、また、3年次以降の研究論文の講読においても、英語読解能力は不可欠であり、この能力の個人差を無くすように、理解度をチェックしながら基礎トレーニングを行う。

【Schedule】

In the first semester the course will focus on psychology-related vocabulary, techniques of reading, asking as well as answering key questions, and showing understanding through summarising short passages of academic text.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and regular class reading tests.

【Textbooks】

None.

英語論文講読入門Ⅰ

ベヴァリー・F・M. カレン

1年 前期 必修 2単位

【Course Content】

英語読解の基礎を養成する。コンピュータ活用、インターネット活用においても、また、3年次以降の研究論文の講読においても、英語読解能力は不可欠であり、この能力の個人差を無くすように、理解度をチェックしながら基礎トレーニングを行う。

【Schedule】

The course will begin with an introduction to the language and register usually found in academic reading. Using paragraphs, and later, longer passages, the basic skills of accurate understanding and rephrasing will be practised using a variety of academic reading material in English, of interest to the students.

【Assessment】

Assessment will be ongoing and based on attendance, effort, and ability. Short reading tests to check progress will be conducted in class.

【Textbooks】

No textbook is required.

英語論文講読入門Ⅰ

ディビッド・C. ダイカス

1年 前期 選択 2単位

【Course Content】

Academic reading involves a knowledge of the common patterns used in different types of academic writing. It is a specialized type of writing and requires specialized knowledge. In this course students will read short texts and articles that exemplify the basic structure and style common to academic reading. Efforts will be made to use materials that match the students' major area of study (i.e. selections from psychology texts). Vocabulary development will be an important part of the course, as well as timed reading using SRA specialized reading materials.

【Schedule】

The type of material and order in which they are studied will be determined after an initial general reading level test.

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and the quality of work done in class, 2) regular quizzes, and 3) a final examination.

【Textbooks】

To be announced

英語論文講読入門Ⅱ

キース・イズリー

1年 後期 必修 2単位

【Course Content】

講読入門1に続いて、平易な科学論文の講読を通して、学生個々の英語読解能力の向上に努める。語彙の習得、重要な語句・文の構造に対する理解を深めながら授業を進める。

【Schedule】

In the second semester longer passages will be used to further develop vocabulary and comprehension skills. Knowledge of the subject area will be deepened and critical/comparative skills will be emphasised.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and regular class reading tests.

【Textbooks】

None.

英語論文講読入門Ⅱ

ベヴァリー・F・M. カレン

1年 後期 必修 2単位

【Course Content】

講読入門1に続いて、平易な科学論文の講読を通して、学生個々の英語読解能力の向上に努める。語彙の習得、重要な語句・文の構造に対する理解を深めながら授業を進める。

【Schedule】

The course will continue to increase the length and level of difficulty in a selection of academic reading material. Focussing on scholarly texts, students will practice reading to recognize essential words and phrases and deepen their understanding.

【Assessment】

Student assessment will be ongoing, and based on attendance, effort, and ability. Reading tests to check progress will be conducted throughout the course.

【Textbooks】

No textbooks is required.

英語論文講読入門Ⅱ

ディビッド・C. ダイカス

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

In the second semester the emphases on the specialized aspects of academic will be continued. In this course students will continue to read short texts and articles that exemplify the basic structure and style common to academic reading. Efforts will be made to use materials that match the students' major area of study (i.e. selections from psychology texts). Vocabulary development will be an important part of the course, as well as timed reading using SRA specialized reading materials.

【Schedule】

The type of material and order in which they are studied will be determined after consideration of the students' progress in the first semester of the course.

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and the quality of work done in class, 2) regular quizzes, and 3) a final examination.

【Textbooks】

To be announced

英語論文講読Ⅰ

坂田陽子 杉本助男 新美明夫 西出隆紀

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

3年生以降の専門教育を受けるのに必要な英語読解力の基礎を養成することをめざす。心理学を中心とするやさしい科学論文をテキストとしてとりあげ、論文英語に固有の表現や学術用語に慣れることが目標となる。

【授業計画】

予めプリントを配布し、毎回、定められた範囲の英文を講読する。

【評価方法】

読解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

【テキスト】

プリント配布。

英語論文講読Ⅱ

坂田陽子 杉本助男 新美明夫 西出隆紀

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

講読Ⅰに続いて、心理学を中心とする研究論文を読みこなす力の養成をめざす。比較的新しいトピックスをとりあげている実験論文や調査論文をテキストとして、そのスタイルに慣れるとともに読解スピードをあげることが目標になる。

【授業計画】

予めプリントを配布し、研究論文の内容を理解しながら講読する。

【評価方法】

英文理解力の平常点、出席状況、テストなどによる。

【テキスト】

プリント配布。

研究法実験演習Ⅰ・Ⅱ

清水 遼 吉崎一人 木暮照正 赤嶺亜紀

2年 前期 選択 4単位

【授業の概要】

- I：生理心理学の領域で扱われる生理学測定法を学習する。種々の心理状態で脳波や自律神経ポリグラフの測定や分析法について習得させる。
- II：認知心理学の領域で扱われる心理学実験の手法を学習する。記憶研究等の基礎的実験を通じて実験の計画と実施法データの分析法、結果のまとめ方等を習得させる。

【授業計画】

実習は小グループ単位でローテーションしながら行い、総実習回数のうち半数を生理心理学、残りの半数を認知心理学の学習に充てる。生理心理学ではさらに事象関連電位と自律神経ポリグラフに分かれて実習する。

【評価方法】

生理心理学、認知心理学のそれぞれでレポートの課題が与えられる。それらのレポートの評点に遅刻、欠席などを考慮した総合評価を行う。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

研究法観察演習Ⅰ・Ⅱ

斎藤和志 松尾貴司 中藤 淳

2年 前期 選択 4単位

【授業の概要】

I：コミュニケーション行動・心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。その研究方法の一つである観察法の基礎技法（自然的観察、参加的観察、実験的観察など）を実際に体験しながら学ぶ。演習Ⅰでは問題設定、データ収集について学習する。

II：研究法観察演習Ⅰで得られたデータについて、分析し、報告書を作成するといった一連の研究プロセスを学習する。

【授業計画】

IとIIは連続して受講すること。単独の履修は認められない。前半は観察法の基礎技法を広く学習する。後半はグループ単位に分かれ、具体的なテーマに沿って個別研究を行い、その中で観察法の実践について理解を深める。必要に応じてビデオなどの視聴覚機器の使用法の実習を行ったり、コンピュータを使用しての分析を行う。

1. 授業全体のオリエンテーション、諸注意
2. 観察法概説
3. 観察法基礎実習
4. 問題の設定
5. データ収集法
6. データ収集
7. データ分析
8. 報告書の作成と研究発表

【評価方法】

授業への参加態度と、数本のレポートによる総合的評価。

【テキスト】

使用せず。

研究法調査演習Ⅰ・Ⅱ

新美明夫 森久美子 水野 智

2年 後期 選択 4単位

【授業の概要】

I：コミュニケーション行動などの実証的研究を進めていく際の研究方法の一つである、質問紙調査法の演習を行う。調査テーマの検討から始まり、調査票の作成と印刷、調査の実施等を学習する。

II：研究法調査演習Ⅰで得られた調査データについて、データ入力・集計・分析・調査レポートの作成の一連のプロセスを少人数のグループ単位で行い、調査法の科学的方法論を身につける。

【授業計画】

I・IIは一体の授業であり、下記のスケジュールにしたがって展開される。片方だけの履修はできないので注意されたい。

1. 調査テーマの検討
 - (1) グループ分けと調査テーマ案の提出
 - (2) 文献の収集
 - (3) 調査目的の明確化・研究仮説の設定
2. 調査票の作成
 - (1) 測定尺度の作成
 - (2) 調査票の作成
 - (3) 調査票の印刷
 - (4) 調査の実施
3. データの整理と分析
 - (1) 調査票のコーディングとデータ入力
 - (2) データの集計と分析
 - (3) 分析結果の整理
4. 調査報告書の作成
 - (1) 調査報告書の書き方
 - (2) 「問題」「方法」「結果」「考察」の作成
 - (3) 報告書の完成・提出

【評価方法】

研究の成果をグループ報告書にまとめ上げる。この報告書の内容および演習への参加態度を評価の対象とする。

【テキスト】

使用しない。

研究法面接演習Ⅰ・Ⅱ

西出隆紀 古井 景 元吉忠寛

2年 後期 選択 4単位

【授業の概要】

I：心理学的な研究方法の一つである「面接法」の基礎を学び、実習を行う。内容は調査面接法と臨床面接法とに大別され、演習Ⅰでは研究史から問題意識を明確に構成し、厳密な方法でデータを収集した上で、統計的な手法を中心に分析を進め、考察を加える。

II：臨床面接法について心理臨床現場で行われるカウンセリングをはじめとする心理療法の基本的態度と基礎知識を身につけていくことを学習する。

【授業計画】

- 第1回 演習計画（今後の予定）
グループ分け・調査テーマの討議
 - 第2回 調査テーマの決定（要旨提出）
 - 第3回 文献収集・調査目的の明確化
 - 第4回 質問項目の検討
 - 第5回 予備面接と項目の再検討
 - 第6回 面接実施
 - 第7回 評定・コード化基準の検討
 - 第8回 「問題」「方法」の下書き提出
テープ起こし・記録・データ入力
目検・チェイン（第9回迄に完了）
 - 第9回 データ分析法の検討および分析処理
 - 第10回 データ分析処理（続）
および結果の検討（解釈）
 - 第11回 報告書作成（「結果」「考察」）
 - 第12回 報告書作成（続）
（「結果」「考察」下書き提出）
 - 第13回 報告書作成（修正）
 - 第14回 臨床面接法について（その1）
 - 第15回 臨床面接法について（その2）
- （グループ研究の進み具合で14、15の内容が変更されることもある）

【評価方法】

成績評価はグループレポートの出来による。その他、個人のグループへの参加態度や出欠を考慮する。

【テキスト】

使用テキストなし。

統計基礎

坂田陽子

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

コミュニケーション行動・心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。多くの場合、得られた資料・データは数値として扱われる。この数値はどのような特徴をもち、そこからどのようなことが読みとれるのであろうか。こうした数値を扱う際に必要となる統計的な考え方、方法の基礎について講義する。また、各内容の確認の意味で、必要に応じて小テストやレポートを課すことがある。

【授業計画】

1. グラフの見方
2. 質問紙（アンケート）を作ろう
3. 質問紙を集計しよう
4. 相関関係を調べよう（その1）
5. 相関関係を調べよう（その2）
6. 平均点を比べよう（その1）
7. 平均点を比べよう（その2）
8. 名義尺度データの処理
9. 試験

【評価方法】

定期試験による。また、前述の小テストやレポートを評価の対象にすることがある。

【テキスト】

ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法（田中敏・山際勇一郎著 教育出版）

データ解析 I

新美明夫 森久美子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

統計パッケージソフトを利用して、複雑で冗長なデータを適切に集約し、そこに含まれる情報について正しく解釈・推論する能力を身につける。具体的にはデータ解析の基礎的技法を習得することを目標とし、質的データと量的データのそれぞれについて、a) データの集約を適切に行えること、b) 変数の連関を数量的に検討できること、の2点を主な目標とする。

【授業計画】

1. イントロダクション
 - (1) データの概念
 - (2) 質的データと量的データ
 - (3) データのコーディングと入力
2. 質的データの分析
 - (1) 質的データの基本集計
 - (2) 質的データのクロス集計
 - (3) カイ二乗検定
3. 量的データの分析
 - (1) 量的データの基本統計量
 - (2) 量的データのグループ別集計
 - (3) t 検定
 - (4) 一元配置分散分析
 - (5) 相関と回帰
4. 統計パッケージとデータ解析
 - (1) 統計パッケージを使ったデータ解析
 - (2) アプリケーション間の連携

【評価方法】

単位認定試験の成績で評価する。

【テキスト】

未定

心理学概論 I

松尾貴司

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学の研究対象および研究方法の特徴を明らかにすることによって、行動科学としての心理学を展望する。心理学概論 I では、感覚、知覚、記憶、学習、思考などの人間の基本的な心理過程を実験心理学に基づく知見を中心に講義する。

【授業計画】

- 1) 心理学の課題と方法
- 2) 感覚と知覚
- 3) 発達と行動
- 4) 思考と学習
- 5) 動機づけと行動

各トピックスについて2～3回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

人間行動の心理学 (原岡一馬編著 ナカニシヤ出版)

心理学概論Ⅱ

坂田陽子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学概論Ⅰに引き続き、心理学の研究対象および研究方法の特徴を明らかにすることによって、行動科学としての心理学を展望する。心理学概論Ⅱでは、社会心理学、人格心理学、発達心理学などの分野における知見を概観する。

【授業計画】

講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。およその計画は以下の通り。

1. パーソナリティ
2. 態度
3. 対人認知
4. 集団認知
5. 社会的推論
6. 対人関係とコミュニケーション
7. 対人コミュニケーションのメディア
8. 自己呈示
9. 自己開示
10. 他者の影響
11. 集団の構造と機能
12. 集団内の相互作用
13. 試験

【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

人間行動の心理学（原岡一馬編著 ナカニシヤ出版）

脳とコミュニケーション

杉本助男

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

対人コミュニケーション場面における心理的諸現象を脳の機能から解明することを目的とする。特に左右脳半球と対人行動、大脳扁桃系機能と情動行動、顔面筋活動と情動表出・認知などについて詳しく解説する。

生理心理学

清水 遼

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヒトや動物の行動の諸側面を脳を中心とする中枢神経系や自律神経系の構造や機能とに対応づけて考察することで心理的側面と生理的側面間の相互関係の理解をめざす。また、これまでになされてきたモデル動物の行動と脳内物質の関連からヒトの種々の疾患との対応関係についても考察する。

【授業計画】

1. はじめに
2. 中枢神経系の構造と機能
3. 自律神経系の構造と機能
4. ニューロンとグリアの構造変化
5. ニューロンの電気的伝導と化学伝達
6. 記憶と脳
7. ストレスと脳
8. 心の異常と脳内物質
9. 左右の脳（言葉と感情）
10. 脳のリズム
11. 脳のエイジング
12. まとめ

【評価方法】

学期末試験の成績で評価する。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

認知心理学

吉崎一人

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

1970年代から盛んになってきた認知心理学の概説をする。人間を一つの情報処理系とみなして、人間が外界の情報をどのように取り入れて処理し、出力するのかについて学ぶ。具体的には、人間の知覚、記憶活動、知識構造やその利用、思考活動、意識と無意識の情報処理、イメージの処理、日常生活の認知活動等に関する情報処理モデルについて紹介する。

【授業計画】

1. 記憶のボックスモデル①
（トップダウン、ボトムアップ処理・感覚記憶）
2. 記憶のボックスモデル②（短期記憶、長期記憶）
3. 処理水準と情報の精緻化
4. 符号化と検索の関係
5. 知識と表象①（意味記憶の構造と語の処理）
6. 知識と表象②（イメージ）
7. 潜在記憶と顕在記憶
8. 注意と自動制御
9. 日常生活の認知① 目撃者証言と偽りの記憶
10. 日常生活の認知② 推論
11. 日常生活の認知③ メタ認知
12. テスト

【評価方法】

期末テスト、中間テスト、さらには実験への参加（被験者）によって行われる。

【テキスト】

使用せず。授業ごとにプリントを配布する（大きさはA4）。

空間認知の発達

坂田陽子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間と環境とのコミュニケーションの基本にある空間認知の基本的諸能力が誕生から大人になるまでにどのように発達していくか（個体発生）を論ずるとともに、大人の日常生活空間の分節化が時間とともにどのように変わるか（微視発生）についても考察する。移動空間のイメージ形成、年齢にともなう地理的空間知識の増大、都市のイメージを規定する諸要因の検討、などが具体的に取り上げるテーマである。

【授業計画】

1. 空間認知とは
2. “目”で空間を認知する
3. “耳”で空間を認知する
4. 乳児の空間認知1 —乳児の空間のとらえ方—
5. 乳児の空間認知2 —視知覚の発達と空間認知—
6. 幼児の空間認知1 —2次元空間の認知—
7. 幼児の空間認知2 —探索行動—
8. 幼児の空間認知3 —他者視点獲得—
9. 成人の空間認知1 —方向感覚—
10. 成人の空間認知2 —生活空間と空間認知—
11. 成人の空間認知3 —空間認知とイメージ—
12. 障害および加齢と空間認知
13. 試験

【評価方法】

出席状況、レポートの提出および定期試験の総合評価による。その他、講義中の発表や質問など、積極的な授業参加態度も評価に加える場合がある。

【テキスト】

必要な資料を授業中に配布する。

【参考文献・資料】

空間に生きる—空間認知の発達の研究—（空間認知の発達研究会編 北大路書房）

言語行動

二宮 昭

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間にとって最も重要なコミュニケーション手段となっていることばについて、どのような特性を有しているのか、他のコミュニケーション手段と比較しながら検討し、また、日常の様々な場面における言語行動について、その実態を明らかにするための分析の枠組みについて考察する。

【授業計画】

第1～6回 「ことば」とは何か

- 1) 人間の「ことば」と動物の「ことば」
- 2) 「ことば」のもつ特性-二重分節について
- 3) 「ことば」の恣意性

第7～12回 日常の言語行動の分析

- 1) 「ことば」を数える
- 2) 日常の使用語彙
- 3) 「ことば」の機能-伝言板のメッセージ分析

第13回 試験

【評価方法】

学期末に行う筆記試験による。

【テキスト】

使用しない。適時参考資料を配付する。

ノンバーバル行動

松尾貴司

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ジェスチャー、表情、視線、接触などのヒトのコミュニケーションにおける非言語的なシグナルの諸相について概説し、個々のノンバーバル行動について、発達、因果、機能、進化といった行動学的な視点から論ずる。

【授業計画】

- 1) ノンバーバル行動とは
- 2) ノンバーバル行動の研究方法
- 3) ジェスチャーの分類と文化的異変
- 4) 表出としての表情と制御された表情
- 5) 視線の機能と規定因
- 6) パーソナルスペースと空間行動
- 7) ノンバーバルコミュニケーション

各トピックスについて1～2回の講義をおこない、最終講に試験をおこなう予定。

【評価方法】

学期末におこなう筆記試験により評価する。レポートの提出を課した場合は、これを加算する。授業への出席状況および受講態度が不良の者は減点する。

【テキスト】

使用しない。

福祉社会心理学

植村勝彦

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今日ほど家族と地域が福祉の問題と密接に関わり合っている時代はない。こうした現代社会の問題を、社会心理学およびコミュニティ心理学の視点を導入して、福祉社会心理学という発想で考察する。

【授業計画】

1. 導入
2. 歴史、理念、目標
3. 予防と介入
4. エンパワーメントとセルフヘルプ
5. ボランティア活動の心理的側面
6. コミュニティにおけるヒューマンサービスとヘルスケア
7. コミュニティづくりと社会変革

【評価方法】

学期末の単位認定試験による。

【テキスト】

毎回配布するプリントにより講義・解説する。

対人行動論

齋藤和志

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現実の対人関係にはさまざまな問題が存在する。それらの中にみられる共通した特徴や法則性を、社会心理学的観点から考察する。社会の中で暮らす個人がどのように自己や環境をとらえているかといった社会的認知の問題、社会的な事象や他者に対してどのような心の姿勢をもっているかという態度の問題や対人的欲求の問題などを取り上げる。

【授業計画】

講義を行うが、必要に応じてレポートを課す場合がある。また、調査や実験の被験者としての体験も重視する。

1. 対人行動への社会心理学的接近
2. 社会的認知から対人認知へ
3. 対人行動と帰属過程
4. 帰属の諸理論（その1）
5. 帰属の諸理論（その2）
6. 社会的態度の諸側面
7. 態度の変容と説得
8. 社会的態度から対人的態度へ
9. 対人的相互作用の捉え方
10. 社会的交換と対人関係
11. 他者への志向と対人行動
12. 社会への志向と対人行動
13. 試験

【評価方法】

試験による。レポートや調査・実験の被験者体験を成績に加味する場合には事前に通告する。

【テキスト】

使用しない。

集団行動論

森久美子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

われわれの生活は、さまざまな集団や社会の中で営まれている。そうした集団や社会で発生するダイナミックスについて、社会心理学的理論をもとに解説し、個人と集団・社会の相互作用過程について考察する。意思決定や課題遂行における集団内の影響過程、集団間の葛藤と協調、個人行動と集合行動の関連、などの問題を取り上げて論じる。

【授業計画】

1. ヒトの社会性
2. 個人と社会環境（1）
3. 個人と社会環境（2）
4. 集団に関する理論
5. 集団内の影響過程（1）
6. 集団内の影響過程（2）
7. 集団内の影響過程（3）
8. 集団における適応（1）
9. 集団における適応（2）
10. 集団における適応（3）
11. 再び、集団に関する理論
12. 三たび、集団に関する理論
13. まとめと展望

【評価方法】

テストの成績による。

【テキスト】

複雑さに挑む社会心理学—適応エージェントとしての人間—（亀田達也・村田光二著 有斐閣）

パーソナルメディア論

新美明夫

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

個人が手軽に情報を受発信できるパーソナルメディアの浸透は、既存の人的ネットワークと重なりつつも、新たな人的ネットワークを形成している。各種のパーソナルメディアが既存のネットワークに及ぼす影響や、それらを介して形成される新たなネットワークにおいて展開される人間関係やコミュニケーションについて考察する。

【授業計画】

1. パーソナルメディアとコミュニケーション
導入／メディア・コミュニケーションの広がり／メディアとコミュニケーション形態
2. 対面とメディアコミュニケーション
電話の社会心理学的研究／会議の社会心理学的研究／ネットワークの社会心理学的研究／コーヒとビスケット神話
3. ワープロとコミュニケーション
活字(印刷)文字の変化／手書き文字の変化／文字の種類と印象
4. 電話とコミュニケーション
電話利用と人間関係／移動体通信の普及／移動体通信とコミュニケーション
5. コンピュータとコミュニケーション
CMC (Computer Mediated Communication) の現状／ネットワーク上の顧客間インタラクション／匿名性とコミュニケーション

【評価方法】

試験による。

【テキスト】

使用しない。

マスコミュニケーション

遠藤雄久

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

マスコミュニケーションの機能、マスメディアの利用、マスの送り手と受け手、ジャーナリズムと世論などについて概説する。また、日本のテレビ放送の歩みをたどり、21世紀の映像メディアの将来像を考える。

【授業計画】

- | | |
|------|--------------------|
| 第1講 | 総論 |
| 第2講 | 新聞—新聞の種類、組織と取材 |
| 第3講 | 新聞—通信社、新聞経営と製作の仕組み |
| 第4講 | 新聞—電子新聞、新聞の読者 |
| 第5講 | 放送—放送制度と事業者 |
| 第6講 | 放送—番組制作・編成 |
| 第7講 | 放送—視聴者 |
| 第8講 | メディア境界領域—概観 |
| 第9講 | インターネット |
| 第10講 | メディアの一体化 |
| 第11講 | 映画—映画産業と観客 |
| 第12講 | 映画ソフトの多重使用 |
| 第13講 | まとめ |

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合判断

【テキスト】

授業中に指示

分析心理学

江口昇勇

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理療法の理論のひとつにC.G.Jungの分析心理学があり、そこではFreudの精神分析学と同様、無意識の存在を仮定している。しかし分析心理学では個人無意識の深層に普遍的無意識を仮定し、その世界を意識化する技法として夢分析や箱庭、芸術療法等イメージを介在させることが特徴である。言語化の困難なこの領域を、体験的に理解できるよう心理テストを行ったり、グリム童話等、親しみの持てる素材からイメージの共有化を行うなど、様々な媒体を駆使して分析心理学の本質を伝える。

【授業計画】

- 1) こころのタイプ論 (1) ; 一般的態度と心理機能
- 2) こころのタイプ論 (2) ; 内向-外向×4の心理機能
- 3) 言語連想検査とコンプレックス (1)
- 4) 言語連想検査とコンプレックス (2)
- 5) 元型論 (1) ; 普遍的無意識; グレートマザー
- 6) 元型論 (2) ; 影
- 7) 元型論 (3) ; アニマ・アニムス、永遠の少年と老賢者
- 8) グリム童話からの知見 (1) ; 女性性の発達 I
- 9) グリム童話からの知見 (2) ; 女性性の発達 II
-竹取物語との比較から見る東洋と西洋-
- 10) グリム童話からの臨床知見 (3) ; 共依存という現象
- 11) グリム童話からの臨床知見 (4) ; 思春期について
- 12) シンボルと夢の働き; 無意識のメッセージをどう読みとるか
- 13) 夢分析の体験; こころを耕すこと、駄目な自分をこそ受け入れることの苦しさ (悟りの心理学)

【評価方法】

評価は原則として授業中に課題として出すレポートによる。ただ、授業中に行われる質問やメール等でのコメントなどで質の高いものは評価の対象としたい。

【テキスト】

ユング心理学入門 (河合隼雄著 培風館)

【参考文献・資料】

なし

心理療法

西出隆紀

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

数多く存在する心理療法の基礎理論について講義をする。精神分析各学派、現象学的人間学派、家族療法・短期療法など各学派の発達論、治療論、症候論、人格論などを具体的な事例も交えながら紹介し、心理療法というもののイメージをつかめるように説明していきたい。

【授業計画】

1. 心理臨床入門
心理臨床とは、心理臨床と人間関係
2. 古典的精神分析
精神分析以前、無意識の発見、夢、心的構造論、精神性発達論、神経症総論、治療論
3. 対象関係論
Klein,M.の早期対象関係論、Fairbairn,W.R.D.のパーソナリティ構造論、Guntrip,H.のシゾイド論、Winnicott,D.W.の理論、Bion,W.R.の考え
4. 自我心理学
自我の適応、防衛機制、分離個体化過程
5. 自己心理学 (Kohut, H.の理論)
6. 現象学的人間学派
Rogers, C.R.の来談者中心療法、Gendlin, E.T.の体験過程療法
7. 家族療法
家族システム論、Erickson, M.の影響、二重拘束理論、構造派、戦略的家族療法、解決志向型短期療法

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可 (コピーを持ち込んだ場合は失格) とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

臨床心理学

古井 景

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

臨床心理学の基礎として、様々な治療理論とその背後にある基本的な人間観の差異を明確化する。次に臨床心理学が対象とする人々のアウトラインを示したい。発達の観点から乳幼児から児童期、思春期、青年期、成人期から熟年期までの発達課題とそれが挫折した場合の障害、そして、障害の種類の違いによる臨床心理学的アプローチの違いを提示していく。

【授業計画】

資料配付により講義をすすめる。

- ・精神力動とストレス
- ・意識的行動と無意識的行動、身体症状化
- ・自我機能と防衛機制
- ・乳幼児期の母子関係、父親の関わり（分離個体化理論）
- ・錯覚と脱錯覚：空想と現実
- ・前エディプス期からエディプス期へ
（二者関係から三者関係へ）

<事例>

- ・幼児期不適応：夜尿、夜驚、自家中毒、チック
- ・学校生活不適応：不登校、心因性視力障害・頭痛腹痛
- ・家庭内暴力
- ・摂食障害：拒食症・過食症
- ・児童虐待：子供を虐待する母親、虐待される子供
- ・職場不適応：長期欠勤、うつ病
- ・更年期うつ病、老年期うつ病
- ・薬物依存：有機溶剤、麻薬・覚醒剤、アルコール
- ・役割と責任を考える：
 女児として・女性として・妻として・母親として、
 男児として・男性として・夫として・父親として

【評価方法】

学期末の試験、または、レポート提出によって判定する。資料・参考図書などをそのまま写したものは評価に値しない。授業を通して理解した、知識に基づき自分の言葉で文章を作成すること。レポートに関しては厳しく評価し、内容が不十分な者に対しては再提出を課す。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

社会言語学Ⅰ

川村陽子

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講では、出身地域、社会階級、民族、性別、年齢、価値観など、話し手の社会的属性が、その人の言語使用にどのように反映されるかについて概説する。

全講、講義形式で行う。

【授業計画】

- 第1講 社会言語学について
- 第2講 言語の調査方法
- 第3講 言語と方言
- 第4講 言語と社会的評価
- 第5講 地域方言
- 第6講 階級方言
- 第7講 階級と言語使用態度
- 第8講 ことばの男女差
- 第9講 男女の会話のスタイル
- 第10講 男女の言語使用態度
- 第11講 価値観と言語使用
- 第12講 ことばの年齢差
- 第13講 定期試験

【評価方法】

出席状況と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

社会言語学Ⅱ

川村陽子

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界の多言語社会の言語事情および多言語社会が抱える言語問題について、マクロの視点とミクロの視点から概説する。

全講、講義形式で行う。

【授業計画】

- 第1講 社会言語学について
- 第2講 多言語社会
- 第3講 言語接触
- 第4講 権力と連帯意識
- 第5講 言語の威信
- 第6講 コード切り換え
- 第7講 スピーチ・アコモデーション
- 第8講 社会的ネットワーク
- 第9講 少数派言語社会
- 第10講 言語の保持と消滅
- 第11講 言語政策
- 第12講 バイリンガリズム
- 第13講 定期試験

【評価方法】

出席状況と定期試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

社会学概論

長濱一夫

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会の主要な動向をとりあげ、社会学的手法—個人・集団・社会の相互適及—と実証的・総合的観点から、検討・分析を加える。すなわち、都市化、情報化、国際化、高度消費化、高齢化などの考察により、現代社会に関する基礎的知識を修得させたい。

【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

哲学概論

河邑光夫

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

哲学を一つの専門学科として限定してみるのではなく、ソクラテスのフィロソフィーの精神をうけ、時代を生きながら真理を探究することと解したい。哲学とは隣人との、時代との真摯な対話である。しかし同時に哲学はプラトン、アリストテレスなどのすぐれた原典をもっている。哲学の原典の根本にあるものを説明するが、受講者はそこに人間に共通なものを見出し、ともに考えるようにしてもらいたい。つまりプラトンを通して現代を生きる道を探りたい。

1. ガイダンス

日本の最初の哲学者西周を話し、東洋の日本人が西洋のフィロソフィーを学ぶことの意味を考えたい。

2. ギリシア哲学の立場

古代ギリシア文化を世界史的立場で把握、インドの宗教や中国の儒教と比較する。

3. ギリシアの自然の哲学とソクラテス

4. プラトンとアリストテレスの哲学

この二大哲学にその後の哲学の原型をみる。

5. アウグスティヌスのキリスト教哲学

6. デカルトの哲学革命

ガリレイ以来の科学革命とデカルト哲学について考える。

7. カントとヘーゲルの哲学

8. ヘーゲル以後の、現代の哲学

【授業計画】

講義はノートを取りながら聞いてほしい。前期にギリシアを終えたいと思って始めるのですが、プラトンやアリストテレスを現代の我々とつなげて話すようにしているのでつい後期までずれこみ、計画通り進まないことが多い。この点は御容赦ねがいたい。

【評価方法】

哲学は自分で考えないところには存在しない。だから試験はあらかじめ問題を出しておきます。自分で勉強して下さい。哲学的にみてよく書けているかをみます。

【テキスト】

西洋哲学史 (岩崎武雄 有斐閣 1,845円)

倫理学概論

加藤太喜子

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉や環境倫理・生命倫理が例になるように、倫理的なもの人々の関心を集めています。何故なら人間は倫理的な動物であるからです。そこで、本講義では、ソクラテス以降の倫理学を概説しながら、特に、人間の尊厳について考えていきたいと思っています。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 古代ギリシアの倫理思想 (1)
2. 古代ギリシアの倫理思想 (2)
3. カントの倫理学
4. 功利主義論 (1)
5. 功利主義論 (2)
6. 現代の倫理的問題 (1)
7. 現代の倫理的問題 (2)

【評価方法】

期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

倫理学の視座 (新田孝彦著 世界思想社)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

宗教学概論

川口高風

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本には異なった多くの宗教文化が混在している。宗教に関する基礎的知識を習得するため、世界の九種の宗教を概観し、続いて日本の宗教の神道、仏教、キリスト教、諸教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。

【授業計画】

- 1：はじめに
- 2：宗教の学問的見方
- 3：宗教教義の構成 I
- 4：　　　　〃　　　　II
- 5：世界の諸宗教 I
- 6：　　　　〃　　　　II
- 7：　　　　〃　　　　III
- 8：日本の諸宗教 I
- 9：　　　　〃　　　　II
- 10：　　　　〃　　　　III
- 11：祖師の著作の解説 I
- 12：　　　　〃　　　　II
- 13：まとめ

必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

【テキスト】

暮らしのなかの仏法（法蔵館刊・定価1,500円）を参考資料とする。また、著作などのプリントは当方で用意し配布する。

政治学

西尾林太郎

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

18、19世紀的の市民社会と20世紀的大衆社会とを比較対照させつつ、現代社会の特質とそこで発生・展開する政治現象について、多角的に考察するとともに政治学理論を体系的に学び、ボーダレス化と相互依存性が高まった国際社会における国家についても考察する。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - ①国際社会とは？
 - ②国民国家、ナショナリズム
 - ③トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - ①市民社会と大衆社会
 - ②立法国家と行政国家
 - ③ファシズム、ナチズム
3. 現代の政治過程
 - ①政治と利益団体
 - ②選挙、官僚、議会
 - ③マスメディアとマスコミュニケーション
4. 政治権力とは何か
 - ①人間はどのように支配を受け容れるか？
 - ②リーダー・シップ
 - ③シンボル操作
5. 戦後国際社会と55年体制
 - ①冷戦構造と55年体制
 - ②利権の構造

【評価方法】

試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

現代政治学の基礎（西尾林太郎 早稲田経営出版、2000円）

国際政治論

明石陽至

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

第二次世界大戦後の冷戦の開始以来1990年代までの激動する現代世界を理解するための国際政治入門科目である。

【授業計画】

- | | |
|-------|---------------------|
| 第1講 | 序説 第一次、第二次世界大戦 |
| 第2～3講 | ヨーロッパの冷戦開始と激化 |
| 第4～5講 | アジアの冷戦 |
| 第6～7講 | 1950年代の平和共存路線と西欧の統合 |
| 第8～9講 | 中東・東欧の紛争と激動 |
| 第10講 | 60年代の東西対立の再燃 |
| 第11講 | ベトナム戦争・デタント外交 |
| 第12講 | 冷戦の終焉 |

【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの積極的な討論の参加など総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

【テキスト】

20世紀の国際政治（松岡 完著 同文館）

法律学概論

大嶽 浩

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされている。日常生活の中で「法」がいかにかかわっているかをふまえつつ、法律学の基礎について学ぶ。

【授業計画】

総論

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

各論

1. 法学と「収集」
2. 法学と「きる」
3. 法学と「引用」
4. 法学と「分類」
5. 法学と「技術」
6. 法学と「創造」

【評価方法】

試験による評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

国際法概論

岡田 泉

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

主権国家間の法として成立した国際法の基本概念を把握した上で、個人、民族、国際機構という新たな主体が登場する現代国際社会で、国際法がいかに変貌しつつあるかを、戦争の規制や人権の保障などの分野を中心に見ていく。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要と計画の説明
- 第2回 領域とは何か、日本と海洋法
- 第3回 宇宙の平和利用、南極制度
- 第4回 日本の領土問題
- 第5回 外国人の人権——その1（市民的自由）
- 第6回 外国人の人権——その2（帰国の権利）
- 第7回 戦後補償の問題
- 第8回 国連と人権保障
- 第9回 戦争の放棄と国際法
- 第10回 安全保障の問題
- 第11回 核兵器と軍縮
- 第12回 国際人道法
- 第13回 国連の平和維持活動

【評価方法】

受講状況（出席、受講姿勢、質問）、中間レポート、期末試験。以上を総合評価する。

【テキスト】

使用しない。随時、講義資料を配布する。

経済学概論 I

石坂綾子

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

【授業計画】

- 第1回 なぜ経済学を学ぶのか（ガイダンス）
- 第2回 マーケットメカニズム
- 第3回 社会主義の失敗
- 第4回 金融仲介機能
- 第5回 株式会社
- 第6回 競争社会の光と影
- 第7回 所得の決定
- 第8回 市場の失敗
- 第9回 大不況を克服する方法
- 第10回 グローバルエコノミー
- 第11回 貿易黒字の発生
- 第12回 日本型システムの崩壊

【評価方法】

単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

授業において指示する。

国際経済事情

真田幸光

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

外国系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、世界情勢を分析した上で日本経済がそれにどう対応していくかを考察する。

【授業計画】

第1回 年間計画指示・オリエンテーション

第2～11回 配布する時事経済トピックスに関する解説を行った上で国際経済情勢について意見交換を行う。

第12回 試験

第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

授業中に配布する。

下記の科目は、本年度開講しません。

データ解析Ⅱ

斎藤和志

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

データ解析Ⅰに引き続き、統計パッケージソフトを利用したデータの分析について、実際にデータを処理しながら学ぶ。主に、実験計画法に基づいて収集されたデータを分析する分散分析と質問紙調査から得られた尺度得点の扱い方について取り上げる。

心理検査法Ⅰ・Ⅱ

西出隆紀 他

3年 前期 選択 4単位

【授業の概要】

- I：各種の心理検査についての基礎知識と実施方法を学ぶ。扱う心理検査としては全訂版田中ビネー知能検査、WAIS-R、PFスタディ、YG性格検査、ミネソタ多面人格目録、内田クレベリン精神作業検査、津守・稲毛乳幼児発達診断検査、遠城寺式乳幼児分析的発達検査法、等を予定している。
- II：心理検査法Ⅰで習得した基礎知識と実施方法に基づいて実際に検査を実施し、結果を解釈し、報告書（臨床レポート）を作成することで、心理診断の基礎を身につける。

発達心理学

坂田陽子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

Freud,S.の精神性発達理論やErikson,E.H.の心理社会的発達論、Piaget,J.の認知発達論など各発達論を解説し、各発達期における特徴を概観した上で、知的発達の遅れや情緒発達の歪みなど、発達のな問題について触れていきたい。人間の発達のすばらしさと困難さを同時に伝えられたらと考えている。

教育心理学

二宮 昭

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

教育活動を進めていく上で重要な問題となる、発達、教授・学習、人格、評価・測定、障害児指導等について、心理学的な見方や考え方を解説するとともに、そうした心理学的な見方・考え方と教育実践との関わりについて検討する。

組織心理学

斎藤和志

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

組織における人間行動を質問紙や面接、観察に基づく調査などから得られた実証的データを用いて、一定の仮説に基づき説明しようとする行動科学的アプローチとしての組織心理学の領域から、いくつかのテーマを取り上げ、考察する。仕事への動機づけと満足の問題、組織におけるリーダーシップの問題、組織内のキャリア発達の問題などを取り上げる。

生活ストレス論

植村勝彦

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代人の最新の関心事となっている「ストレス」について、心理学の立場から考察する。コミュニケーション行動との関連については、コミュニケーション行動がストレスを引き起こすストレッサー（ストレス源）となる場合もあれば、ストレスをもつ人へのソーシャル・サポート（社会的支援）としてコミュニケーション行動を有効に用いることも可能である。

社会心理学

森久美子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会心理学における主要な理論・研究について、特に実験的研究を紹介しながら概説する。これを通して、実験社会心理学の枠組みによって、社会的な行動や現象を理解するための基礎的知識を身につける。具体的には、実験社会心理学の方法論のほか、社会的認知、社会的態度、対人魅力、社会的影響過程、集団行動、など社会心理学に関する幅広いテーマに関する実証的研究について解説する。

視聴覚論

松尾貴司

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人の知覚のメカニズムを理解すると同時に、視聴覚メディア、マルチメディア等と呼ばれるさまざまなコミュニケーションメディアの技術的特性を理解することによって、視聴覚メディアが人のコミュニケーションに及ぼす影響、およびその可能性について考える。

尺度構成法

廣岡秀一

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学の領域では質問紙によってデータを収集することが少なくない。社会的態度や性格特性を測定するための尺度や心理テストを構成する際には信頼性と妥当性の検討が必要となり、そのために因子分析や多変量解析といった統計的処理を行うことになる。こうした尺度構成を行う場合に必要、統計的な考え方とその技法について学習する。

脳のエイジング

杉本助男

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

胎児から老年期までの脳の生涯発達と人間行動との関係を解説する。特に、脳の発達に関わる環境の問題、個人の生活史と左右脳の発達、脳の老化と高齢者のコミュニケーションの問題などについて考察する。

精神生理学

清水 遵

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヒトの行動の生理学的指標に関する基礎知識について概説した後、現代社会で特に問題となっている情動やストレスをテーマにして、これらの問題に対する精神生理学的アプローチについて論ずる。

神経心理学

吉崎一人

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「脳と行動」の関係の解明を目指す神経心理学の概説をする。特に、認知心理学的な視点から考察を中心とする。まず、基礎的な知識として(1)脳、特に大脳の基本構造論じ、(2)さらに神経心理学の研究法を論じ、(3)最後に大脳半球機能差(ラテラリティ)について論じる。次に、重要な認知活動ごとに脳との関連について論じる。具体的には、脳とことば、脳と記憶、脳と物体の認知、脳と注意、脳と情動、脳と運動である。

記憶と思考

川口 潤

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

認知心理学の領域で中心となる「記憶」と「思考」について講義する。「記憶」においては、情報の貯蔵システムの紹介とモデル間の比較、意識と記憶、記憶の区分等について最近のトピックを含め論じる。「思考」においては、問題解決、意志決定、確率推論等について論じる。できるだけ多くの研究事例を紹介して理解を深める。

生体情報学

田丸政男

集中 3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生態は外界の情報を感覚刺激として受容し処理する。これら生態情報処理の中核として、脳は最も重要な働きを担っている。生態情報学では脳に入力された情報が如何なるメカニズムで知覚・認識・学習・記憶・情緒などの反応を生じるかについて、神経生理学および神経化学的な手法で明らかにする。

表現行為の発達

坂田陽子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

コミュニケーションを成り立たせる表現の問題に焦点を当てて、その発達を論ずる。ことばによる表現、ことばによらない身振りや手振りの表現、絵による表現の発達をそれぞれ取り上げ、子どもの豊かな表現行為の獲得を保障する条件とは何かについて考察を深める。

ことばの発達と障害

二宮 昭

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間のことばによるコミュニケーション行動に関して、それは一体どのような過程を経て発達してくるのか、また、その障害はどのような場合にどのようなかたちで現れ、それを改善していくにはどういうことが重要であるか、ということを通して、人間にとってことばのもつ意義を考える。

マン・マシン・インタラクション

新美明夫

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータテクノロジーの浸透は個人のまわりにあるさまざまな機器を知的化し、人間との疑似的コミュニケーションを可能にした。現代において人々はさまざまな場面でこれらの機器と向き合わざるをえない。本講義では個人がこれらの知的機器と対面する際の諸問題について考察する。

動物のコミュニケーション

松尾貴司

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヒト以外の動物が示す、さまざまなコミュニケーション行動の特徴を動物行動学の知見を基に概観し、ヒトにおけるコミュニケーションと比較しながら、コミュニケーションの生物学的な基礎について論じる。

放送メディア論

遠藤雄久

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

多メディア化、多チャンネル化、更には国際化の趨勢のなかで、放送システムとりわけテレビ放送の地位は大きく揺らぎ、新しい対応を迫られている。本講義は、テレビ放送の「過去・現在・未来」を具体的な事実、データに基づいて考察し、情報化社会のなかでのテレビ放送の新しい可能性を探る。

ビジュアルコミュニケーション

後藤倬男

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚的な情報媒体を用いたコミュニケーションの比重は、現代社会においてますます高まっている。本講では、人間の視覚の仕組みからはじまって、環境の知覚が外界の刺激の正確な反映でなく、いかに人間の側の条件に依存するかを論じ、コミュニケーションにおける望ましい視覚情報の利用について考察を深める。

カウンセリング

江口昇勇

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合の良いように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実である。そうした事実を体験的に理解するために試行カウンセリングを行い、傾聴の際の学生が陥りやすいタイプを学ばせたい。従来、ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が過重に置かれ過ぎてきたように思われるので、自己一致の重要性を伝えていきたい。

児童臨床

西出隆紀

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

不登校をはじめとする情緒障害、自閉症や学習障害などの発達障害、低出生体重児などハイリスク児の発達の問題や摂食障害など、思春期までの心の問題を取り上げ、そのような子どもたちをどう理解し、どう関わっていくかを解説したい。

精神医学

古井 景

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の精神現象を扱い、治療していくために必要な、生物学的・心理学的方法論を論じ、多角的な視野を持って精神症状を把握する必要性を説く。又、具体的な各精神疾患の事例を織り交ぜながら、力動的精神医学の観点から症状をどう理解し、患者とのコミュニケーションを通してどのように治療をしていくかを解説していく。

コミュニケーションの精神病理

北畑英樹

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

コミュニケーションとは、つまるところ対人関係であり、一方、精神医学で取り扱う疾患も、その症状の中心は対人関係の障害である。それ故に、そこには健常者の中に時折みられるコミュニケーションのゆがみの先鋭化したものが認められる。そこで、ノイローゼ、うつ病、精神分裂症などの疾患について、やさしくかつ具体例をあげて解説する。

専門演習Ⅰ

杉本助男 他

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員全員が担当するゼミ形式の少人数授業であり、専門領域の論文を学生各自が講読し、質疑、応答を行う。この過程で学生各自が興味をもてる研究課題を明確化していく。

専門演習Ⅱ

杉本助男 他

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、4年次の卒業研究に必要な科学的な表現方法、実証的な研究方法、研究計画法、資料やデータの分析方法などを学習する。

専門演習Ⅲ

杉本助男 他

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員全員が担当し、学生が各自設定した研究テーマに沿って文献を講読し、調査、面接、実験等を通して卒業研究の指導を行う。

専門演習Ⅳ

杉本助男 他

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専門演習Ⅲに引き続き、学生各自の研究の進捗状況に応じて、助言、指導を行う。特に、調査、面接、実験等で得られた各自のデータに基づく分析方法などについて個別指導を行う。

卒業論文

杉本助男 他

4年 通年 必修 8単位

【授業の概要】

専門演習Ⅱで計画立案した卒業研究を実行に移し、各専任教員の指導の下で各学生は明確な問題意識と自覚をもって研究活動に取り組む。

コミュニケーション入門

藤井正志 植村勝彦 松本青也

オムニバス 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

(概要) コミュニケーション学部の教育について、コミュニケーション心理、ビジネスコミュニケーション、言語コミュニケーションの3領域からの学習の動機づけをオムニバス方式で行う。★(オムニバス方式)★(藤井正志教授) コミュニケーションの問題について、現実的なビジネスの立場に立って、効果的なコミュニケーションの在り方を考察する。★(松本青也兼担教授) 言語や文化の異なるもの同士が相互に伝達を図り、交流しようとする場合に生じる様々な問題について、言語特有の発想や文化のもつ価値観、更に言語教育・政策までを比較対照しながら考察する。★(植村勝彦兼担教授) コミュニケーションの問題を心理学の立場からの理解の仕方を紹介する。中でも対人コミュニケーションについて、その理論を現実社会の問題とからめて取上げる。

【授業計画】

- 第1講 導入
- 第2講 職場の活性化とコミュニケーション
- 第3講 職場における人材教育とコミュニケーション
- 第4講 企業経営のコンセプトの変化とコミュニケーション
- 第5講 国際ビジネスの場におけるコミュニケーション
- 第6講 言語と思考
- 第7講 言語と社会
- 第8講 言語と教育
- 第9講 言語と文化
- 第10講 ありのままを知らせるコミュニケーション：自己開示
- 第11講 自分を演出するコミュニケーション：自己呈示
- 第12講 対人交渉のコミュニケーション：要請と承諾
- 第13講 非言語コミュニケーション：ボディールンゲージ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

コミュニケーション学入門ー心理・言語・ビジネスー
(植村勝彦・松本青也・藤井正志著 ナカニシヤ出版)

心とコミュニケーション

坂田陽子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

個人は意識の中心にある自我を軸とした人格と無意識にあるもうひとりの自分の両者のバランスを生きることになる。また、人と人とのコミュニケーションの歪みが個人の病理を生じさせることが明らかになってきており、そうした家族コミュニケーションのあり方も含めた、心の不思議について述べていきたい。

【授業計画】

授業は講義形式で、以下のタイトルに従って進められる。感想などを募って、興味深い内容については掘り下げて検討するつもりなので、主体的に参加して欲しい。

1. ものの世界とこころの世界
2. こころと人間関係
3. こころ? 性格? 人格?
4. 自分のこころ
5. こころの育ち
6. こころの問題
7. こころを癒す

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可(コピーを持ち込んだ場合は失格)とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【テキスト】

使用テキストなし。講義中に参考文献を紹介。

言葉とコミュニケーション

張 勤

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間のコミュニケーションの手段は様々あるが、本講義では言葉によるコミュニケーションにスポットライトをあて、言葉とコミュニケーションの複雑な関係を整理し、言葉のコミュニケーションにおける役割を考える。

【授業計画】

- 第1回 言葉によるコミュニケーションとは
実践：中国語コミュニケーション（1）
- 第2回 依頼のストラテジー（1）
実践：中国語コミュニケーション（2）
- 第3回 人間関係とコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（3）
- 第4回 依頼のストラテジー（2）
実践：中国語コミュニケーション（4）
- 第5回 丁寧さとコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（5）
- 第6回 挨拶のストラテジー
実践：中国語コミュニケーション（6）
- 第7回 社会関係とコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（7）
- 第8回 質問のストラテジー
実践：中国語コミュニケーション（8）
- 第9回 言語行為とコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（9）
- 第10回 非言語コミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（10）
- 第11回 コミュニケーションにおける日本語の可能性
実践：中国語コミュニケーション（11）
- 第12回 コミュニケーションにおける中国語の可能性
実践：中国語コミュニケーション（12）

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

ビジネスとコミュニケーション

真田幸光

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本企業の海外戦略の方向性をケーススタディーを通して学習。その中でビジネス交渉に関するキーポイントを解説し、生きたコミュニケーション術を考察する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2回 日本企業の海外戦略（概論）
- 第3回 欧米企業の海外戦略（概論）
- 第4～5回 中小企業の海外進出（ケーススタディー）
- 第6～7回 大企業の海外進出（ケーススタディー）
- 第8～9回 金融機関のアドバイス業務
- 第10～11回 国内ビジネスにおけるコミュニケーション
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

授業中に配布する。

コンピュータ入門

森 雅俊

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータの初心者を対象にWindowsの基本操作、ワープロソフトの操作、並びにインターネットの使用法について学習する。授業のゴールは2つで、(1) レポートをワープロで作成できるようになること、(2) メールを使つてのコミュニケーションができること、である。

【授業計画】

- 第1回 Windowsの基本操作 (1)
- 第2回 Windowsの基本操作 (2)
- 第3回 ワープロソフトの操作 (1)
- 第4回 ワープロソフトの操作 (2)
- 第5回 ワープロソフトの操作 (3)
- 第6回 ワープロソフトの操作 (4)
- 第7回 メールの使い方 (1)
- 第8回 メールの使い方 (2)
- 第9回 ブラウザ使用法 (インターネット)
- 第10回 ブラウザの活用
- 第11回 画像ソフトの使用法
- 第12回 その他アプリケーションの操作法
- 第13回 テスト

【評価方法】

出席、レポートの提出。

【テキスト】

授業中に指示する。

コンピュータ応用

森 雅俊

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「コンピュータ基礎」からさらに一歩進んだ形でコンピュータを心理学研究で活用する方法について学習する。目的は2つである。1つは、実験、調査、観察、面接等で得られた心理学的なデータの基本的な整理法並びに分析法を学ぶことである。そのために主に表計算ソフトの操作法を学ぶ。もう1つは、研究情報の収集あるいはコンピュータを使ったコミュニケーションの方法を学ぶことである。そのために、メールソフトやブラウザの操作を習得する。

【授業計画】

1. エクセルの基本操作 (1) (エクセルへのデータ入力、並びに編集)
2. エクセルの基本操作 (2) (コピー、移動、文字装飾等)
3. エクセルでの計算 (四則演算、セルを使った計算)
4. エクセルでの計算 (相対参照、絶対参照)
5. 表作成とエクセルでの印刷
6. グラフ作成 (1)
7. グラフ作成 (2)
8. 関数を使った計算 (1)
9. 関数を使った計算 (2)
10. 実際のデータを使つてのデータ処理 (1)
11. 実際のデータを使つてのデータ処理 (2)
12. 実際のデータを使つてのデータ処理 (3)
13. テスト

【評価方法】

出席、レポートの提出。

【テキスト】

授業中に指示する。

プレゼンテーション

松田照美

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書の取り扱いなどについて学習する。

【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 コミュニケーションは協同作業
- 第3回 効果的な言語表現（1）
- 第4回 効果的な言語表現（2）
- 第5回 電話によるコミュニケーションの特性
- 第6回 ビジネス電話における自己表現
- 第7回 文書による表現技法
- 第8回 文書による表現
- 第9回 対人接遇の基礎－印象管理－
- 第10回 対人接遇の基礎－ビジネスマナー－
- 第11回 面接でのプレゼンテーション－先入印象－
- 第12回 面接でのプレゼンテーション－自己PR－
- 第13回 ビジネスプレゼンテーション

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによって総合的に評価する。

【テキスト】

説明・説得のプレゼンテーション技法（三浦大亮・通産資料調査会）

【参考文献・資料】

社会人のパスポート増補版（東福賢監修 嵯峨野書院）

異文化トレーニング

近藤祐一

集中 2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々がともに生活し、問題を解決するためにどのような知識・態度をもちながらコミュニケーションを取るべきかについて、ロールプレイやシミュレーションを用い分析・考察する。

【授業計画】

異文化コミュニケーションとは
授業の概要・授業の進め方について
どう言えば...
言語メッセージとコミュニケーション
黙って座ればぴしゃりとあたる
非言語メッセージとコミュニケーション
あばたもえくぼ
知覚
私の大事なもの
価値観とコミュニケーション－1
「水戸黄門」の謎
価値観とコミュニケーション－2
あなたって回りくどい！
文化と思考方法
私はだれ？
ステレオタイプ
あなたは男だから...
共文化
もう昔の私には戻れない...
異文化コミュニケーションと自己変化

【評価方法】

授業の特質上、出席状況および授業への参加度に重きを置く。また、ジャーナルおよび最終レポートを課す。

【テキスト】

関連する資料を適宜授業中に配布する。

TOEFL・TOEICトレーニング I

ディビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング
ハリー・T. ノリス ジェームズ・A. ジョリー ディビッド・P. レヴィ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means "Test Of English as a Foreign Language".

This course is not available for students who have completed TOEFL level II (2) or higher.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. Students combined TOEFL ITP score and attendance will be used to set grade.

A minimum TOEFL ITP score of 339 must be achieved to receive a passing grade

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニング I

ディビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング
ハリー・T. ノリス ジェームズ・A. ジョリー ディビッド・P. レヴィ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means "Test Of English for International Communication".

This course is not available for students who have completed TOEIC level II (2) or higher.

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions/responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance.

A minimum TOEIC ITP score of 220 must be achieved to receive a passing grade

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

ジョナサン・E. ロング ディビッド・P. レヴィ
シャレル・A. ラインツマ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEFL (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEFL level III (3) or higher.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed TOEFL I (1).

TOEFL II (2) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 375 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL I (1).

TOEFL II (2) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEFL I (1) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

ジョナサン・E. ロング ディビッド・P. レヴィ
シャレル・A. ラインツマ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEIC level III (3) or higher.

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the student's to the type of questions to expect in the TOEIC test.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions/responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed TOEIC I (1).

TOEIC II (2) will be based on the students TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 310 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC I (1).

TOEIC II (2) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on improvement from their TOEIC I (1) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEFL level IV(4) or higher.

This is a high-beginner course for the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEFL score.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. For students who have completed TOEFL I(1) or TOEFL II(2) courses.

The TOEFL III(3) grade will be based on the students classwork, homework and attendance. Assessment will not be based on TOEFL score.

Students can ,but will not have to do the TOEFL ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEFL course. A minimum score of 400 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEFL ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEIC level IV(4) or higher.

This is a high-beginner course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. For students who have completed TOEIC I(1) or TOEIC II(2) courses.

The TOEIC III(3) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEIC score.

Students can but will not have to do the TOEIC ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEIC course.

A minimum score of 375 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEIC ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEFL level V(5) or VI(6).

This is a pre-intermediate level course(TOEFL 420+) for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEFL ITP test.

TOEFL IV(4) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 422 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL II(2) or III(3).

TOEFL IV(4) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their previous TOEFL ITP total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEIC level V(5) or VI(6).

This is a pre-intermediate level course (TOEIC 425+) for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEIC ITP test.

TOEIC IV(4) will be based on the student's TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 430 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC II(2) or III(3).

TOEIC IV(4) will be based on the students' TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on improvement from their previous TOEIC ITP total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2~4年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEFL level VI(6).

This is an intermediate course(TOEFL 440+) for the TOEFL test.

TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEFL score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEFL Ⅲ(3) or Ⅳ(4) courses.

TOEFL V(5) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEFL score.

Students can but will not have to do the TOEFL ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEFL course, a minimum score of 400 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEFL ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

[Textbooks]

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2~4年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅥの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEIC level VI(6).

This is an intermediate course(TOEIC 475+) for the TOEIC test.

TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEIC Ⅲ(3) or Ⅳ(4) courses.

TOEIC V(5) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEIC score

Students can but, will not have to do the TOEIC ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEIC course, a minimum score of 375 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEIC ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

[Textbooks]

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a high-intermediate to advanced level course (TOEFL 450+) for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. Listening comprehension and reading comprehension will be the main areas of study

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEFL ITP test.

TOEFLⅥ(6) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 458 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL IV (4) or V(5).

TOEFLⅥ(6) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEFL IV(4) or V(5) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a high-intermediate to advanced level course(TOEIC 550+) for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. Listening comprehension and reading comprehension will be the main areas of study

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEIC ITP test.

TOEICⅥ(6) will be based on the students TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 520 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC IV (4) or V(5).

TOEICⅥ(6) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEIC IV(4) or V(5) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

異文化コミュニケーション

高井次郎

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本的対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 対人認知
6. ステレオタイプ
7. 人種偏見
8. 人種差別
9. 異文化間能力
10. 異文化間トレーニング
11. コミュニケーション研究
12. コミュニケーション理論
13. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

異文化コミュニケーション論（古田 暁編 有斐閣選書）

国際交流論

榎田勝利

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

経済大国となった日本は、国際社会の有力な一員として責任ある行動をとることが必要となってきた。近年の「国際化」に伴い、政治、経済、学術、芸術、スポーツなどの分野でも、盛んに国際交流が行われているが、果たして真の交流が実現しているのだろうか。主に日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のありかたについて論ずる。

【授業計画】

講義と各学生によるプレゼンテーションにより授業を展開する。

- 1) 戦後の国際交流の軌跡
- 2) 日本の国際交流の現状と課題
 - ・多様化、複雑化する国際交流
 - ・自治体主導の地域の国際化
 - ・民間非営利活動の社会的認知
- 3) NGOとボランティア
 - ・国連組織とNGO
 - ・国際ボランティア
- 4) 交流相手から見た国際交流
- 5) 国際交流活動を担う専門的な人材育成
 - ・プログラム・オフィサーと求められる能力
- 6) 多文化共生社会と多文化共生能力
 - ・多文化共生社会とは
 - ・求められる多文化共生能力
- 7) よりよい地球市民社会の形成を目指して

【評価方法】

課題研究レポートおよび平常点にて評価する。

【テキスト】

国際交流入門（榎田勝利監修 アルク）

【参考文献・資料】

実践国際交流（大阪国際交流センター発行）
在日外国人（新版）（田中 宏著 岩波新書）
外国人労働者から市民へ（宮島・梶田編 有斐閣）
異文化接触と日本人（横田・堀江編 至文堂）
ボランティアが変える世界（ケン・アレン著 アルク）

メディア論

遠藤雄久

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本構の目的は、マルチメディア時代といわれる現代のメディア状況をよりよくとらえるために、歴史社会的視点に立ってメディアと人間・社会の関わり方を振り返って見ようというものである。十九世紀後半に出現した電信、電話から始めテレビジョンそしてパーソナルコンピュータに至る電子メディアの発展の過程を、人間や社会がどのようにメディアをデザインしてきたかという観点からたどっていく。

【授業計画】

- 第1回 総論
- 第2回 新聞の誕生と発展
- 第3回 新聞ジャーナリズム
- 第4回 電信と電話の発明
- 第5回 ラジオ放送の開始
- 第6回 写真技術の開発
- 第7回 映画の誕生
- 第8回 ハリウッド映画と観客
- 第9回 映画ソフトの多様化
- 第10回 テレビ放送の誕生と発展
- 第11回 デジタル放送
- 第12回 メディアの境界領域
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合判断する

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際関係論

明石陽至

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講座は国際関係論入門科目である。多様な国際関係を国家・民族の利害・戦略が交錯する国際社会の動きや構造を外交・国力・経済など視点から国際関係理論と仕組を体系的に解き明す。

【授業計画】

- 第1講 国際関係論のアプローチ
- 第2講 国家と国際体系
- 第3～4講 国家の能力と影響力
- 第5～6講 外交政策の決定
- 第7～8講 外交政策の手段
- 第9～10講 各国の外交
- 第11講 国際平和の維持
- 第12講 南北問題・国際平和へのアプローチ

【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの討論の積極的参加等を総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

【テキスト】

新国際関係論 (花井等著 東洋経済新報社)

異文化教育論

霜田一敏

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を国際理解教育の観点から具体的に論究する。

比較教養論

渡辺かよ子

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

言語を中心とする「教養」に関する各国の思想史を概説し、国際化・高齢化・情報化の進展の中で今後の自己教育としての「教養」の在り方、普遍的教養の有無、コミュニケーションの基礎としての「教養」の問題を論じる。

【授業計画】

- 1：古代ギリシャ時代の教養と人間観
- 2：中国の伝統的教養と人間観
- 3：インドの伝統的教養と人間観
- 4：キリスト教の人間観と教養
- 5：西洋近代思想の人間観と教養
- 6：近現代日本の修養論と教養論
- 7：教養とコミュニケーション

【評価方法】

平常レポートと討議

【テキスト】

地球市民を育てる教育（箕浦康子 岩波書店）

【参考文献・資料】

教養とヒューマニズム（村瀬裕也 白石書店）
ディスタンクシオン（ブルデュー 藤原書店）
新しい教養を拓く（筒井清忠編 岩波ブックレット）
知と教養の文明学（梅棹忠夫他編 中央公論社）
東洋と西洋（レーヴィット 未来社）
美徳なき時代（マッキンタイア みすず書房）
知の文化と型の文化（鹿毛誠一 創文社）

比較文化論Ⅰ（日・米）

松本青也

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由に伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価

【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

比較文化論Ⅱ（日・欧）

トマー・トドロヴィック

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

西ヨーロッパの主な国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化活動の状況、問題点に関する最近のデータを利用して比較を行ない、異文化（ヨーロッパ文化）への理解と関心を深める。

【授業計画】

西ヨーロッパ諸国の文化の特色について、各種データを用いて日本文化と比較対比しながら、次の順序で概説し、ヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

- (1) フランス文化の特色
- (2) イギリス文化の特色
- (3) ドイツ文化の特色
- (4) イタリア文化の特色
- (5) スペイン文化の特色

【評価方法】

レポートにより評価する。

【テキスト】

特に指定しないが、授業時に参考図書、参考資料について指示する。

ビジネスジャーナル講読

藤井正志 森下允之 梅田敏文 真田幸光
浅井敬一郎 石川雅之 石坂綾子 浅野敬志

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

日経ビジネス、東洋経済、ダイヤモンドなどの経済誌から毎週テーマを決め、輪読と質疑応答を通じて現実の経済状況の把握と、経済学の専門用語を学ぶとともに経済学的な解説を加える。

【授業計画】

第1～12講 経済、金融、ビジネスコミュニケーションなど幅広いテーマを取上げる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1講の開始前に配布する。

英文ビジネスジャーナル講読

藤井正志 森下允之 梅田敏文 真田幸光
浅井敬一郎 石川雅之 石坂綾子 浅野敬志

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

ビジネスウィークやインターネット上のBBC、ABCの経済ニュース記事を英文教材として用い、世界でどのような経済問題が起きているのか、海外から見た日本経済の評価などについて英語での理解を深める。

【授業計画】

第1～12講 経済、金融、ビジネスコミュニケーションなど幅広いテーマを取上げる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1講の開始前に配布する。

経済学概論Ⅰ

石坂綾子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

【授業計画】

- 第1回 なぜ経済学を学ぶのか（ガイダンス）
- 第2回 マーケットメカニズム
- 第3回 社会主義の失敗
- 第4回 金融仲介機能
- 第5回 株式会社
- 第6回 競争社会の光と影
- 第7回 所得の決定
- 第8回 市場の失敗
- 第9回 大不況を克服する方法
- 第10回 グローバルエコノミー
- 第11回 貿易黒字の発生
- 第12回 日本型システムの崩壊

【評価方法】

単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

授業において指示する。

経済学概論Ⅱ

太田聡一

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

マクロ経済学とミクロ経済学の基礎について概説する。

【授業計画】

講義形式で行なう。

【評価方法】

定期試験で評価する。

【テキスト】

講義中に適宜指示する。

経営学概論Ⅰ

浅井敬一郎

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

経営学の基本的な概念と理念を体系的に学ぶとともに、現代の企業と経営者の役割と意義について考察する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 企業とは何か
- 第3～4回 企業の諸形態
- 第5回 株式会社の経営機構
- 第6～7回 日本型株式会社制度の構造と実態
- 第8～9回 経営組織の諸形態
- 第10～11回 会社分割・持株会社制度
- 第12回 まとめ

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

- 企業論（三戸浩他著 有斐閣アルマ）
- 経営のしくみ（青木三十一著 日本実業出版社）
- 入門経営学（亀川雅人・鈴木秀一著 新世社）

経営学概論Ⅱ

浅井敬一郎

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

経営学の知識をさらに深めるために、経営手法として経営戦略、組織形態、人事労務、インセンティブシステムについて考察する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～6回 企業の経営戦略
 - ・経営戦略の体系
 - ・戦略の策定
 - ・競争戦略
 - ・成長戦略
 - ・ケーススタディ
- 第7～8回 企業のインセンティブシステム
- 第9～10回 いわゆる日本的経営と人事労務管理
- 第11～12回 企業の社会的責任
- 第13回 まとめ

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

- 経営戦略（大滝精一他著 有斐閣アルマ）
- 新しい人事労務管理（佐藤博樹他著 有斐閣アルマ）
- 経営学への招待・改訂版（坂下昭宣著 白桃書房）
- 有力企業の社会貢献度2001（朝日新聞文化財団編 PHP研究所）

基礎数学

坂井貞彦

1・2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

専門科目を学ぶ際に必要な基礎的数学として、線形数学、微分法および積分法の初歩を学習する。

【授業計画】

講義方式による。

第1回～第5回 線形代数

連立1次方程式、行列式、行列、数ベクトル

第6回～第10回 微分法

極限值、連続、導関数、初等関数の微分、極大極小、平均値の定理、2変数の関数、偏導関数

第11回～第12回 積分法

不定積分、定積分

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させ、また小テストを実施した場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

ブラクティカル基礎数学（永田幸令・三好武雄 開成出版 1,732円（税込））

統計学基礎

坂井貞彦

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

身近なデータを教材にして、統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会生活にどのように関わっているか、いかに必要であるかについて学習する。

【授業計画】

講義方式による。

1 統計と統計分析

2 日本の統計調査

3 代表値、標準偏差、時系列データ

4 相関、相関係数

5 総合指数、物価指数

6 回帰分析

7 統計的推測のあらまし

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させ、また小テストを実施した場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

入門統計学（木下宗七 有斐閣 2,520円（税込））

情報システム概論Ⅰ

梅田敏文

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

コンピュータの原理と歴史、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの概説、情報化の課題を通して、情報システムの基礎知識を取得する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 Windows 98の操作（1）
- 第3講 コンピュータの歴史
- 第4講 データの表現
- 第5講 ハード/ソフトの概要
- 第6講 Windows 98の操作（2）
- 第7講 プログラムの設計と開発
- 第8講 データベースシステム
- 第9講 通信ネットワーク
- 第10講 Windows 98の操作（3）
- 第11講 情報システムの今後の課題
- 第12講 まとめ

【評価方法】

ひとつのテーマが終了した時点でミニテストを実施する（2～3回）。出席点40%、ミニテストその他60%で評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報システム概論Ⅱ

石橋善弘

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

計算機械、通信技術、制御技術の発展の跡をたどり、「情報システム」という概念が生まれた必然性について解説する。また、情報に関する基礎概念を、情報の表現形式、加工、変形およびそれらに基づく情報の発生、処理という一連の流れを通して把握させる。さらに、情報システムがいかに構築され、いかに活用されているかについての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 本講義の目的と授業計画の提示
- 第2回～第11回 以下の項目について解説する
 - 情報と表現
 - コンピュータシステムのしくみと機能
 - ソフトウェアシステム
 - 人工知能
 - ネットワーク社会
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

文化系のコンピュータ概論（有沢誠著 岩波書店）

プログラミングⅠ

石橋善弘

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータを道具として問題解決をはかるという過程が、諸方面で進展している。プログラミングの基本的な考え方を概説し、FORTRAN、BASIC等を用いて日常生活、社会活動において有用なプログラムを作成する能力を養う。

【授業計画】

- 第1回 本講義の目的と授業計画の揭示
- 第2回～第11回 以下の項目について解説する
 - コンピュータの歴史
 - プログラミングの基礎
 - プログラミングに必要な数学的基礎
 - 2進法
 - 算術演算
 - 論理演算
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

プログラミングⅡ

梅田敏文

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

プログラミング言語の機能と特徴を理解し、簡単なプログラム（VB、JAVAなど）を作成することによって、マン・マシン・インターフェースの実際と課題を考察する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプログラミング概要
- 第2講 VBによるプログラミング手順
- 第3講 フォームオブジェクト
- 第4講 コントロールの配置とプロパティの設定
- 第5講 コードの記述とデバッグ処理
- 第6講 イベントプロシージャの作成
- 第7講 変数、関数の使用
- 第8講 ジェネラルプロシージャの作成
- 第9講 関数の作成
- 第10講 練習問題（1）
- 第11講 練習問題（2）
- 第12講 まとめ

【評価方法】

ひとつのテーマが、終了した時点でミニテストを実施する（2～3回）。出席点40%、ミニテストその他60%で評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に適宜、資料を配布する。

金融論

藤井正志

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

資金循環勘定と企業の資金調達、直接金融・間接金融に係る金融仲介機関の機能、金融市場と金利等、金融の役割・仕組みについて論ずる。

【授業計画】

- 第1講 貨幣と決済
- 第2講 金融取引の役割
- 第3講 日本の資金循環
- 第4講 金利の役割
- 第5講 日本の金融政策
- 第6講 預金・貸出市場
- 第7講 短期金融市場
- 第8講 資本市場
- 第9講 外国為替市場
- 第10講 バブルの崩壊と日本の金融システム
- 第11講 銀行経営と情報開示
- 第12講 金融制度改革と金融機関の将来展望
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

国際金融論

藤井正志

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

国際金融市場、国際証券市場の動向、起債に関する実務、デリバティブの動向とリスク管理等、基礎と現実の動きを幅広く考察し、今後の課題についても検討する。

【授業計画】

- 第1講 金融のグローバル化と金融制度改革
- 第2講 外国為替業務と国際収支
- 第3講 国際金融市場
- 第4講 国際金融のリスク
- 第5講 国際貸付市場
- 第6講 国際債券市場
- 第7講 デリバティブ取引
- 第8講 スワップ取引・先物取引
- 第9講 オプション取引
- 第10講 国際金融の指標の読み方
- 第11講 国際金融の拡大とリスクの回避
- 第12講 国際金融の将来展望

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

国際投融資論

森下允之

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「国際金融論」のファイナンスの側面である。「国際金融論」が理論面を中心にするのに対し、国際投融資論は歴史と統計に基づき国際資本の動きとその各国経済発展への影響について説明する。具体的には以下のとおりである。①国際資本移動の形態：直接投資、証券投資、投資決定要因、②国際資本移動の歴史と現状：地域別・形態別推移およびその影響、③ユーロ市場の発展と役割、④企業活動の国際化と直接投資：特に戦後の本邦企業の対外直接投資の推移とグローバル戦略、⑤証券投資増大とその功罪

【授業計画】

- 第1講 年間計画、ガイド
- 第2講 国際投融資の目的
- 第3講 ユーロ市場の発展と役割
- 第4講 国際投融資の形態（直接投資、証券投資）
- 第5講 証券投資の急増とその功罪
- 第6講 本邦企業の海外進出とグローバル戦略
- 第7講 自由貿易協定の影響
- 第8講 カントリー・リスクとビジネス・リスク
- 第9講 アジア諸国の投資環境
- 第10講 西欧諸国の投資環境
- 第11講 中近東・アフリカ諸国の投資環境
- 第12講 南北アメリカ諸国の投資環境
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを適時配布する。

【参考文献・資料】

マネー・マーケットの大潮流（加野忠、砂村賢、湯野勉著 東洋経済新報社）

2000年版ジェトロ貿易白書（日本貿易振興会）

外国為替論

森下允之

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「国際金融」のExchange（交換、為替）の側面。基礎的な概念・理論から今日の制度・為替政策、さらに経済への影響まで触れる。具体的には以下のとおりである。

- ①外国為替の仕組み、②外国為替相場、③外国為替市場、④外国為替リスクと回避方法、⑤為替相場と国際収支、⑥為替相場制度と政策

【授業計画】

- 第1講 年間計画、ガイド
- 第2講 外国為替の仕組み
- 第3講 外国為替相場の種類
- 第4講 外国為替相場の決定理論
- 第5講 外国為替相場と経済の関係
- 第6講 外国為替市場
- 第7講 外国為替リスクと回避方法
- 第8講 オプション取引
- 第9講 為替相場と国際収支
- 第10講 国際通貨制度
- 第11講 ユーロ
- 第12講 アジアと円の国際化
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

最新版 入門の経済 外国為替の仕組み（小口幸伸著 日本実業出版社）

【参考文献・資料】

外国為替の基礎知識（川本明人著 中央経済社）

銀行ビジネス論

森下允之

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「金融論」が理論面の分析が中心なのに対し、その担い手である金融機関・銀行の制度、役割、変化を国際的に比較しながら論ずる。具体的には以下のとおりである。

①金融システムの基礎知識、②日本の金融システムの特徴と変貌、③銀行ビジネスの多様化・国際化、④金融リスク管理と銀行監督行政

【授業計画】

- 第1講 年間計画、ガイド
- 第2講 金融システムの基礎知識
- 第3講 金融システムにおける銀行
- 第4講 預金業務
- 第5講 貸出業務
- 第6講 国際業務
- 第7講 日本の銀行の特徴（国際比較）
- 第8講 バブル崩壊と銀行倒産
- 第9講 金融ビッグバン
- 第10講 銀行ビジネスの多様化（証券業務）
- 第11講 銀行ビジネスの多様化（デリバティブ）
- 第12講 金融行政と銀行
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

図説 わが国の銀行（全国銀行協会調査部編 財経詳報社）

【参考文献・資料】

日経文庫 ベーシック金融自由化入門（円居総一著 日本経済新聞社）

21世紀日本の金融産業革命（植田、川北、高月著 東洋経済新報社）

銀行収益革命（川本裕子著 東洋経済新報社）

保険ビジネス論

跡部浩一

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

保険業法の基本事項を学習し、現代の企業経営にとって不可欠な各種保険の意義と役割についての理解を深める。

特に保険業法の法的解釈論よりも、日常の経済活動を通じての保険実務とその意義を中心のテーマに、その法的根拠としての保険業法の基本を解説する。

【授業計画】

- 第1講 保険業界の再編動向と保険業法の関連①
* 生保社の破綻と契約者保護のあり方
- 第2講 保険業界の再編動向と保険業法の関連②
* 保険株式会社と相互会社のあり方
- 第3講 保険業界の再編動向と保険業法の関連③
* 保険業の意義と企業経営について
- 第4講 最近の「保険犯罪」と保険募集のあり方
* 保険の基本思想とやっつけていい事・悪い事
- 第5講 生命保険の基礎知識
- 第6講 損害保険の基礎知識
- 第7講 最近の経済情勢の下での生損保商品の変化
* 自由化・規制緩和と景気低迷の中で
- 第8講 損保の主流＝自動車保険と自賠責保険
- 第9講 企業・家計における火災保険の変化と役割
- 第10講 企業経営と新たなリスクに対応する損害保険
- 第11講 銀行での保険窓販などの募集網の変化
- 第12講 まとめてかえて・保険業法の今日的意義
- 第13講 筆記試験

【評価方法】

出席状況と筆記試験の成績により、総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用しないが、毎回レジメを配布する

【参考文献・資料】

現代保険概論（加藤修著 中央経済社）

証券ビジネス論

島田舒一

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本版ビッグバン後、証券市場、証券会社、証券行政などいずれも変革が進みつつあり、またグローバル化の中で証券ビジネスは質量とも変わってきている。そこで広範囲にわたる証券ビジネスを具体的に論ずるとともに、金融システムや市場の変化の中でどう変わっていくか、その背景と方向性についても考察する。

【授業計画】

- 第1講 証券市場の機能と役割
- 第2講 証券の種類と内容
- 第3講 証券市場の仕組
- 第4講 証券会社の業務1 株式業務
- 第5講 証券会社の業務2 債券業務ほか
- 第6講 銀行の証券業務
- 第7講 投資信託業務
- 第8講 資産運用業務と投資計算
- 第9講 証券流通市場関連業務
- 第10講 国際証券業務
- 第11講 日本版ビッグバンと金融・証券市場の変化
- 第12講 規制緩和と新しい証券ビジネス
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

証券ビジネスの基礎知識（島田舒一著 中部日本教育文化会）

金融システム論

石坂綾子

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中央銀行と金融政策、銀行と証券市場、国際的金融制度（IMF、世界銀行など）など金融システムについての基本的特徴をその機能と歴史的背景から考察する。

【授業計画】

- I ガイダンス —エピソードに見る戦後金融史—
- II 銀行制度・証券制度
- III 金融政策の理論
 - (1) 日本銀行の金融政策
 - (2) 金融自由化と政策の有効性
 - (3) 金融国際化と金融政策
- IV 金融統計の読み方
- V 金融自由化
- VI 円高の政治経済学
- VII 国際金融の基本的仕組み
- VIII 国際通貨体制

【評価方法】

単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

ゼミナール金融入門（斎藤 精一郎著 日本経済新聞社）

簿記Ⅰ

前川三喜男

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

複式簿記の基礎原理と仕訳から財務諸表の作成にいたる会計手続の全体系を概説し、簿記の基礎の理解を完全にするため記帳練習も行う。

【授業計画】

- 第1回 簿記を学ぶにあたって
- 第2回 損益計算書と貸借対照表
- 第3回 取引と勘定
- 第4回 仕訳帳と総勘定元帳
- 第5回 商品売買の記帳方法
- 第6回 現金・預金と手形の記帳方法
- 第7回 その他の勘定の記帳方法
- 第8回 補助簿の記帳方法
- 第9回 試算表
- 第10回 決算
- 第11回 決算修正の記帳方法
- 第12回 損益計算書と貸借対照表の作成
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

例解演習基本簿記（山本孝夫・前川邦生編著 創成社）

簿記Ⅰ

森 恒夫

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

複式簿記の基礎原理と仕訳から財務諸表の作成にいたる会計手続の全体系を概説し、簿記の基礎の理解を完全にするため記帳練習も行う。

【授業計画】

- 第1回 簿記の成立及び現代社会と会計情報
- 第2回 複式簿記の基本原則
- 第3～4回 現金・預金及び商品売買に関する記帳処理
- 第5回 債権・債務及び手形に関する記帳処理
- 第6回 有価証券・資産管理及び資本に関する記帳処理
- 第7回 費用・収益に関する記帳処理
- 第8回 帳簿組織
- 第9～11回 決算の簿記
- 第12回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・平常点及び単位認定試験によって総合的に評価。

【参考文献・資料】

現代簿記会計（大塚宗春他著 中央経済社）
簿記教科書五訂新版（沼田嘉穂著 同文館）

簿記Ⅱ

森 恒夫

1・2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

複式簿記の理解を深めることを目的にして、内容的により高度な個別問題を詳論するとともに、取引の仕訳、勘定記入や財務諸表の作成という具体的処理を論ずる。

【授業計画】

- 第1回 前期簿記Ⅰの復習
- 第2回 債権及び棚卸資産の管理と評価
- 第3回 有価証券及び固定資産の管理と評価並びに繰延資産
- 第4～5回 特殊な商品売買
- 第6～8回 株式会社の資金調達
- 第9回 引当金と偶発債務
- 第10回 本支店会計及び連結会計
- 第11回 コンピューター会計
- 第12回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・平常点及び単位認定試験によって総合的に評価。

【参考文献・資料】

現代簿記会計（大塚宗春他著 中央経済社）
簿記教科書五訂新版（沼田嘉穂著 同文館）

会計学概論

石川雅之

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

一般に公正妥当と認められている会計の諸原則や手続きを学習し、会計諸帳簿の記載事項についての基本的理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 会計の意味
- 第2回 会計報告の必要性
- 第3回 財務会計と管理会計
- 第4回 会計と法令
- 第5回 会計基準の役割
- 第6回 損益計算書の仕組み
- 第7回 貸借対照表の仕組み
- 第8回 キャッシュフロー計算書
- 第9回 財務諸表
- 第10回 中間財務諸表
- 第11回 連結財務諸表
- 第12回 監査制度

【評価方法】

単位認定試験およびレポートによって評価する。

【テキスト】

未定

原価計算

木村彰吾

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

企業活動の原点である物作りと生産物の原価の仕組みを理解するとともに、製品原価の計算方法、目的、手段、利用方法について考察する。

【授業計画】

1. イントロダクション（原価計算の前提）
2. 費目別計算
3. 部門費の計算
4. 個別原価計算
5. 単純総合原価計算
6. 工程別原価計算
7. 組別総合原価計算
8. 等級別総合原価計算
9. 連産品の原価計算
10. 標準原価計算
11. 直接原価計算
12. まとめ

【評価方法】

試験による。日商簿記検定試験2級以上の合格者は、試験の成績に一定の割合で得点を加算する。

【テキスト】

原価計算論（廣本敏郎著 中央経済社）

【参考文献・資料】

日商簿記検定試験用のテキストなど

管理会計

木村彰吾

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の企業経営における意志決定には、予測情報と実績情報が必要不可欠である。企業内の各階層の経営管理者は、これらの提供された情報の分析・解明を通じてどのように合理的な企業経営を行っているか、具体例をあげて講ずる。

【授業計画】

1. イントロダクション（会計の経営への応用）
2. CVP分析
3. 特殊原価計算
4. 投資の意思決定
5. ABC/ABM
6. 原価企画
7. 品質原価計算
8. 企業連携のコスト管理
9. 予算管理
10. 業績管理会計
11. まとめ

【評価方法】

試験による。原価計算の知識がないと講義の理解は難しい。

【テキスト】

原価計算論（廣本敏郎 中央経済社）
管理会計入門（加登豊 日経文庫）

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

監査論

前川三喜男

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

近年、都市銀行や大手証券会社等の上場企業の倒産が相続き、会計士監査のあり方が問題とされている。このような現状下における監査の実態と歴史的な考察ならびに今後の発展のための監査理論について考える。

【授業計画】

2年前期

第1回～第4回「監査の基礎」

- ・ 監査環境の変化
- ・ 監査の位置づけ
- ・ 監査概念の理解
- ・ 監査の発展
- ・ 公認会計士監査の生成と発展

第5回～第13回「監査の基準」

- ・ 監査基準の基礎
- ・ 一般基準、実施基準、報告基準
- ・ 内部統制と試査
- ・ 通常実施すべき監査手続
- ・ 監査意見の表明
- ・ 特記事項
- ・ 会計方針の変更

3年前期

第1回～第6回「監査の展開」

- ・ 連結財務諸表監査
- ・ 中間財務諸表等監査
- ・ 会計監査人監査
- ・ 監査役監査
- ・ システム監査人監査
- ・ 内部監査人監査

第7回～第13回「監査の拡大」

- ・ 中小会社監査
- ・ 四半期財務情報監査
- ・ 予測財務諸表監査
- ・ 経営環境監査
- ・ 環境監査
- ・ 地方自治体監査
- ・ その他

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

「スタンダード監査論」(友杉芳正著 中央経済社)

財務会計論

石川雅之

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

企業等が公表する財務諸表の作成につき、その基礎となる会計処理および手続と、財務諸表の表示方法の基礎的理論を講ずる。

【授業計画】

第1回 財務会計の社会的役割

第2回 財務会計と規制

第3回 企業会計原則

第4回 資産会計の原則

第5回 流動資産

第6回 固定資産

第7回 その他の資産

第8回 負債会計

第9回 資本会計

第10回 損益会計

第11回 財務数値の分析1

第12回 財務数値の分析2

【評価方法】

単位認定試験およびレポートによって評価する。

【テキスト】

未定

経営分析

浅野敬志

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

資金を効率的かつ安全に運用するためには、優良な企業・金融機関とそうでない企業・金融機関を見分ける力が必要である。その力を養うために、本講では、具体的な経営分析の技法を学ぶと共に、外部向けに公表されている財務情報を用いて、安全性・収益性・成長性などの面から、企業や金融機関を実際に評価する。

【授業計画】

1. 経営分析の必要性
2. 財務諸表を理解する
3. 収益性分析
4. 成長性分析
5. 安全性分析と倒産予測力
6. 資産活用の効率性と生産性の分析
7. キャッシュフロー分析
8. 債権分析
9. 株式分析
10. 企業の会計行動とその要因分析
11. 実例を使つての総合分析（1）
12. 実例を使つての総合分析（2）
13. 実例を使つての総合分析（3）

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業において、随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）
 MBA講座 財務・会計
 （J.L.リビンクストン編著 日本経済新聞社）
 企業分析入門（バレブ他著 東京大学出版会）

会計学特論Ⅰ

友杉芳正

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化・情報化に直面している企業経営において、会計学が果たす社会的役割を理論的・実証的に研究し、ビジネスの言語としての会計学が、ステークホルダーの意思決定に有用な会計情報を提供する要件とその信頼性の保証問題を論じる。

【授業計画】

会計学の各論が別途開講されるため、ここでは会計学総論としての基本的、全般的な点の理解に努め、豊かな社会の構築に貢献する会計学の社会的用具としての有用性を講義する。

【評価方法】

出席状況、レポート、小テスト、試験により、総合的に評価する。

【テキスト】

アカウンティング（松尾隼正編著 同文館）

【参考文献・資料】

講義の進度に応じて指示する。

日本経済事情

真田幸光

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

日系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、日々刻々と変化する日本の経済情勢を金融マン的視野から考察する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2～11回 前週に配布した時事経済トピックスに関する資料につき解説を行った上で経済情報に関する意見交換を行う。
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

授業中に配布する。

国際経済事情

真田幸光

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

外国系主要各紙、雑誌等の経済トピックスを毎週採り上げ、世界情勢を分析した上で日本経済がそれにどう対応していくかを考察する。

【授業計画】

- 第1回 年間計画指示・オリエンテーション
- 第2～11回 配布する時事経済トピックスに関する解説を行った上で国際経済情勢について意見交換を行う。
- 第12回 試験
- 第13回 試験解説

【評価方法】

単位認定試験の成績による。

【テキスト】

授業中に配布する。

ビジネスプレゼンテーション

梅田敏文

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

ビジネスの場面における自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から考察する。ビジネスの諸局面で発生する課題を各自で分析し、プレゼンテーションツール（パソコンなど）を使用して実践することにより、プレゼンテーションスキルを取得する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプレゼンテーション概要
- 第2講 パワーポイントの構成と基本機能
- 第3講 プレゼンテーションシナリオの作成
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成（1）
- 第5講 プレゼンテーション資料の作成（2）
- 第6講 プレゼンテーション資料の作成（3）
- 第7講 プレゼンテーション資料の作成（4）
- 第8講 発表（1）
- 第9講 発表（2）
- 第10講 発表（3）
- 第11講 まとめ（1）
- 第12講 まとめ（2）

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著 弘学出版）

スキルマネジメント

浅井敬一郎

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

工学技術が進展するに伴ってスキルが企業の競争力として重要となっている。企業経営におけるスキルの意味を明らかにした上で、スキルの獲得、移転のプロセスについて論じる。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 スキルの概念
- 第3～4回 スキルの特質
- 第5～6回 日本的経営とスキル形成
- 第7～8回 IT化とスキルの変化
- 第9～10回 スキル継承と海外移転
- 第11回 スキル継承における社会の役割
- 第12回 まとめ

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

- 日本のリーン生産システム（石田光男・藤村博之他著 中央経済社）
- 熟練と分業（野村正實著 お茶の水書房）
- 大丈夫か日本のもの作り（馬場錬成著 プレジデント社）
- 鉄を削る（小関智弘著 太郎次郎社）

比較文化特論

國信潤子

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この講座ではジェンダー概念とはどのようなものであるか、また異なる社会にはどのように多様なジェンダー関係があるかについて検討する。社会におけるジェンダー・バランスを統計、事例などを材料に、その背景にはどのような法制度、慣習、宗教、カストなどの社会規範があるかについて検討する。

【授業計画】

まず、各自の持つジェンダー観念を学生に語ってもらい、それをグループ・ディスカッションの形で共有する。社会統計事例、新聞、などに現れるジェンダー関係に関わる情報を批判的に読み解き、ジェンダーそのものの多様性、異文化性を明らかにしてゆく。

またジェンダーに関係する法制、人権規約などについても近年の国連などを通じて出される国際基準がどのようなものであるかについて検討する。各自が担当資料を分析し、報告する形式をとる。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、報告内容などの総合評価による。

【テキスト】

特になし、随時資料配付

【参考文献・資料】

授業時に掲示する。

異文化コミュニケーション特論

霜田一敏

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

異なったライフ・スタイルや価値観を持った人々との共存が時代の要請であり、異質なものの、異文化的なものを知ることは自国文化の本質を知ることでもある。その意味からも、日本人の常識と社交性の特質を取り上げ、究明するなかから外国人とのコミュニケーションを良くする方途を考えてみたい。

基礎演習 I

藤井正志

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

第1講～第12講 演習の受講者が、「お金の世界」が本当はどうなっているかについての理解を深めることを目的とする。テキストを使用し、受講者が交代で自分の担当部分について報告し、質疑応答により進める。

【評価方法】

出席状況と授業への取り組み姿勢によって総合的に評価する。

【テキスト】

マネー崩壊 (B・リエター著 小林他訳 日本経済評論社)

基礎演習 I

國信潤子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

キーワードとしてジェンダー、女性学、男性学、雇用機会均等法、持続可能な社会開発、南北社会対立、などを切り口に、基礎資料、国連文書、研究論文、統計データなどを読み解いてゆく。英文資料を含む。学生各自が自分の問題意識にそって、資料、データなどをリサーチし、レジメ作成の上、報告する。講義形式と学生による報告と両方を並行し、討論なども含めて、ゼミ形式で進める。主体的、積極的に問題意識を発言し、各自のテーマにそって、調査を主体的に進めること。期末レポート提出が義務である。

【評価方法】

ゼミでの報告内容、発言内容、履修態度、リサーチ方法、期末レポートなどの総合評価。

【テキスト】

随時資料配付、参考文献を掲示する。

【参考文献・資料】

随時資料配付、参考文献を掲示する。

基礎演習 I

森下充之

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。そのための基礎知識を対話形式で論ずる。

【授業計画】

世界経済の鳥瞰図を参考書籍『2000 World Bank Atlas』を使用しながら修得させる。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

2000 World Bank Atlas世界200ヶ国の経済・社会・環境 指標 (シュプリンガー・フェアラーク東京)

基礎演習 I

霜田一敏

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

基礎演習 I

梅田敏文

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

プレゼンテーションに関係する以下の項目を検討しながら、各自の調査、分析結果を発表する。

1. プレゼンテーションのシステム分析
 - (1) 聞き手の分析
 - (2) 内容の分析
 - (3) プレゼンターの分析
2. プレゼンテーションの計画
 - (1) 目的の明確化
 - (2) シナリオの作成
 - (3) ツールの活用
3. プレゼンテーション資料の設計
 - (1) 文字とレイアウト
 - (2) 図形の作成
 - (3) 色の種類と効果
 - (4) グラフの利用

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を、総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

基礎演習 I

真田幸光

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

学生各自テーマを選び事業を創設していくということを仮定して情報収集、分析を行い、事業企画書を立案する。教員はこれに対する個別アドバイスを実施する。

【評価方法】

立案した事業企画書による。

【テキスト】

無し。

基礎演習Ⅰ

浅井敬一朗

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心をひきだしていく。

【授業計画】

戦後の日本経済の軌跡を学ぶことにより企業経営を学ぶ前提となるような経済のしくみについて、レポーターが指定されたテキストおよび資料の担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行う。適宜、国際経済、国内経済の新聞記事をグループごとにまとめ、発表する。

ゼミでのディスカッションを通じて、他のひとの意見を聞き、自分の意見との相違点・共通点について考える理解力を養う。さらに、その意見についての前提、事実認識、論理構成について批判的検討を可能にする洞察力を習得する。

また教養を高める意味からも、サブゼミとして『NHKスペシャル映像の世紀（全11回）』を視聴し、レポートを提出する。

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。必要に応じ小テストを行う。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

基礎演習Ⅰ

石川雅之

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

学生による発表と講義をおりまぜながら行う。

基礎演習Ⅰ

浅野敬志

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

下記教科書を使用して、簿記2、3級合格の知識、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを習得させる。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【参考文献・資料】

新検定 簿記講義3級商業簿記H12年版（新井清光・渡部裕宣編著 中央経済社）

新検定 簿記ワークブック3級（新井清光・渡部裕宣編著 中央経済社）

日商簿記2級合格トレーニング（宇南山英夫・渡部裕宣編著 中央経済社）

会社経理入門（金児昭著 日本経済新聞社）

ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）

考える技術・書く技術（バーバラ・ミント著 ダイアモンド社）

基礎演習Ⅰ

石坂綾子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

第1回～第12回 アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告を中心として総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

演習において指示する。

基礎演習 I

島田舒一

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

- 第1～2回 証券、証券市場などの基礎的分野、証券業務と証券ビジネスなどの中からテーマを選択し、問題のとり上げ方、まとめ方について方向づけを行う。
- 第3～6回 テーマごとの発表とディスカッションを通じて問題をクリアーにし理解を深める
- 第7回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ
- 第8回 関心あるテーマを選択し、問題のとり上げ方とまとめ方について方向づけを行う
- 第9～11回 テーマごとの発表とディスカッション。同時に、レポート修正の方向づけを行う
- 第12回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ

【評価方法】

出席状況、課題のまとめ方、理解度などによって評価する。

【参考文献・資料】

証券ビジネスの基礎知識（島田舒一著 中部日本教育文化会）
証券経営の新ビジネスモデル（財団法人 資本市場研究会編 清文社）
現代日本の証券市場（財団法人 日本証券経済研究所編集・発行）

基礎演習 I

森 恒夫

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

簿記には原理原則を頭で理解しただけではどうにもならない、身体で覚えて初めて使いものになるという、スキルの要素が多分にある。自分でやってみて体得することが何より大切であるから、練習を重ねると共に理論的背景及び財務諸表論もあわせて学ぶ。

次の順に個別論点の理解を深める。

- (1) 現金・預金
- (2) 商品売買
- (3) 債権・債務
- (4) 手形
- (5) 有価証券
- (6) 固定資産

【評価方法】

出席状況・平常点により評価

【参考文献・資料】

体系簿記論（飯野利夫監修 税務経理協会）

基礎演習 I

前川三喜男

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

第1回 自己紹介、ゼミの年間計画とすすめ方
第2～13回 上級簿記演習、毎回テーマを決め企業会計の実務で使用されている会計処理の実例を演習するとともに、その基礎となっている会計原則を理解する。

【評価方法】

出席状況、課題に対する研究発表などを考慮して行なう。

【テキスト】

授業中に指示する。

基礎演習 I

石橋善弘

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

基礎演習Ⅰ

竹島貞治

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

経済の国際化に伴って、簿記・会計が国際的に共通の基準（グローバル・スタンダード）にもとづいて実践されるようになってきたことをインターネットなどの最新のコミュニケーション手段を駆使して確認しつつ、ビジネス社会の国際語としてますます重要になってきた簿記・会計の仕組みを学び、会計情報の作り方・活用の仕方を身に付けていく。

【授業計画】

第1回 年間計画指示

第2回～第6回 会計情報の入手の仕方

第7回～第12回 会計情報の活用の仕方

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

授業中に指示する。

基礎演習Ⅱ

藤井正志

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

第1講～第12講 演習の受講者が、「お金の世界」が本当はどうなっているかについての理解を深めることを目的とする。テキストを使用し、受講者が交代で自分の担当部分について報告し、質疑応答により進める。

【評価方法】

出席状況と授業への取り組み姿勢によって総合的に評価する。

【テキスト】

マネー崩壊（B・リエター著 小林他訳 日本経済評論社）

基礎演習Ⅱ

國信潤子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

前期に引き続いて、キーワードとしてジェンダー、女性学、男性学、雇用機会均等法、持続可能な社会開発、開発途上国などを切り口に、基礎資料、国連文章、研究論文、統計データなどを読み解いてゆく。英文資料を含む。学生各自が自分の問題意識にそって、資料、データなどをリサーチし、レジメ作成の上、報告する。講義形式と学生による報告と両方を並行し、討論なども含めて、ゼミ形式を進める。主体的、積極的に問題意識を発言し、各自のテーマにそって、調査を主体的に進めること。

前期に引き続いて、学生各自の問題意識にそったテーマでの調査、研究を継続する。国内外のゲストスピーカーを時折招く。期末レポート作成、提出が義務である。

【テキスト】

随時資料配付、参考文献を提示する。

【参考文献・資料】

随時資料配付、参考文献を提示する。

基礎演習Ⅱ

森下充之

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

世界の国、地域の政治・経済状況を調べ、ビジネスの可能性を探る。そのための基礎知識を対話形式で論ずる。

【授業計画】

学生が選択した国について政治・経済状況を中心に対話形式で調べる。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

基礎演習Ⅱ

霜田一敏

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

基礎演習Ⅱ

梅田敏文

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

プレゼンテーションに関係する以下の項目を検討しながら、各自の調査、分析結果を発表する。

1. プレゼンテーションの実施
 - (1) プレゼンテーションの構造と流れ
 - (2) 導入部/主要部/最終部
 - (3) 質問と応答
2. プレゼンテーションの技法
 - (1) 言葉と声
 - (2) 表情とアイコンタクト
 - (3) 態度と服装
3. プレゼンテーションの評価
 - (1) 聞き手の満足度チェック
 - (2) プレゼンターの成功度チェック
 - (3) 最終目的の達成度評価

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を、総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

基礎演習Ⅱ

真田幸光

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

前期に作成した事業計画書をそれぞれが発表、当該企画の実現性をゼミ参加者全員で議論・考察していく。

【評価方法】

発表内容・議論参加内容による。

【テキスト】

無し

基礎演習Ⅱ

浅井敬一郎

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心をひきだしていく。

【授業計画】

戦後の日本経済の軌跡を学ぶことにより企業経営を学ぶ前提となるような経済のしくみについて、レポーターが指定されたテキストおよび資料の担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行う。適宜、国際経済、国内経済の新聞記事をグループごとにまとめ、発表する。

ゼミでのディスカッションを通じて、他のひとの意見を聞き、自分の意見との相違点・共通点について考える理解力を養う。さらに、その意見についての前提、事実認識、論理構成について批判的検討を可能にする洞察力を習得する。

またテキストとは別に適宜、課題図書を指定し、レポートを提出する。

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。必要に応じ小テストを行う。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

基礎演習Ⅱ

石川雅之

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

学生による発表と講義をおりませながら行う。

基礎演習Ⅱ

浅野敬志

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

下記教科書を使用して、簿記2、3級合格の知識、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを習得させる。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【参考文献・資料】

新検定 簿記講義3級商業簿記H12年版（新井清光・渡部裕宣編著 中央経済社）

新検定 簿記ワークブック3級（新井清光・渡部裕宣編著 中央経済社）

日商簿記2級合格トレーニング（宇南山英夫・渡部裕宣編著 中央経済社）

会社経理入門（金児昭著 日本経済新聞社）

ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）

考える技術・書く技術（バーバラ・ミント著 ダイアモンド社）

基礎演習Ⅱ

石坂綾子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

第1回～第12回 アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告を中心として総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

演習において指示する。

基礎演習Ⅱ

島田舒一

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

第1～2回 証券会社の経営、証券市場の国際化、金融・証券の新ビジネスなどの中からテーマを選択し、問題のとり上げ方、まとめ方について方向づけを行う。

第3～6回 テーマごとの発表とディスカッションを通じて問題をクリアーにし理解を深める。

第7回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ。

第8回 関心あるテーマを選択し、問題のとり上げ方とまとめ方について方向づけを行う。

第9～11回 テーマごとの発表とディスカッション。同時に、レポート修正の方向づけを行う。

第12回 修正したレポートの発表とディスカッションおよびまとめ。

【評価方法】

出席状況、課題のまとめ方、理解度などによって評価する。

【参考文献・資料】

証券経営の新ビジネスモデル（財団法人 資本市場研究会編 清文社）

現代日本の証券市場（財団法人 日本証券経済研究所編集、発行）

金融工学とは何か（苅谷武昭著 岩波新書）

基礎演習Ⅱ

森 恒夫

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

I 前期に引き続き個別論点の理解を深める。

- (1) 繰延勘定
- (2) 資本
- (3) 費用・収益

II 決算の簿記をマスターして、諸会計法規に準拠した財務諸表の作成を学ぶ。

【評価方法】

出席状況・平常点により評価。

【参考文献・資料】

体系簿記論（飯野利夫監修 税務経理協会）

基礎演習Ⅱ

前川三喜男

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

第1回～第6回 上級簿記演習（商業簿記）

第7回～第13回 上級簿記演習（工業簿記）

毎回テーマを決め企業会計の実務で使用されている会計処理の実例を演習するとともに、その基礎となっている会計原則を理解する。

【評価方法】

出席状況、課題に対する研究発表などを考慮して行なう。

【テキスト】

授業中に指示する。

基礎演習Ⅱ

石橋善弘

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

【授業計画】

日常生活にかかわる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により、総合的に評価する。

【テキスト】

未定

基礎演習Ⅱ

竹島貞治

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

それぞれの分野の演習は、学生が選択し、双方向の授業の中で、学生の関心を引き出していく。

経済の国際化に伴って、簿記・会計が国際的に共通の基準（グローバル・スタンダード）にもとづいて実践されるようになってきたことをインターネットなどの最新のコミュニケーション手段を駆使して確認しつつ、ビジネス社会の国際語としてますます重要になってきた簿記・会計の仕組みを学び、会計情報の作り方・活用の仕方を身に付けていく。

【授業計画】

- 第1回～第6回 会計情報の作り方
- 第7回～第12回 会計情報の意味について

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

【テキスト】

授業中に指示する。

法学概論

大嶽 浩

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は「法」という社会規範が綱の目のようにはりめぐらされている。日常生活の中で「法」がいかにかわっているかをふまえつつ、法学の基礎について学ぶ。

【授業計画】

総論

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

各論

1. 法学と「収集」
2. 法学と「きる」
3. 法学と「引用」
4. 法学と「分類」
5. 法学と「技術」
6. 法学と「創造」

【評価方法】

試験による評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

国際法概論

岡田 泉

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

主権国家間の法として成立した国際法の基本概念を把握した上で、個人、民族、国際機構という新たな主体が登場する現代国際社会で、国際法がいかに変貌しつつあるかを、戦争の規制や人権の保障などの分野を中心にみていく。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要と計画の説明
- 第2回 領域とは何か、日本と海洋法
- 第3回 宇宙の平和利用、南極制度
- 第4回 日本の領土問題
- 第5回 外国人の人権—その1（市民的自由）
- 第6回 外国人の人権—その2（帰国の権利）
- 第7回 戦後補償の問題
- 第8回 国連と人権保障
- 第9回 戦争の放棄と国際法
- 第10回 安全保障の問題
- 第11回 核兵器と軍縮
- 第12回 国際人道法
- 第13回 国連の平和維持活動

【評価方法】

受講状況（出席、受講姿勢、質問）、中間レポート、期末試験。以上を総合評価する。

【テキスト】

使用しない。随時、講義資料を配布する。

政治学

西尾林太郎

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

18、19世紀的市民社会と20世紀的大衆社会とを比較対照させつつ、現代社会の特質とそこで発生・展開する政治現象について、多角的に考察するとともに政治学理論を体系的に学び、ボーダレス化と相互依存性が高まった国際社会における国家についても考察する。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - ①国際社会とは？
 - ②国民国家、ナショナルリズム
 - ③トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - ①市民社会と大衆社会
 - ②立法国家と行政国家
 - ③ファシズム、ナチズム
3. 現代の政治過程
 - ①政治と利益団体
 - ②選挙、官僚、議会
 - ③マスメディアとマスコミュニケーション
4. 政治権力とは何か
 - ①人間はどうして支配を受けられるか？
 - ②リーダー・シップ
 - ③シンボル操作
5. 戦後国際社会と55年体制
 - ①冷戦構造と55年体制
 - ②利権の構造

【評価方法】

試験（教科書と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

現代政治学の基礎（西尾林太郎 早稲田経営出版、2000円）

国際政治論

明石陽至

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

第二次世界大戦後の冷戦の開始以来1990年代までの激動する現代世界を理解するための国際政治入門科目である。

【授業計画】

- | | |
|-------|---------------------|
| 第1講 | 序説 第一次、第二次世界大戦 |
| 第2－3講 | ヨーロッパの冷戦開始と激化 |
| 第4－5講 | アジアの冷戦 |
| 第6－7講 | 1950年代の平和共存路線と西欧の統合 |
| 第8－9講 | 中東・東欧の紛争と激動 |
| 第10講 | 60年代の東西対立の再燃 |
| 第11講 | ベトナム戦争・テタント外交 |
| 第12講 | 冷戦の終焉 |

【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの積極的な討論の参加など総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

【テキスト】

20世紀の国際政治（松岡 完著 同文館）

社会学概論

長濱一夫

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会の主要な動向をとりあげ、社会学的手法—個人・集団・社会の相互遡及—と実証的・総合的観点から、検討・分析を加える。すなわち、都市化、情報化、国際化、高度消費化、高齢化などの考察により、現代社会に関する基礎的知識を修得させたい。

【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらおうこともあります。

【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

哲学概論

河邑光夫

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

哲学を一つの専門学科として限定してみるのではなく、ソクラテスのフィロソフィーの精神をうけ、時代を生きながら真理を探究することと解したい。哲学とは隣人との、時代との真摯な対話である。しかし同時に哲学はプラトン、アリストテレスなどのすぐれた原典をもっている。哲学の原典の根本にあるものを説明するが、受講者はその間に人間に共通なものを見出し、ともに考えるようにしてもらいたい。つまりプラトンを通して現代を生きる道を探りたい。

1. ガイダンス

日本の最初の哲学者西周を話し、東洋の日本人が西洋のフィロソフィーを学ぶことの意味を考えたい。

2. ギリシア哲学の立場

古代ギリシア文化を世界史的立場で捉え、インドの宗教や中国の儒教と比較する。

3. ギリシアの自然の哲学とソクラテス

4. プラトンとアリストテレスの哲学

この二大哲学にその後の哲学の原型をみる。

5. アウグスティヌスのキリスト教哲学

6. デカルトの哲学革命

ガリレイ以来の科学革命とデカルト哲学についての内容をみる。

7. カントとヘーゲルの哲学

8. ヘーゲル以後の、現代の哲学

【授業計画】

講義はノートを取りながら聞いてほしい。前期にギリシアを終えたいと思って始めるのですが、プラトンやアリストテレスを現代の我々につなげて話すようにしているのでつい後期までずれこみ、計画通り進まないことが多い。この点は御容赦ねがいたい。

【評価方法】

哲学は自分で考えないところには存在しない。だから試験はあらかじめ問題を出しておきます。自分で勉強して下さい。哲学的にみてよく書けているかをみます。

【テキスト】

西洋哲学史（岩崎武雄 有斐閣 1,845円）

倫理学概論

加藤太喜子

2～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉や環境倫理・生命倫理が例になるように、倫理的なもの人々の関心を集めています。何故なら人間は倫理的な動物であるからです。そこで、本講義では、ソクラテス以降の倫理学を概説しながら、特に、人間の尊厳について考えていきたいと思えます。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 古代ギリシアの倫理思想 (1)
2. 古代ギリシアの倫理思想 (2)
3. カントの倫理学
4. 功利主義論 (1)
5. 功利主義論 (2)
6. 現代の倫理的問題 (1)
7. 現代の倫理的問題 (2)

【評価方法】

期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

倫理学の視座 (新田孝彦著 世界思想社)

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

宗教学概論

川口高風

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本には異なった多くの宗教文化が混在している。宗教に関する基礎的知識を習得するため、世界の九種の宗教を概観し、続いて日本の宗教の神道、仏教、キリスト教、諸教に焦点をあてて役割や現代の状況などをながめてみる。

【授業計画】

- 1: はじめに
 - 2: 宗教の学問的見方
 - 3: 宗教教義の構成 I
 - 4: ク II
 - 5: 世界の諸宗教 I
 - 6: ク II
 - 7: ク III
 - 8: 日本の諸宗教 I
 - 9: ク II
 - 10: ク III
 - 11: 祖師の著作の解説 I
 - 12: ク II
 - 13: まとめ
- 必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

【テキスト】

暮らしのなかの仏法 (法蔵館刊・定価1,500円) を参考資料とする。また、著作などのプリントは当方で用意し配布する。

心理学概論Ⅰ

岩原昭彦

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義では、認知心理学の概説を行う。人間がどのように外界の情報を取り入れ、処理するのに関する心理学的アプローチについて学習する。具体的には、人間の知覚、記憶、学習、思考、言語活動と理解について講義する。

【授業計画】

1. オリエンテーション・心理学とは何か？
2. 心理学の方法：調査・実験の注意
3. 知覚の心理学1：見るしくみ
4. 知覚の心理学2：錯視の説明
- 5～6. 記憶の心理学1：記憶のしくみ
7. 記憶の心理学2：潜在記憶
8. 学習の心理学：条件づけとやる気
9. 思考の心理学：思考のバイアス
10. 発達の心理学：知的能力は生まれつきか？
11. 単語認知の心理学

【評価方法】

期末テスト、または講義内で課すレポートによって行う。実験（あるいは調査）への参加回数も加味する。

【テキスト】

使用せず。講義内で理解の助けになるよう、プリントを配布する予定。

下記の科目は、本年度開講しません。

システムデザインⅠ

梅田敏文

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

金融情報システムのパッケージや最新業務システムを分析することによって、アプリケーションプログラムやデータベースシステムのデザインの概念、方法、手順などを学ぶ。

システムデザインⅡ

内野明

集中 3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

会計システムデザインの方法、仕組みを会計パッケージを分析、解決しながら講義し、会計システムの機能と構造の知識、およびデザインの技法を習得する。

ファイナンス特論

水谷研治

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

企業経営資金の需要者と供給者との間には、現在多種多様な金融機関が存在している。これらの金融構造を学習し、現在の各種金融機関の特色とその役割を理解する。

国際会計

(前期) 山川 勝 (後期) 白木俊彦

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

企業の経営活動の国際化に伴い、各国の会計基準の相違が問題になる。特に、米国会計基準、国際会計基準の動向に注目して会計基準の国際的調和について考察する。また、個別の企業会計の問題として、為替レート変動が企業に与える影響に関して、会計的な側面から論じる。

会計学特論Ⅱ

杉本典之

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

企業や経済の国際化に不可欠な会計制度の国際比較、会計基準の国際的統一化・調和化に資する各国における制度改正の動向把握、企業情報開示政策をめぐる諸問題の解明等を通じて国際的会計政策について論じる。

経済交流史

清水 洋

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際経済交流の歴史的意義を明らかにし、明治期から今日に至るまでの日本と東南アジアの経済交流を事例として、移民、金融、通商、直接投資、ODAなどの面を多目的に考察する。

社会心理学

森久美子

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会心理学における主要な理論・研究について、特に実験的研究を紹介しながら概説する。これを通して、実験社会心理学の枠組みによって、社会的な行動や現象を理解するための基礎的知識を身につける。具体的には、実験社会心理学の方法論のほか、社会的認知、社会的態度、対人魅力、社会的影響過程、集団行動、など社会心理学に関する幅広いテーマに関する実証的研究について解説する。

組織心理学

斎藤和志

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

組織における人間行動を質問紙や面接、観察に基づく調査などから得られた実証的データを用いて、一定の仮説に基づき説明しようとする行動科学的アプローチとしての組織心理学の領域から、いくつかのテーマを取り上げ、考察する。仕事への動機づけと満足の問題、組織におけるリーダーシップの問題、組織内キャリア発達の問題などを取り上げる。

集団行動論

森久美子

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

組織における人間行動を質問紙や面接、観察に基づく調査などから得られた実証的データを用いて、一定の仮説に基づき説明しようとする行動科学的アプローチとしての組織心理学の領域から、いくつかのテーマを取り上げ、考察する。仕事への動機づけと満足の問題、組織におけるリーダーシップの問題、組織内キャリア発達の問題などを取り上げる。

マスコミュニケーション

遠藤雄久

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

マスコミュニケーションの機能、マスメディアの利用、マスの送り手と受け手、ジャーナリズムと世論などについて概説する。また、日本のテレビ放送の歩みをたどり、21世紀の映像メディアの将来像を考える。

放送メディア論

遠藤雄久

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

多メディア化、多チャンネル化、更には国際化の趨勢のなかで、放送システムとりわけテレビ放送の地位は大きく揺らぎ、新しい対応を迫られている。本講義は、テレビ放送の「過去・現在・未来」を具体的な事実、データに基づいて考察し、情報化社会のなかでのテレビ放送の新しい可能性を探る。

現代マーケティング論

石田米和

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義では、様々な関係性に注目した新たな消費者—生活者像、消費の本質、生活価値観の転換あるいはマルチメディアによる情報伝様式等々に焦点を当てた新たな時代のマーケティングのあり方を、様々なデータや事例等を交えて議論していきたい。

消費者行動

石田好江

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

消費者行動分析は、非常に学際的な分野である。本講では経済学による消費選択行動、家計行動を中心に扱うが、他の学問分野の枠組みも取り入れながら、変化する消費者の行動を分析したい。

Communication Strategies I

ジェームズ・A. ジェリー

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

消費者行動分析は、非常に学際的な分野である。本講では経済学による消費選択行動、家計行動を中心に扱うが、他の学問分野の枠組みも取り入れながら、変化する消費者の行動を分析したい。

Communication Strategies II

ジェームズ・A. ジェリー

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

Communication StrategiesⅢ

ジェームズ・A. ジェリー

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、論議やディベートへの対応について考察する。

専門演習Ⅰ

藤井正志 他

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

Communication StrategiesⅣ

ジェームズ・A. ジェリー

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。

専門演習Ⅱ

藤井正志 他

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

ビジネス英語

蜂須賀幸志

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

21世紀、いかにインターネット上の取り引きが主流であっても、ビジネス界で使用される公式社外用ビジネスレターの作成並びに社内報メモランダムの実践的能力の修得は不可欠である。このコースはこうした実践的ビジネス英語の能力養成をゴールとする。

専門演習Ⅲ

藤井正志 他

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

専門演習Ⅳ

藤井正志 他

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

学生の関心に基づき、それぞれの分野の演習を選択する。卒業論文を選択する学生の指導を併せ行う。

商法基礎

上田純子

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講では、商法総則と商行為法に視点をあて、現代社会における企業の組織と活動との関係を具体的事例に基づいて講ずる。

卒業論文・制作

藤井正志 他

4年 通年 選択 8単位

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての中間研究発表をもとにして、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作に結実させる。

税法基礎

上田純子

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

税法の内容を、租税実体法、租税手続法、および租税罰法に大別して、それぞれについて具体的事例に基づいて解説し、税法への理解を深めたい。

民法基礎

川地宏行

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「権利と義務の体系」を中心にして講義を進め、「権利の濫用」と「信義誠実の原則」について具体例をふまえて、日常生活と関わりの深い民法への入門としたい。

税務特講

森 恒夫

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

税法の内税理士試験では必修とされている法人税法および所得税法の重要項目について、徹底的に解明し、理解を深め、計算ミス等のない様に講ずる。

会計特講

前川三喜男

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

株式会社が公表する財務諸表の基礎となる会計理論、財務諸表の作成方法および財務諸表の見方について論求する。

職業指導論

須田宣洋

3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

職業生活に必要な基本的な能力、態度、勤労観及び職業観の育成を目指し、自己の将来の生き方や進路について考えることの出来る人間の育成を目標とする。

商業学校出身者の進路と必要な知識、技能について学習することによって、専門教育に積極的に取り組み、各種技能検定によってより専門的な知識と技能を習得し、経済社会に主体的に生きる人材育成を目指す職業指導の在り方を学習する。

コミュニケーション入門

松本青也 藤井正志 植村勝彦

オムニバス 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

(概要) コミュニケーション学部の教育について、コミュニケーション心理、ビジネスコミュニケーション、言語コミュニケーションの3領域からの学習の動機づけをオムニバス方式で行う。★(オムニバス方式)★(松本青也教授) 言語や文化の異なるもの同士が相互に伝達を図り、交流しようとする場合に生じる様々な問題について、言語特有の発想や文化のもつ価値観、更に言語教育・政策までを比較対照しながら考察する。★(藤井正志兼担教授) コミュニケーションの問題について、現実的なビジネスの立場に立って、効果的なコミュニケーションの在り方を考察する。★(植村勝彦兼担教授) コミュニケーションの問題を心理学の立場からの理解の仕方を紹介する。中でも対人コミュニケーションについて、その理論を現実社会の問題とからめて取上げる。

【授業計画】

- 第1講 導入
- 第2講 言語と思考
- 第3講 言語と社会
- 第4講 言語と教育
- 第5講 言語と文化
- 第6講 職場の活性化とコミュニケーション
- 第7講 職場における人材教育とコミュニケーション
- 第8講 企業経営のコンセプトの変化とコミュニケーション
- 第9講 国際ビジネスの場におけるコミュニケーション
- 第10講 ありのままを知らせるコミュニケーション：自己開示
- 第11講 自分を演出するコミュニケーション：自己呈示
- 第12講 対人交渉のコミュニケーション：要請と承諾
- 第13講 非言語コミュニケーション：ボディ・ランゲージ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

コミュニケーション学入門ー心理・言語・ビジネスー
(植村勝彦・松本青也・藤井正志著 ナカニシヤ出版)

心とコミュニケーション

坂田陽子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

個人は意識の中心にある自我を軸とした人格と無意識にあるもうひとりの自分の両者のバランスを生きることになる。また、人と人とのコミュニケーションの歪みが個人の病理を生じさせることが明らかになってきており、そうした家族コミュニケーションのあり方も含めた、心の不思議について述べていきたい。

【授業計画】

授業は講義形式で、以下のタイトルに従って進められる。感想などを募って、興味深い内容については掘り下げて検討するつもりなので、主体的に参加して欲しい。

1. ものの世界とこころの世界
2. こころと人間関係
3. こころ？性格？人格？
4. 自分のこころ
5. こころの育ち
6. こころの問題
7. こころを癒す

【評価方法】

成績は出欠を考慮してテストで評価する。テストは手書きのノートのみ持ち込み可(コピーを持ち込んだ場合は失格)とするので、毎回出席しないとテストの時に慌てることになる。

【テキスト】

使用テキストなし。講義中に参考文献を紹介。

言葉とコミュニケーション

張 勤

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間のコミュニケーションの手段は様々あるが、本講義では言葉によるコミュニケーションにスポットライトをあて、言葉とコミュニケーションの複雑な関係を整理し、言葉のコミュニケーションにおける役割を考える。

【授業計画】

- 第1回 言葉によるコミュニケーションとは
実践：中国語コミュニケーション（1）
- 第2回 依頼のストラテジー（1）
実践：中国語コミュニケーション（2）
- 第3回 人間関係とコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（3）
- 第4回 依頼のストラテジー（2）
実践：中国語コミュニケーション（4）
- 第5回 丁寧さとコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（5）
- 第6回 挨拶のストラテジー
実践：中国語コミュニケーション（6）
- 第7回 社会関係とコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（7）
- 第8回 質問のストラテジー
実践：中国語コミュニケーション（8）
- 第9回 言語行為とコミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（9）
- 第10回 非言語コミュニケーション
実践：中国語コミュニケーション（10）
- 第11回 コミュニケーションにおける日本語の可能性
実践：中国語コミュニケーション（11）
- 第12回 コミュニケーションにおける中国語の可能性
実践：中国語コミュニケーション（12）

【評価方法】

出席状況とレポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

講義中に指示する。

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

ビジネスとコミュニケーション

浅井敬一郎

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本企業の海外戦略の方向性をケーススタディーを通して学習。その中でビジネス交渉に関するキーポイントを解説し、生きたコミュニケーション術を考察する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～3回 企業経営の仕組み
- 第4～6回 IT化がビジネスに与える影響
- 第7～9回 日本企業の国際化と問題点
(組織感覚の違いとコミュニケーション)
- 第10～12回 企業と社会のコミュニケーション
- 第13回 まとめ

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

- いま、なぜビジネスコミュニケーションか（宮智宗七著 アルク新書）
- アジアからの視線（今田高俊・園田茂人編著 東京大学出版会）
- 国際経営（吉原英樹著 有斐閣アルマ）

コンピュータ入門

三和義秀 出口智子

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータの初心者を対象にWindowsの基本操作、ワープロソフトの操作、並びにインターネットの使用法について学習する。授業のゴールは2つで、(1) レポートをワープロで作成できるようになること、(2) メールを使つてのコミュニケーションができること、である。

【授業計画】

- 第1回 Windowsの基本操作 (1)
- 第2回 Windowsの基本操作 (2)
- 第3回 ワープロソフトの操作 (1)
- 第4回 ワープロソフトの操作 (2)
- 第5回 ワープロソフトの操作 (3)
- 第6回 ワープロソフトの操作 (4)
- 第7回 メールを使い方 (1)
- 第8回 メールを使い方 (2)
- 第9回 ブラウザ使用法
- 第10回 ブラウザの活用
- 第11回 画像ソフトの使用法
- 第12回 その他アプリケーションの操作法
- 第13回 テスト

【評価方法】

出席、レポートの提出、並びにテストの総合評価による。

【テキスト】

授業中に指示する。

コンピュータ応用

森久美子 出口智子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

データの集計、整理、分析を行うために不可欠の道具である表計算ソフトの基本的操作方法を習得する。

【授業計画】

1. Excelの基本操作 (1)
2. Excelの基本操作 (2)
3. Excelの基本操作 (3)
4. Excelでグラフを作る (1)
5. Excelでグラフを作る (2)
6. Excelでデータベースを使う (1)
7. Excelでデータベースを使う (2)
8. ExcelとWordの連携
9. Power Pointでのプレゼンテーション作成 (1)
10. Power Pointでのプレゼンテーション作成 (2)
11. Power Pointでのプレゼンテーション作成 (3)
12. アプリケーション間の連携
13. 試験

【評価方法】

出席、課題の提出、並びにテストの総合評価による。

【テキスト】

Microsoft Excel 2000 I よくわかるトレーニングテキスト (FOM出版)

プレゼンテーション

松田照美

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書の取り扱いなどについて学習する。

【授業計画】

- 第1回 プレゼンテーションを学ぶにあたって
- 第2回 コミュニケーションは協同作業
- 第3回 効果的な言語表現（1）
- 第4回 効果的な言語表現（2）
- 第5回 電話によるコミュニケーションの特性
- 第6回 ビジネス電話における自己表現
- 第7回 文書による表現技法
- 第8回 文書による表現
- 第9回 対人接遇の基礎－印象管理－
- 第10回 対人接遇の基礎－ビジネスマナー－
- 第11回 面接でのプレゼンテーション－先入印象－
- 第12回 面接でのプレゼンテーション－自己PR－
- 第13回 ビジネスプレゼンテーション

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによって総合的に評価する。

【テキスト】

説明・説得のプレゼンテーション技法（三浦大亮・通産資料調査会）

【参考文献・資料】

社会人のパスポート増補版（東福賢監修 嵯峨野書院）

異文化トレーニング

近藤祐一

集中 2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々がともに生活し、問題を解決するためにどのような知識・態度をもちながらコミュニケーションを取るべきかについて、ロールプレイやシミュレーションを用い分析・考察する。

【授業計画】

異文化コミュニケーションとは
授業の概要・授業の進め方について
どう言えば...
言語メッセージとコミュニケーション
黙って座ればびしゃりとあたる
非言語メッセージとコミュニケーション
あばたもえくぼ
知覚
私の大事なもの
価値観とコミュニケーション－1
「水戸黄門」の謎
価値観とコミュニケーション－2
あなたって回りくどい！
文化と思考方法
私はだれ？
ステレオタイプ
あなたは男だから...
共文化
もう昔の私には戻れない...
異文化コミュニケーションと自己変化

【評価方法】

授業の特質上、出席状況および授業への参加度に重きを置く。また、ジャーナルおよび最終レポートを課す。

【テキスト】

関連する資料を適宜授業中に配布する。

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ディビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング
ハリー・T. ノリス ジェームズ・A. ジョリー ディビッド・P. レヴィ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEFL (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEFL means “Test Of English as a Foreign Language”.

This course is not available for students who have completed TOEFL level II (2) or higher.

This is an introductory level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

Assessment for TOEFL I (1) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. Students combined TOEFL ITP score and attendance will be used to set grade.

A minimum TOEFL ITP score of 339 must be achieved to receive a passing grade

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅠ

ディビッド・C. ダイカス ジョナサン・E. ロング
ハリー・T. ノリス ジェームズ・A. ジョリー ディビッド・P. レヴィ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEIC (1)

高校時代の英語学習単位数、ネイティブの授業経験の有無、英語の学力等の点からみて、英語の聞き取り及び表現の基礎的能力のトレーニングを必要とする者を対象とする。授業では、TOEFL やTOEICなどの試験を目標として、各自の学習歴及び学力によりクラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の基礎的運用能力を強化する。

TOEIC means “Test Of English for International Communication”.

This course is not available for students who have completed TOEIC level II (2) or higher.

This is an introductory level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions/responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

Assessment for TOEIC I (1) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance.

A minimum TOEIC ITP score of 220 must be achieved to receive a passing grade

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

ジョナサン・E. ロング ディビッド・P. レヴィ
シャレル・A. ラインツマ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEFL (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEFL level III (3) or higher.

This is a basic level course for preparation for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

The TOEFL test covers seven different types of questions to test English ability.

1. Listening comprehension
 - A. Short conversations
 - B. Long conversations
 - C. Talks (short lectures)
2. Structure and written expression (grammar)
 - A. Structure
 - B. Written expression
3. Reading comprehension
 - A. Reading comprehension
 - B. Vocabulary

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed TOEFL I (1).

TOEFL II (2) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 375 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL I (1).

TOEFL II (2) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEFL I (1) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅡ

ジョナサン・E. ロング ディビッド・P. レヴィ
シャレル・A. ラインツマ

1・2年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEIC (2)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 500点、TOEIC 640点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEIC level III (3) or higher.

This is a basic level course for preparation for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the student's to the type of questions to expect in the TOEIC test.

The TOEIC test covers seven different types of questions to test English ability.

- A. Listening comprehension
 1. Sentences about photographs.
 2. Questions/responses
 3. Dialogues
 4. Short talks
- B. Reading comprehension
 5. Sentence completion
 6. Error identification
 7. Short passages

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed TOEIC I (1).

TOEIC II (2) will be based on the students TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 310 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC I (1).

TOEIC II (2) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEIC I (1) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEFL level IV(4) or higher.

This is a high-beginner course for the TOEFL test. TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEFL score.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. For students who have completed TOEFL I(1) or TOEFL II(2) courses.

The TOEFL III(3) grade will be based on the students classwork, homework and attendance. Assessment will not be based on TOEFL score.

Students can ,but will not have to do the TOEFL ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEFL course. A minimum score of 400 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEFL ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅢ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (3)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、キメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングⅣの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEIC level IV(4) or higher.

This is a high-beginner course for the TOEIC test. TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test. This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. For students who have completed TOEIC I(1) or TOEIC II(2) courses.

The TOEIC III(3) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEIC score.

Students can but will not have to do the TOEIC ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEIC course.

A minimum score of 375 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEIC ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEFL (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEFL level V(5) or VI(6).

This is a pre-intermediate level course(TOEFL 420+) for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. TOEFL test like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEFL ITP test.

TOEFL IV(4) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 422 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL II(2) or III(3).

TOEFL IV(4) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their previous TOEFL ITP total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅣ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

1～3年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】 TOEIC (4)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 550点、TOEIC 720点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This course is not available for students who have completed TOEIC level V(5) or VI(6).

This is a pre-intermediate level course (TOEIC 425+) for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. TOEIC test like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEIC ITP test.

TOEIC IV(4) will be based on the student's TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 430 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC II(2) or III(3).

TOEIC IV(4) will be based on the students' TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on improvement from their previous TOEIC ITP total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2~4年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEFL (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVIの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEFL level VI (6).

This is an intermediate course(TOEFL 440+) for the TOEFL test.

TOEFL test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEFL test.

This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEFL score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEFL III (3) or IV (4) courses.

TOEFL V (5) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEFL score.

Students can but will not have to do the TOEFL ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEFL course, a minimum score of 400 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEFL ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

[Textbooks]

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングV

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2~4年 前・後期 選択 2単位

[Course Content] TOEIC (5)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験の受験結果により測定された各自の英語能力を客観的に把握させ、そこからより自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFLやTOEICなどの試験スコアにより、クラス編成を行い、学力差に対応したキメ細かい学習指導を行い、英語の運用能力を強化し、英語能力測定試験への受験意欲の向上を目指し、TOEFL・TOEICトレーニングVIの授業につなげる。

This course is not available for students who have completed TOEIC level VI (6).

This is an intermediate course(TOEIC 475+) for the TOEIC test.

TOEIC test-like exercises will be used to accustom the students to the type of questions to expect in the TOEIC test.

This course aims to develop the students general English ability. This will in turn produce an improved TOEIC score.

[Schedule]

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

[Assessment]

1. For students who have completed TOEIC III (3) or IV (4) courses.

TOEIC V (5) grade will be based on the students classwork, homework and attendance.

Assessment will not be based on TOEIC score

Students can but, will not have to do the TOEIC ITP test.

2. For students who have not completed a previous TOEIC course, a minimum score of 375 must be achieved to receive a passing grade.

It will be necessary for students to do the TOEIC ITP test.

Grades of "A, B or C" will be based on classwork, homework and attendance.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

[Textbooks]

To be announced.

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEFL (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a high-intermediate to advanced level course (TOEFL 450+) for the TOEFL test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEFL test. Listening comprehension and reading comprehension will be the main areas of study

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEFL ITP test.

TOEFLⅥ(6) will be based on the students TOEFL ITP score and their attendance. A minimum TOEFL ITP score of 458 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEFL IV (4) or V (5).

TOEFLⅥ(6) will be based on the students TOEFL ITP total score and their attendance. The score will be based on an improvement from their TOEFL IV(4) or V(5) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEFL test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEFL class.

【Textbooks】

To be announced

TOEFL・TOEICトレーニングⅥ

ジョアン・M. ウッドマン
ジェームズ・A. ジョリー

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】TOEIC (6)

TOEFL・TOEICなどの英語能力測定試験を利用することにより、各自の英語能力を客観的に把握させ、そこから自主的な英語学習を促すものである。

授業では、TOEFL 600点、TOEIC 860点などを到達目標として演習を行い、英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指す。

This is a high-intermediate to advanced level course(TOEIC 550+) for the TOEIC test. It will give step by step strategies and skills to improve performance on each of the seven sections of the TOEIC test. Listening comprehension and reading comprehension will be the main areas of study

【Schedule】

The order in which material will be presented will be determined by each instructor according to their judgement of the students' needs.

【Assessment】

1. Assessment for students who have not completed a TOEIC ITP test.

TOEICⅥ(6) will be based on the students TOEIC ITP score and their attendance. A minimum TOEIC ITP score of 520 must be achieved to receive a passing grade

2. Assessment for students who have completed TOEIC IV (4) or V (5).

TOEICⅥ(6) will be based on the students TOEIC ITP total score and their attendance. The score will be based on improvement from their TOEICⅣ(4) or V(5) total score.

IMPORTANT: Research has shown that taking general English classes improves TOEIC test scores. All students are encouraged to take two or more other English courses in addition to this TOEIC class.

【Textbooks】

To be announced

異文化コミュニケーション

高井次郎

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

異文化の相手との相互作用を円滑に運ぶために必要な知識、態度および対人行動技術について、言語および非言語行動を中心に考察する。日本的対人行動パターンの自覚を通じて、異文化コミュニケーションの障壁となり得る要因を考察する。

【授業計画】

1. コミュニケーションの定義
2. 文化とコミュニケーション
3. 言語コミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション
5. 対人認知
6. ステレオタイプ
7. 人種偏見
8. 人種差別
9. 異文化間能力
10. 異文化間トレーニング
11. コミュニケーション研究
12. コミュニケーション理論
13. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

異文化コミュニケーション論（古田 暁編 有斐閣選書）

国際交流論

榎田勝利

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

経済大国となった日本は、国際社会の有力な一員として責任ある行動をとることが必要となってきた。近年の「国際化」に伴い、政治、経済、学術、芸術、スポーツなどの分野でも、盛んに国際交流が行われているが、果たして真の交流が実現しているのだろうか。主に日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のありかたについて論ずる。

【授業計画】

講義と各学生によるプレゼンテーションにより授業を展開する。

- 1) 戦後の国際交流の軌跡
- 2) 日本の国際交流の現状と課題
 - ・多様化、複雑化する国際交流
 - ・自治体主導の地域の国際化
 - ・民間非営利活動の社会的認知
- 3) NGOとボランティア
 - ・国連組織とNGO
 - ・国際ボランティア
- 4) 交流相手から見た国際交流
- 5) 国際交流活動を担う専門的な人材育成
 - ・プログラム・オフィサーと求められる能力
- 6) 多文化共生社会と多文化共生能力
 - ・多文化共生社会とは
 - ・求められる多文化共生能力
- 7) よりよい地球市民社会の形成を目指して

【評価方法】

課題研究レポートおよび平常点にて評価する。

【テキスト】

国際交流入門（榎田勝利監修 アルク）

【参考文献・資料】

実践国際交流（大阪国際交流センター発行）
在日外国人（新版）（田中 宏著 岩波新書）
外国人労働者から市民へ（宮島・梶田編 有斐閣）
異文化接触と日本人（横田・堀江編 至文堂）
ボランティアが変える世界（ケン・アレン著 アルク）

メディア論

遠藤雄久

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本構の目的は、マルチメディア時代といわれる現代のメディア状況をよりよくとらえるために、歴史社会的視点に立ってメディアと人間・社会の関わり方を振り返って見ようというものである。十九世紀後半に出現した電信、電話から始めテレビジョンそしてパーソナルコンピュータに至る電子メディアの発展の過程を、人間や社会がどのようにメディアをデザインしてきたかという観点からたどっていく。

【授業計画】

- 第1回 総論
- 第2回 新聞の誕生と発展
- 第3回 新聞ジャーナリズム
- 第4回 電信と電話の発明
- 第5回 ラジオ放送の開始
- 第6回 写真技術の開発
- 第7回 映画の誕生
- 第8回 ハリウッド映画と観客
- 第9回 映画ソフトの多様化
- 第10回 テレビ放送の誕生と発展
- 第11回 デジタル放送
- 第12回 メディアの境界領域
- 第13回 まとめ

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績を総合判断する

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際関係論

明石陽至

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講座は国際関係論入門科目である。多様な国際関係を国家・民族の利害・戦略が交錯する国際社会の動きや構造を外交・国力・経済など視点から国際関係論と仕組を体系的に解き明す。

【授業計画】

- 第1講 国際関係論のアプローチ
- 第2講 国家と国際体系
- 第3～4講 国家の能力と影響力
- 第5～6講 外交政策の決定
- 第7～8講 外交政策の手段
- 第9～10講 各国の外交
- 第11講 国際平和の維持
- 第12講 南北問題・国際平和へのアプローチ

【評価方法】

出席状況と試験の成績、クラスでの討論の積極的参加等を総合的に評価する。欠席回数は3回を限度とし、それ以上欠席した学生を単位取得失格とする。

【テキスト】

新国際関係論 (花井等著 東洋経済新報社)

異文化教育論

霜田一敏

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を国際理解教育の観点から具体的に論究する。

比較教養論

渡辺かよ子

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

言語を中心とする「教養」に関する各国の思想史を概説し、国際化・高齢化・情報化の進展の中で今後の自己教育としての「教養」の在り方、普遍的教養の有無、コミュニケーションの基礎としての「教養」の問題を論じる。

【授業計画】

- 1：古代ギリシャ時代の教養と人間観
- 2：中国の伝統的教養と人間観
- 3：インドの伝統的教養と人間観
- 4：キリスト教の人間観と教養
- 5：西洋近代思想の人間観と教養
- 6：近現代日本の修養論と教養論
- 7：教養とコミュニケーション

【評価方法】

平常レポートと討議

【テキスト】

地球市民を育てる教育（箕浦康子 岩波書店）

【参考文献・資料】

教養とヒューマニズム（村瀬裕也 白石書店）
ディスタンクシオン（ブルデュー 藤原書店）
新しい教養を拓く（筒井清忠編 岩波ブックレット）
知と教養の文明学（梅棹忠夫他編 中央公論社）
東洋と西洋（レーヴィット 未来社）
美徳なき時代（マッキンタイア みすず書房）
知の文化と型の文化（鹿毛誠一 創文社）

比較文化論Ⅰ（日・米）

松本青也

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

集団が共有する価値観や規範の体系としての文化について、日本とアメリカを比較対照して、それぞれの文化の特質を浮き彫りにするとともに、異文化理解を深める方法についても考察する。

【授業計画】

アメリカのテレビ番組や新聞雑誌の分析を加えながら講義と意見交換で進行するこの授業は、いわば自国文化に縛られた自分の姿を映し出す鏡。覗いてみると、もっと自由で伸びやかな生き方が目の前に広がります。

1. 文化論
- 2～9. 文化変形規則（CTR）
10. システムとしてのCTR
11. 研究対象としてのCTR
12. 日本語の衝突とCTR
13. CTRと学校英語教育
14. これからの日米文化

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価

【テキスト】

日米文化の特質（松本青也 研究社）

比較文化論Ⅱ（日・欧）

トマー・トドロヴィック

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

西ヨーロッパの主な国（フランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化活動の状況、問題点に関する最近のデータを利用して比較を行ない、異文化（ヨーロッパ文化）への理解と関心を深める。

【授業計画】

西ヨーロッパ諸国の文化の特色について、各種データを用いて日本文化と比較対比しながら、次の順序で概説し、ヨーロッパ文化への理解と関心を深める。

- (1) フランス文化の特色
- (2) イギリス文化の特色
- (3) ドイツ文化の特色
- (4) イタリア文化の特色
- (5) スペイン文化の特色

【評価方法】

レポートにより評価する。

【テキスト】

特に指定しないが、授業時に参考図書、参考資料について指示する。

言語学概論 I

田中春美

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

日本語学と英語学の基盤となる言語学の広大な分野を概観し、人間の言語に共通する特性、どの言語にも適用できる音声面・文法面・語彙面の分析の手順、言語の変化と系統などについて学ぶ。

【授業計画】

言語の一般的特徴、言語の構造などの概論から始め、各論として音声学と音韻論、文法、意味論、歴史・比較言語学などに進む予定。

【評価方法】

筆記試験を中心に、学期中に提出してもらう1～2回のレポートも評価に加える。

【テキスト】

言語学演習（田中春美ほか著 大修館書店 2,200円＋税）

応用言語学概論 I

松本青也 B. サン・ジャック
アンドリュウ・J. ムーディー

オムニバス 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

応用言語学の分野を概観しながら、言語について様々な問題を考える。オムニバス方式。

1. 松本青也：母語と外国語の習得、日本語と英語の、背景文化も含めた比較対照、マルチメディアにおける言語の機能、人間関係において言語が果たす役割、異なる言語間に起こる問題、などを概説する。
2. バーナード・サンジャック：「教養としての応用言語学」をテーマに、言葉の多様性と普遍性、世界の言語、地理的、及び社会的方言、言語干渉、翻訳、通訳などの問題を考察する。
3. アンドリュウ・ムーディー：社会言語学の視点から、共通語としての世界の多様な英語の歴史と現状、非英語圏の人々の英語に対する意識、言語政策などを考察する。

【授業計画】

第1～5回：松本青也担当

第6～10回：バーナード・サンジャック担当

第11～14回：アンドリュウ・ムーディー担当

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

プリント、等。

English Interaction I

ジョリー幸子

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

【授業計画】

- 第1週 コースオリエンテーション
- 第2週 Articulatory Phonetics
- 第3週 How's it going?
- 第4週 How's it going?
- 第5週 Passport, please.
- 第6週 Passport, please.
- 第7週 May I help you?
- 第8週 May I help you?
- 第9週 Just a moment, please.
- 第10週 Just a moment, please.
- 第11週 Homemade
- 第12週 Oral Presentations

【評価方法】

毎回の授業への参加、グループ発表（会話寸劇）の成績、及び期末試験の結果に基づいて、総合的に判定する。

【テキスト】

- ① A Handbook of Daily Conversation.
大学生のための日常英会話 (Jim Knudsen
Nan'un-do, 1996. ¥1900)

English Interaction I

アンドリュー・J・ムーディー

1年 前期 必修 2単位

【Course Content】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

This course will emphasize the importance of speaking and listening to English in an interactive approach. Students will be asked to study a particular topic each week in depth in an attempt to develop interaction skills. The purposes of the course will assume interaction with English speakers that students would likely have while living in Japan.

【Schedule】

Some of the specific topics that will be address in this class include:

- ・ introductions
- ・ small talk
- ・ friendships
- ・ meals
- ・ formal rituals
- ・ student interaction
- ・ close friendships
- ・ sociolinguistics
- ・ non-verbal communication
- ・ listening activities
- ・ persuasion & society
- ・ academic discussion

【Assessment】

daily participation 25%
homework 25%
report 25%
examination 25%

【Textbooks】

The textbook for this class will be announced at the first class meeting. Depending on the level of students when they enter the class, text materials will be developed that respond to the particular needs and interests of the students.

English Interaction I

ダニー・T. モルデン

1年 前期 必修 2単位

[Course Content]

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

This course aims to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

[Schedule]

The course will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Greetings
2. Small talk
3. Social encounters.

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

[Textbooks]

A text may be assigned on the first day of the course.

English Interaction I

ジョナサン・E. ロング

1年 前期 必修 2単位

[Course Content]

This section of English Interaction I will stress the language and thought patterns that are used in the academic setting. Special attention will be given to developing the mental and verbal skills to present one's ideas with clarity, factual support and in a logical manner. The students will be expected to do some research, discussion, oral presentations and reaction papers.

[Schedule]

Not yet determined.

[Assessment]

Assessment will be based upon

1. outside research (10%)
2. class attendance (10%)
3. oral presentations (50%)
4. reaction papers (30%)

[Textbooks]

To be announced.

English Interaction I

ポール・C．リンガー

1年 前期 必修 2単位

[Course Content]

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

The overall goals of this course are twofold: to promote lively interaction and to heighten student sensitivities to the diversity of others' thoughts, ideas, opinions, and values.

Communicative activities will be organized to stimulate real conversation as much as possible and therefore will provide motivation for the students to speak and increase their ability to communicate effectively.

[Schedule]

Each topic will be covered over a 2 or 3 week period and will include the following themes:

- ・ college life
- ・ dating and marriage
- ・ leisure
- ・ changing cultures
- ・ roles of men and women
- ・ beliefs and values

[Assessment]

Assessment will be continuous and will be based on the following criteria:

- ・ ATTENDANCE
- ・ CLASS EFFORT/PARTICIPATION
- ・ HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- ・ END OF SEMESTER REPORT

[Textbooks]

To be announced.

Cyber-English I

ジェニファ・J．マギー

1年 前期 必修 2単位

[Course Content]

Eメールやメーリングリスト、さらにリアルタイムなチャットなどによる、コンピュータを介しての英語コミュニケーションを実際に経験する。お互い同士の英語によるやり取りも活動に含めながら、インターネットの歴史と仕組みにも触れる。

[Schedule]

1. Introduction to the Internet
2. Looking at English Web pages
3. Exchanging English email with classmates
4. Real-time chat with classmates

[Assessment]

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

[Textbooks]

None. There may be readings on the Internet assigned by the teacher.

中国語概論

馮 富榮

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

中国語の漢字、発音、文の構成規則などにおける中国語全体の特徴について重点的に説明する。また日本語と中国語の比較をしながら、両言語の相違による中国語の学習の困難点を探る。

【授業計画】

主として以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

- ① 日本語の発音との違いによる中国語の発音の難点を詳しく説明し、その難点を克服する方法を提示する。学生の一人一人が立派な発音を身に付けることができるように、発音を徹底的に訓練する。学生の一人一人が研究室に来て、一対一で発音の練習ができるような時間帯を設定する。
- ② 中国語表現の基本的、尚且つ重要な文型を中心に説明する。
- ③ 単語リストを用意し、授業で習った基本文型の使用練習を繰り返して行う。よって中国語の実際実用能力を高め、中国語の基礎を固める。
- ④ 日本語の基本文型との違いを比較することによって、中国語の基本文型への理解を深め、中国語表現の特色を掴める。
- ⑤ 練習問題を宿題に出し、宿題に出た問題点について説明をする。

【評価方法】

学期末試験の成績に、出席状況及び平日の宿題の完成状況、小テストの成績を加味して、総合的に判断する。

【テキスト】

自作教材。

【参考文献・資料】

《初級漢語課本》第1冊と第2冊 北京語言学院出版社

中国語読解 I

郭 伏良

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

主として、「是」による判断文、形容詞による描写文、動詞による叙述文と存在文などを中心にして説明していく。いわゆる中国語の入門編にあたる講義である。

【授業計画】

学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているので、中国の学校、社会、経済及び文化習慣などを紹介する多くの楽しい話題を提供する。授業の展開の仕方としては、主として以下のステップを踏む。

- ① 文法現象などを詳しく分析しながら読む。この段階では、内容と文法を含めて文章の徹底的な理解を迫る。
- ② 本文を概略的に読んで、内容を要約する。この段階では、文章を完全に理解しなくてもよいが、できるだけ速く大体の意味を理解する訓練を行う。
- ③ 時間を制限して読んで、文章の意味を理解する。この段階では、文章の読む時間を制限する。制限時間が来ると、学生たちをグループに分け、グループ内で文章の内容について話しあう。よって自分の理解できない部分を補う。

【評価方法】

期末テストの成績と出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

閲読理解（北京語言学院出版社）

中国語作文Ⅰ

馮 富榮

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の学習者にとって、読んで理解するだけでなく、自分で中国語が書けることも必要である。ゆえに、本講義では、作文の練習を反復して行なう。よって、中国語に関する基礎的な文法知識と基本的な語彙の使い方をマスターする。

【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。

この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われてるように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

- ① メッセージの書きかたの練習をする。
- ② 日記の書き方の練習をする。
- ③ 手紙の書き方の練習をする。
- ④ 知らせの書き方の練習をする。

もちろん、上述した各練習に入る前に、教師側から、書き方の説明、書くときの注意事項などについて講義するほか、例文も提供する。そして学生の作文に出ている問題点も詳しく説明する。

【評価方法】

出席状況や平日の宿題の提出状況などを考えて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

自作教材。

【参考文献・資料】

基礎漢語写作（北京語言学院出版社）

中国語会話Ⅰ

郭 伏良

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

自己紹介、初対面の挨拶、家庭で交わされている家族の間での基本的な挨拶、また友達同士でよく使われている基本的な会話、要するに中国語会話の基本を中心に説明する。会話の練習をすると同時に、発音の徹底的な指導を行う。

【授業計画】

以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

- ① まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
- ② 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
- ③ 本文の内容をめぐる学生と中国語で会話をする。
- ④ 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
- ⑤ 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんなで楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。要するに、この授業を履修することによって、中国人と簡単な会話ができるように期待している。

【評価方法】

出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

プリントを配布する。

日本語論Ⅰ

窪田守弘

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

日本語とはどういう言語かについて、その系統、周辺の言語との関係、また日本語の位置などを概観する。そして、特に日本人の話し言葉と書き言葉の違い、地域による違い、性別による違い、階層による違いなどをまとめ、日本人がどのような言語生活を送っているかについて、資料やデータを十分活用しながら言及していく。

【授業計画】

日本語には多くの特徴や面白さがあり、それが現代の日本人の言語運用にどのように反映されているかを解明する。そして日本語の構造を中心として生きた日本語の諸相について、具体的な例をあげながら考えていく。本講義は、日本語と外国語との比較も随時行ない、広い視野より日本語を考え、発音・語彙・文法・文体などの領域が概観できるように配慮する。主な内容は次のようになっている。

〈日本語の世界に触れる〉

1. 日本語の特色
2. 新しい日本語の特徴
3. 日本語の国際化
4. 方言の魅力

【評価方法】

学期末の試験結果、提出レポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

日本語論（窪田守弘著 見学出版 2,000円）

【参考文献・資料】

ムービーDEイングリッシュ（窪田守弘編著 スクリンプレイ出版 1,200円）

日本語表現演習Ⅰ

山内啓介 窪田守弘

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

この演習は、学生の書いた小論文を毎回添削することに大きな特徴がある。それは、日本人として日本語の文章の基本的な表現力を身につけることを目標としているからである。そのために、学生は新聞や週刊誌などを主な教材として、毎回提示されたテーマに従って自分の考えをまとめ、書く練習を繰り返して文章の完成を図る。そして、それを他学生の前で発表して、お互いがディスカッションを通じてテーマの内容を深めていくようにする。

【授業計画】

- 1 演習ガイダンス 自己紹介文の作成 350字
- 2 作文課題 大学に入学して 800字
- 3 小論文 最近のニュースから 1200字
- 4 要約を作る 200字文に要約してみる<1>
- 5 要約を作る 200字文に要約してみる<2>
- 6 要旨を作る 100字文にしてみる<3>
- 7 要旨を作る 100字文にしてみる<4>
- 8 小論文 政治と経済と 2000字
- 9 小論文 社会と国際と 2000字
- 10 小論文 教育と専門と 2000字
- 11 ディスカッション テーマについて
- 12 ディスカッション 文章について
- 13 ディスカッション 論文について
- 14 論文課題 愛知淑徳大学の未来像について

講義は第1回～第5回を山内、第6回～第10回を窪田、第11回～第14回をそれぞれがクラスにわかれて担当する。作文練習はクラス編成をして行う。

【評価方法】

作文・小論文による。出席を重視する。

【テキスト】

文章表現法（樺島忠夫 角川選書）

【参考文献・資料】

授業中に指示する

言語コミュニケーション研究方法論

高井次郎

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

言語・非言語コミュニケーション行動を研究するために用いられる様々な計量的な手法、すなわち実験法、調査法、面接法、自然観察法の各方法、及びそれらから得られたデータの解析法について検討する。

【授業計画】

1. コミュニケーション研究とは
2. 人文学的と科学的研究パラダイム
3. 科学的研究の特徴
4. 研究問題の設定と仮設
5. 研究の企画
6. 研究方法の選択
7. 実験研究
8. 調査研究
9. 資料研究
10. 観察研究
11. データ処理法
12. 研究の報告
13. 期末試験

【評価方法】

出席および期末試験をもって成績の評価を実施する。

【テキスト】

社会心理学研究入門（末永俊郎編 東京大学出版）

言語学概論Ⅱ

田中春美

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語と英語を中心として、音韻論・形態論・統語論・意味論などの諸分野を具体的に詳しく学び、さらに、言語類型論や、応用言語学との接点となる分野についても概観する。

【授業計画】

音韻論・形態論・統語論・意味論などをさらに詳しく検討した上で、言語類型論・言語地理学・応用言語学の諸分野などにも触れる。

【評価方法】

筆頭試験を主とするが、出席とレポートも評価に加える。

【テキスト】

言語学演習（田中春美ほか著 大修館書店 2,200円＋税）

応用言語学概論Ⅱ

松本青也 B. サン・ジャック
アンドリュウ・J. ムーディー

オムニバス 1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

応用言語学の研究分野を展望させ、言語について様々な問題意識を持たせる。オムニバス方式。

1. 松本青也：日本人の言語生活の視点から、英語を中心とする第二言語習得論と言語政策などのマクロな社会言語学を中心に考察し、日英対照言語学、語用論、などの分野にも触れる。
2. バーナード・サンジャック：「文化と応用言語学」をテーマに、文化の構造と機能、言葉と文化の関係、言葉と思想、非言語コミュニケーション、多民族の文化、対人関係と異文化コミュニケーション能力、などの問題を考察する。
3. アンドリュウ・ムーディー：多様な社会的状況における談話分析、非英語圏の各国別の言語政策を考察した後、応用言語学の分野における調査研究方法の概要にも言及する。

【授業計画】

第1～5回：松本青也担当

第6～10回：バーナード・サンジャック担当

第11～14回：アンドリュウ・ムーディー担当

【評価方法】

レポート、学習態度、出席状況による総合評価。

【テキスト】

プリント、等。

社会言語学Ⅰ

アンドリュウ・J. ムーディー

2年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course will introduce students to the study of language variation. The particular focus of the course will be upon variation as it occurs as a result of language contact. Topics that will be covered include bilingualism and multilingualism, pidgins, creoles and trade languages, second language variation, and language and identity. Students are expected to have a good understanding of linguistics and language structure before they enter the course, as these topics will depend upon a prerequisite knowledge of linguistics.

Throughout the study of language contact phenomena, this study will introduce students to the theories and methods used to examine and understand language contact phenomena.

【Schedule】

- ・ historical linguistics
- ・ pidgins and creoles
- ・ bilingualism/multilingualism
- ・ second language variation
- ・ code switching
- ・ language attitudes
- ・ acts of identity
- ・ endangered languages/endangered cultures
- ・ language maintenance

【Assessment】

quizzes 20%
homework 20%
examinations 60%

【Textbooks】

A Japanese language text will be announced at the first class meeting.

【Reference】

- Weinreich, U. (1953) Languages in Contact: Findings and Problems.
Appel, R. & P. Muysken (1987) Language Contact and Bilingualism.
Coulmas, F. (ed.) (1997) The Handbook of Sociolinguistics.

社会言語学Ⅱ

アンドリュー・J. ムーディー

2年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will introduce students to the study of language variation. The particular focus of the course will be upon variation as it occurs in monolingual environments. Because monolingual variation is not necessarily qualitatively different from language contact variation, students in this course are strongly urged to have taken 社会言語学Ⅰ. As with the first course in this set, a strong background in linguistics is required. The course will cover topics such as regional, social, ethnic and gendered variation, phonological and grammatical variation, conversation analysis and discourse analysis, and pragmatic variation.

【Schedule】

- ・ dialectology
- ・ regional variation
- ・ social variation
- ・ ethnic variation
- ・ gender variation
- ・ phonological variation
- ・ dialect grammar
- ・ discourse analysis
- ・ pragmatics

【Assessment】

quizzes 20%
homework 20%
examinations 60%

【Textbooks】

A Japanese language text will be announced at the first class meeting.

【Reference】

Davis, L. (1983) English Dialectology: An Introduction.
Coulmas, F. (ed.)(1997) The Handbook of Sociolinguistics.
Labov, W. (1994) Principles of Linguistic Change: Internal Factors.

英語科教育法Ⅰ

松本青也

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

英語教育法をテーマとして、目的論、技能論、方法論を中心に、日本における英語教育の歴史、諸外国の言語政策と英語教育、マルチメディアを活用した英語教育、などの話題を含めて考察する。

【授業計画】

1. 目的論：問題提起。コミュニケーション能力
2. 学習指導要領。学校英語教育の目標
3. 異文化と国際理解
4. 機能論：Sound
5. Listening
6. Speaking
7. Reading & Writing
8. 方法論：教授法の歴史（日本）
9. 教授法の歴史（外国）
10. 外国語教授理論
11. 新しい教授法
12. マルチメディア利用の可能性と課題
13. <模擬授業> 指導過程の構成
14. まとめ：これからの英語教育
15. テスト

【評価方法】

テストの成績、学習態度、出席状況等による総合評価。

【テキスト】

自作教材。

English Linguistics I

アンドリュー・J・ムーディー

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

英語学の諸分野の紹介をした後、英語音声学・音韻論に関して、日本語と対照しながら、母音と子音、音節、アクセント、リズム、イントネーションについて学習する。

This course will serve as an introduction to the study of linguistics through the study of the English Language. The primary focus of the course will be on structural descriptions of English. Particular attention will be paid to study of the phonological and grammatical structure of English. While reference may be made to structures in other languages, especially Japanese, the primary purpose of the course will be to develop structural analyses of English.

In addition to structural description, this course will also introduce students to some applied fields of English linguistics. Applied Linguistics (応用言語学) topics will include:

- ・ pragmatics
- ・ language acquisition
- ・ language teaching
- ・ language policy
- ・ sociolinguistics
- ・ history of English

【Schedule】

前期 : language universals, phonetics, phonology, morphology, syntax, and semantics

後期 : history of English, Speech Act Theory, sociolinguistics, language acquisition, writing, and World Englishes

【Assessment】

quizzes 20%
homework 20%
notebook 20%
final exam 40%

【Textbooks】

西光義弘 (ed.) (1997) 英語学概論。

【Reference】

Ohio State University (1998) *Language Files*. 7th Edition.
Finegan, Edward (1999) *language: Its Structure and Use*. 3rd Edition.

Students are encouraged to consult the instructor for references on specific areas.

English Linguistics II

アンドリュー・J・ムーディー

2年 前期 選択 2単位

【Course Content】

This course will serve as a basic introduction to the study the English language and to the more general field of language and linguistics. The primary aim of the course is to develop structural descriptions of English using principles of linguistics. Particular attention will be paid to the study of English pragmatics and variation. Although references will be made to structures in other languages, especially in Japanese, the primary purpose of the course is to develop structural analyses of English.

In addition to structural description, this course will also introduce students to some applied fields of English linguistics. Applied Linguistics (応用言語学) topics will include:

- ・ pragmatics
- ・ language acquisition
- ・ language teaching
- ・ language policy
- ・ sociolinguistics
- ・ history of English

【Schedule】

- ・ morphology
- ・ syntax
- ・ semantics
- ・ history of English
- ・ Speech Act Theory
- ・ sociolinguistics
- ・ language acquisition
- ・ writing
- ・ World Englishes

【Assessment】

quizzes 20%
homework 20%
examinations 60%

【Textbooks】

西光義弘 (ed.) (1995) 英語言語学概論

【Reference】

Ohio State University (1998) *Language Files*. 7th Edition.
Finegan, Edward (1999) *Language: Its Structure and Use*. 3rd Edition.

Students are encouraged to consult the instructor for references on specific areas.

English Interaction II

ジョリー幸子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

概念、機能、状況など、様々なレベルでの話し言葉としての英語への導入。学生は英語を使用してお互いにやり取りしながら、基本的な会話に焦点を絞って多様な表現を学ぶ。

【授業計画】

- 第1週 Tonight's special
- 第2週 ♪
- 第3週 What do you want to do tonight?
- 第4週 ♪
- 第5週 How long have you had this cold?
- 第6週 ♪
- 第7週 I must be lost
- 第8週 ♪
- 第9週 What's the hurry?
- 第10週 ♪
- 第11週 Family album
- 第12週 Oral Presentations

【評価方法】

毎回の授業への参加、グループ発表（会話、寸劇）の成績、及び期末試験の結果に基づいて総合的に判定する。

【テキスト】

Jim Knudsen (1996). A Handbook of Daily Conversation.
Nan' un-DO, Tokyo

English Interaction II

アンドリュー・J・ムーディー

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

EnglishInteraction I の内容をもとに、引き続き話し言葉を中心に学習を深める。ここでは小グループなどの形も取り入れ、英語によるやり取りを学ぶ。

This course will emphasize the skills of oral English listening and speaking. The class will use extensive group work to develop the skills necessary for success in studying in a University in North America. Typical activities will include things like group presentations, interaction simulation, and study of cultural differences.

【Schedule】

A survey of student needs for English communication will be made at the beginning of the semester and the course design will be adjusted to accommodate those needs. Some likely topics will include:

- ・ studying abroad
- ・ travel and tourism
- ・ English as an International Language
- ・ Japanese uses of English

【Assessment】

daily participation 25%
homework 25%
report 25%
examination 25%

【Textbooks】

The textbook for this class will be announced at the first class meeting. Depending on the level of students when they enter the class, text materials will be developed that respond to the particular needs and interests of the students.

English Interaction II

ダニー・T. モルデン

1年 後期 選択 2単位

[Course Content]

English Interaction I の内容をもとに、引き続き話し言葉を中心に学習を深める。ここでは小グループなどの形も取り入れ、英語によるやり取りを学ぶ。

This course continues to aim to help students interact in English. The focus of the course will be on English as it is used in real, daily interactions. Speaking and listening skills will be stressed.

[Schedule]

The course is flexible, and the content will be determined by the students in combination with the instructor. We will cover topics dealing with actual interactions such as:

1. Classroom behavior
2. Seeking help in a library.

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, homework and quizzes.

[Textbooks]

A text may be assigned on the first day of the course.

English Interaction II

ジョナサン・E. ロング

1年 後期 選択 2単位

[Course Content]

This section of English Interaction II will stress the language and thought patterns that are used in the academic setting. Special attention will be given to developing the mental and verbal skills to present one's ideas with clarity, factual support and in a logical manner. The students will be expected to do some research, discussion, oral presentations and reaction papers.

[Schedule]

Not yet determined.

[Assessment]

Assessment will be based upon

1. outside research (10%)
2. class attendance (10%)
3. reaction papers (30%)
4. oral presentations (50%)

[Textbooks]

To be announced.

Cyber-English II

ジェニファ・J. マギー

1年 後期 選択 2単位

【Course Content】

Cyber-English I の内容を更に発展させて、アメリカの学生とのやり取りも含め、コンピュータによる海外との交信を実習する。同時にインターネットについての文献や講義も取り入れ、例えば、コンピュータによってコミュニケーションが変化するか、すべてがインターネットに依存する社会はありうるか、といった問題を考える。

【Schedule】

1. Webcams and online diaries
2. Email with native English speakers
3. Real-time chat with native speakers

【Assessment】

Assessment will be based on classroom attendance, effort, and completion of assignments.

【Textbooks】

None. There may be readings on the Internet assigned by the instructor.

Cyber-English III

ジェニファ・J. マギー

2年 前期 選択 2単位

【Course Content】

コンピュータを介してのコミュニケーションの多様な側面や人間関係に与える影響について文献を読んだり、研究発表をしながら、インターネットを利用した多様な交信を経験する。

【Schedule】

Topics to be covered will include:

1. What makes a good/bad web page?
2. What content do you want on your web page?
3. How do you want your web page to look?
3. How do you create a web page?

【Assessment】

Students will have to write papers analyzing various web pages' strengths and weakness. By the end of the class, students will create their own English-language web page.

【Textbooks】

There will be a Japanese-language supplemental textbook for the class.

Reading and Discussion I

ダニー・T. モルデン ポール・C. リンガー
ピーター・スローン

2年 前期 選択 2単位

【Course Content】

幅広いジャンルにわたる多様な英語作品を読んで英語で話し合い、更に各自が感じた疑問と教師によって与えられた課題について英語による議論を深める。

This class will introduce students to a discussion centered classroom.

In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory). The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the readings.

【Schedule】

Each week, students will be expected have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

Reading and Discussion II

ダニー・T. モルデン ポール・C. リンガー
ピーター・スローン

2年 後期 選択 2単位

【Course Content】

文化比較の視点から異文化でのライフスタイルや価値観に触れることができる題材を中心に読み、ペアー、あるいはグループでの議論を通して自分の意見を十分に表明する。

This class will introduce students to a discussion centered classroom. In this class, students will be asked to read a variety of articles (covering a range of topics from current events to fiction to language theory). The emphasis will be placed on students asking questions and then talking to each other about the readings.

【Schedule】

Each week, students will be expected have read the assigned article, attend class with questions, and be prepared to talk about the article.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation in the discussions, and homework.

【Textbooks】

A textbook has not yet been selected for this class, but one may be assigned on the first day of class.

English Literature I

キース・イーズリー

2年 前期 選択 2単位

[Course Content] Romanticism (1789-1832)

The course will show something of the literary and cultural importance of Romantic poetry, both in its own time and today. Key themes will be Romantic individualism, beauty and nature. Selections will be made from Keats, Byron, Shelley, Wordsworth, Coleridge and Blake.

[Schedule]

Weeks 1-2 Key themes, then and today
Weeks 3-6 Individual writers
Weeks 7 Key themes
Weeks 8-11 Individual writers
Week 12 Review

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the number of applicants, there may be a test in the first class to decide entrance to the course.

[Textbooks]

To be announced.

English Literature II

キース・イーズリー

2年 後期 選択 2単位

[Course Content] Romanticism (1789-1832)

The many kinds of Romantic fiction will be considered, along with their relationship to the key themes of Romantic poetry. Selections will be made from Jane Austen, gothic romances, social satire, feminist fiction, historical romances and Mary Shelley's "Frankenstein."

[Schedule]

Weeks 1-2 Key themes, then and today
Weeks 3-6 Individual writers
Weeks 7 Key themes
Weeks 8-11 Individual writers
Week 12 Review

[Assessment]

Assessment will be based on attendance, participation, coursework and final examination.

Depending on the number of applicants, there may be a test in the first class to decide entrance to the course.

[Textbooks]

To be announced.

中国語読解Ⅱ

馮富榮

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

基本的な文法知識と幅広い語彙の習得に力を入れて授業を進める。受講者の読解力を引き上げると同時に、中国語への勉強意欲を引き出すこともこの授業の目的である。ゆえに、興味深い読み物を教材とする。

【授業計画】

中国語読解Ⅱは、中国語読解Ⅰと同じように、学生の中国語を読んで理解する力を養成することを目的としているが、例年の11月に実施される中国語の検定試験の4級にパスすることができるように授業を進めていく予定である。ゆえに、教材は、検定試験の内容を配慮して作成されている。もちろん、自作教材である。また教材をホームページ化にするので、自分の好きな時間に発音の練習から、いろいろな練習問題まで、すべて自分のパソコンを通して行うことができる。練習問題の解答は、メールとして先生の所に届くようになっている。そして添削後のものをまたメールで、各個人に返すという形を取る。さらにはインターネットを利用して中国の社会現状、経済情報及び文化習慣などに関する記事や話を引き出し、それを読んで理解する。最後に、E-mailなどを利用して中国の大学生などと文通をする練習もする。授業の展開の仕方としては、主として以下のステップを踏む。

- ① まず、本文について講義する。説明の重点は、日・中両言語の違いに置かれる。本文の内容に関しては、興味深く読めるか否か、そして知識性が高いか否かという二つの要素が配慮されている。ゆえに、教材は、中国の文化習慣や中国の歴史、また中国の有名な人の紹介を題材とするものが多い。
- ② インターネットを利用して、中国の社会や経済などに関する記事、あるいは自分にとって興味のある話題を引き出し、それを読んで理解する。
- ③ E-mailなどを利用して中国の大学生などと文通する練習を行う。

【評価方法】

出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。期末テストは実施しない。尚、宿題の提出は、すべてメールで行う。

【テキスト】

自作教材。

【参考文献・資料】

閲読理解（北京語言学院出版社）

中国語会話Ⅱ

郭伏良

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

教室で、各会話の場（たとえば、買い物や銀行や病院などの場面を設定する）を作って、場との連合をはかりながら、会話の授業を進める予定である。目的は、生きている会話能力を養成することにある。

【授業計画】

この授業は、中国語会話Ⅰの延長として考えているので、中国語会話Ⅰと同じように、以下のステップを踏んで、授業を展開する予定である。

- ① まず常用表現について、統語論と語用論の両方から説明する。つまり文法現象のみでなく、中国語の表現習慣と日本語の表現習慣の違いについても説明を加える。
- ② 読む練習を繰り返して行う。初歩から正しい発音を身につけることが極めて大切であるので、そのための徹底的な訓練を行う。
- ③ 本文の内容をめぐって学生と中国語で会話をする。
- ④ 単語のリストを配って、置き換え練習などをする。よって、学生たちの会話の応用能力を高める。
- ⑤ 本文の内容と関連する実際の場面を設定し、その場面で行われる会話を学生同士で練習する。

この授業では、本文の暗記ではなく、中国語の生きている会話表現を身につけることができるように工夫がなされている。しかもみんなで楽しく中国語の会話ができるような授業としてデザインがされている。要するに、この授業を履修することによって、中国人とある程度の会話ができるように期待している。

【評価方法】

出席状況及び平日の宿題の提出状況などを考えて、総合的に判断する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

プリントを配布する。

中国語作文Ⅱ

郭伏良

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語を書く力を養成することが本講義の最大の目的であるが、内容を聞いてから書くこと、図の意味を言葉で書くこと、概要の肉付けを書くこと、または文章の概要を書くこと、短文の表現を変えて別の表現にすることなど多くの方法を取り入れながら授業を展開する。要するに、常に書く材料があるように心がけて授業を進めていく予定である。

【授業計画】

中国語は、格助詞などもなく、述語の語尾変化もない。中国語を作文する時、語彙を並べれば、それだけで文になる。ゆえに、中国語の作文をするとき、一番大切なことは語彙の並べ順序である。ゆえに、この授業では、中国語の語彙の並べ順序と並べる時のコツを徹底的に説明する。語学の力は作文にあると言われているように、この授業に出れば中国語の力を一段と高めることが期待できよう。具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

- ① メッセージの書きかたの練習をする。
- ② 日記の書き方の練習をする。
- ③ 手紙の書き方の練習をする。
- ④ 知らせの書き方の練習をする。

もちろん、上述した各練習に入る前に、教師側から、書き方の説明、書くときの注意事項などについて講義するほか、例文も提供する。そして学生の作文に出ている問題点も詳しく説明する。

【評価方法】

出席状況や平日の宿題の提出状況などを考えて総合的に評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

基礎漢語写作（北京語言学院出版社）

中国語表現Ⅰ

郭伏良

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国語の幅広い表現に触れ、中国語独特の表現の仕方に慣れることをこの授業の目的とする。特に重要な表現に関しては、日本語との比較をしながら重点的に説明を行う。

【授業計画】

この授業は、現代中国の社会生活を反映することのできる興味深い文章を題材とする。リスニング、会話、読む、そして作文という四つの技能から、中国語コミュニケーション能力を伸ばしていく。一年の学習を通じて、比較的正確に、中国語を使って話し、また中国人と文通できるようレベルまで到達できるようにする予定である。要するに、中国語の能力検定試験の3級にパスできるように、学生の中国語の能力を初級レベル（1500語の単語）から中級レベル（3000語の単語）までに引き上げる。この授業は、高レベルの中国語への過度段階として位置付けられている。

授業の内容は、主として「アルバイト」、「大学の変遷」、「ファストフードからの影響」、「北京の夜」などである。文法のポイントは、二重否定、反語、強調表現、そして命令などの構文構造である。授業の進行方法について説明すると、まず学生が本文の事前予習をしておき、授業で先生が質問の形で文法の重点や本文の内容を説明していく。それから、本文の内容についてのリスニングの練習を行う。もちろん、毎回宿題を出し、それを規定の時間内で提出することを学生に要求する。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

中国語表現Ⅱ

郭伏良

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

新聞や雑誌などから興味深い文章を選択して教材にする。人口、民族、教育、婚姻、家庭概念、価値観など幅広い題材のものを読むことによって、中国に関する知識を増やす。速読力を養成することもこの講義の目的である。

【授業計画】

この授業は、現代中国の社会生活を反映することのできる興味深い文章を題材とする。リスニング、会話、読む、そして作文という四つの技能から、中国語コミュニケーション能力を伸ばしていく。一年の学習を通じて、比較的正確に、中国語を使って会話し、また中国人と文通できるようなレベルまで到達できるようにする予定である。要するに、中国語の能力検定試験の3級にパスできるように、学生の中国語の能力を初級レベル（1500語個の単語）から中級レベル（3000語の単語）までに引き上げる。この授業は、高レベルの中国語への過度段階として位置付けられている。

授業の内容は、主として「外国人が服を買う」、「カラオケ大会」、「若者の恋愛観」、「発展中のサービス業」、そして「企業の倒産」、などを題材とする。文法のポイントは、単文、複文、修飾語などの中国語の表現構造である。授業のやり方であるが、基本的に前期と同じ形である。しかし、中国語のコミュニケーション能力を実践的に磨くところに力をいれる。例えば、中国語で質問をしたり、中国語で日記を書いたりするように学生に要求する。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の時に指示する。

中国文学講読Ⅰ

郭伏良

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の激動時代—文化大革命を描いた文学作品を教材にする。つまりなぜこのような国をあげての運動を行わなければならなかったのか？文化大革命の間に何が起ったのか？社会に、人々の観念にどういった変化が起ったのか？文化大革命の後遺症は何であろうか？われわれに残した教訓は何であろうか？それを引き起こした毛沢東はどういった人物で、その時の時代背景はどうであったのかを文学作品を通して探ってみる。

【授業計画】

この授業の目的は、文学作品の鑑賞と言語能力の向上という二つのところにある。言語能力の内、特に読む力とそのテクニックの養成に重点を置く。授業の内容は、主として現代中国の社会生活の各側面を反映する「一分間小説」と歴史故事及び神話伝説などである。これらを読むことによって、中国の文学に対する初歩的な理解を得ることができると同時に、中国語の読む力もアップすることができるのを狙っている。この授業を選択することによって、中国語の簡単な文学作品は、先生の助けがなくても学生が自分で読めるようになるのが目標である。

現代中国の社会、家庭、婚姻、学校教育、そして仕事などを内容とする「一分間小説」を教材とする。授業のやり方であるが、学生が授業の内容をまず予習しておく必要がある。授業の時、先生が文法のポイントを重点的に説明し、小説の内容について解説する。それから問題を設定し、学生にそれを答えてもらう。それによって、学生が小説の内容が理解できたか否かをチェックする。もちろん、毎回宿題を出し、それを規定の時間内で提出するように学生に要求する。

【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業のときに指示する。

中国文学講読Ⅱ

郭伏良

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の民話、神話、また中国の起源や各民族に関する民間伝説、故事など、主として「民間文学」を材料にして、授業を進める予定である。目的は、文学作品を通して、中国の文化・歴史についてよりよく理解すると同時に、中国語の読む力を高めることにある。教師が用意した教材以外には、各週毎にひとつ面白い読み物を受講者が自分で選んで読み、そのまとめを書いたり、意味の簡単な紹介を授業で発表したりすることが要求される。

【授業計画】

この授業の目的は、文学作品の鑑賞と言語能力の向上という二つのところにある。言語能力の内、特に読む力とそのテクニックの養成に重点を置く。授業の内容は、主として現代中国の社会生活の各側面を反映する「一分間小説」と歴史故事及び神話伝説などである。これらを読むことによって、中国の文学に対する初歩的な理解を得ることができると同時に、中国語の読む力もアップすることができるのを狙っている。この授業を選択することによって、中国語の簡単な文学作品は、先生の助けがなくても学生が自分で読めるようになるのが目標である。

中国の歴史故事、神話伝説などを授業の教材に使用する。たとえば「楊貴妃の恋愛悲劇」（彼女が日本に来たことがあるかどうか）や、「七夕の伝説」などが例としてあげられる。この授業を通して、中国の古い文化の魅力を感じることができるだけでなく、日中文化の深い関連を知ることでもできればと考えている。授業の進行方法は前期と同じである。

【評価方法】

受講の態度、出席率、宿題の完成状況などに基づいて評価する。期末テストは実施しない。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業のときに指示する。

中国語聴解Ⅰ

馮富榮

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

繰り返し練習しやすい点から、授業では主としてカセットテープを利用する。またニュースには、中国語に関する多様な表現は勿論、中国社会に関する多方面の情報も含まれるので、ニュースを中心教材として耳から理解する訓練を行う。受講者が自分の家でも練習できるように補助教材を使う予定である。

【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

- ①まず映画や童話などの大まかな内容を日本語で解説し、それから聞く練習に入る。
- ②学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、事前にホームページによって教材を復習する必要がある。
- ③教材の内容を学生自身がまとめて、グループに分けて、発表する。

以上によって、聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

【評価方法】

期末テストと普段の受講態度で評価するが、期末テストの実施方法は、習った内容の録音を聞いて翻訳するという形を取る。

【テキスト】

自作教材。

【参考文献・資料】

中級汉语听说（北京語言学院出版社）

中国語聴解Ⅱ

馮 富 榮

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

繰り返し聞くのではなく、一回聞くのみで理解できることをこの授業の目的とする。そのため、ビデオテープや字幕のついているテレビ番組及び演劇などの視覚情報を利用する予定である。要するに、中国語に関する幅広い情報を耳から入れ、同時に理解する訓練を行うとともに、聞いた内容を要約したり、発表したりする練習を行う。

【授業計画】

具体的には、以下のステップを踏んで授業を進める予定である。

- ①まず映画や童話などの大まかな内容を簡単な中国語で何回も繰り返し読んで解説し、それから聞く練習には入る。
- ②学生に質問しながら、内容を解明していく。もちろん教材に出ている新しい表現については説明する。学生側は、事前にホームページによって教材を復習する必要がある。
- ③教材の内容を学生自身がまとめて、グループ分けて、発表する。
- ④ヒヤリングの教材ビデオや中国語ニュースのビデオを使って実践的訓練を実施する。

以上によって、実際の中国語コミュニケーションにあたっての聞く力だけでなく、中国語による表現力を引き伸ばすことも狙っている。

【評価方法】

期末テストと受講態度で評価するが、期末テストの実施方法は、習った内容の録音を聞いて翻訳するという形を取る。

【テキスト】

自作教材。

【参考文献・資料】

中級汉语听说 (北京語言学院出版社)

中国語海外研修

馮 富 榮 郭 伏 良

集中 2年 前期 選択 10単位

【授業の概要】

夏期の8～9月の7週間にわたって中国の南京師範大学で中国語を集中的に学習する。その間、日本語学科の学生との交流会、ホームステイ体験、中国文化講座、また日・中の生活様式や文化習慣の違いについて現地の学生と討論会を行う予定である。

【授業計画】

この研修は、2年次の後期から中国語しか使わないゼミへの準備学習として位置付けられているので、今まで獲得してきた中国語の語学力をさらに磨き、高度な中国語の力の獲得と異文化との触れ合いが最大の目的である。

現地研修は、8月の10日前後からの7週間である。その前に、研修についての説明会とオリエンテーションを行う予定である。内容は、研修先(南京師範大学及びその所在地である南京について)の紹介や注意事項などの説明である。現地研修には、6週間の授業と四日間の研修旅行が含まれる。具体的に言うと、月曜日から金曜日まで毎日午前2コマ、午後1コマ、計6時間の授業が毎日設定されているので、かなり密度の高い研修内容となる。ゆえに、かなりの教育効果が期待できると思われる。授業の内容について説明すると、「会話」は週に4時間、「聴力」と「作文」は週に6時間ずつ、そして「中国現代散文」も週に6時間、さらに「中国事情」と「中国文化講座」はそれぞれ週に4時間ずつといったものである。「中国文化講座」という授業の中で、学生は自分の趣味に合わせて、中国の民族舞蹈や歌、そして太極拳、演劇などを習うことができる。

要するに、この研修を通して、中国語を深く知り、中国語に内包されている文化的背景も理解し、自分から進んで発信し、そしてそれが理解されることの楽しさを体験することができる。よって中国語の語学力が全面的にアップすることができるだけでなく、中国の文化や生活習慣と肌で触れ合いを通じて、異文化の真の理解に達するのではないかと思う。

【評価方法】

研修先の担当先生の評価を参考にして、引率者が最終の成績を出す。

【テキスト】

研修先である南京師範大学の担当先生が決めるテキストを使用する。

日本語論Ⅱ

窪田守弘

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語のさまざまな特徴の中から、発音・語彙・表記・文法などの分野を中心に、語学的な面からその基本的な問題を取り上げていく。日本人が殆ど意識せずに使用している日本語は、それが常識だと思われたり、誤用でありながら正しいと考えられたりしている点が少なからずある。そういう言語生活で、特徴的な言語現象を時代的な変遷や社会的な環境という視点から考察していく。

【授業計画】

日本語には多くの特徴や面白さがあり、それが現代の日本人の言語運用にどのように反映されているかを解明する。そして日本語の構造を中心として生きた日本語の諸相について、具体的な例をあげながら考えていく。本講義は、日本語と外国語との比較も随時行ない、広い視野より日本語を考え、発音・語彙・文法・文体などの領域が概観できるように配慮する。主な内容は次のようになっている。

〈日本語の多様性を知る〉

5. 日本語の世界の新発見
6. 日本の有名な文法学説
7. 映画の言語表現
8. 日本と外国の言語文化

【評価方法】

学期末の試験結果、提出レポート、出席状況などで総合的に判断する。

【テキスト】

日本語論（窪田守弘著 見学出版 2,000円）

日本語表現演習Ⅱ

窪田守弘

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

文章の表現能力は、短期間では養成されにくい、少なくとも本演習では、学生が進んで自らの文章で自己表現できるようにする。従って、担当教員は、当初学生に対して小論文の書き方の様々な知識や技術を与えるにしても、最終的には学生が自身の手で自分の文章の問題点を発見し、推敲ができるような力を身につけるよう配慮する。それによって、学生が将来あらゆる分野の職業に対応できるようにする。

【授業計画】

学生は文章を書くことを苦手としているので、毎回課題を与えて考えさせ、それに対する感想レポートを原稿用紙一枚（400字）程度にまとめるようにする。教員はその感想レポートのチェックを行なって、次回の授業時にチェックポイントを説明しながら返却するようにする。このように学生は自分の書いた文章に対して、毎回教員からチェックを直接受けて、彼らは問題点を明確に把握し推敲を重ねていくようになるはずである。

本年演習は、テキストを中心に新聞や週刊誌の記事、有名な小説や評論、学術論文などを補助教材として使用し、文章を徹底的に書き込むことによって、学生に真の表現力や文章力がつくことを目標としている。

【評価方法】

毎回の感想レポート、学期末の試験、出席状況などで総合的に評価する。

【テキスト】

文章の書き方（辰濃和男著 岩波新書 620円）

日本語表現演習Ⅲ

山内啓介

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語表現演習Ⅰ・Ⅱで習得した「読み」「書き」の基礎技術を踏まえて、広範囲にトピックを求め、口頭での発表能力を養う。自分の考えを理論的に構築し、限られた条件の中でわかりやすく効果的な発表ができるようになるためのトレーニングを行う。

【授業計画】

敬語の基本を講義する。

- 1 敬語とはなにか
- 2 敬意表現
- 3 敬語の理論
- 4 敬語と社会
- 5 待遇行動

プレゼンテーションの方法を練習する。

- 1 プレゼンテーションとはなにか
- 2 対人コミュニケーション
- 3 口頭発表の基礎
- 4 プレゼンテーション資料
- 5 テーマによる実践

【評価方法】

出席と参加度30%、実践練習50%、発言とコミュニケーション20%の割合で評価する。

【テキスト】

菊地康人『敬語』講談社学術文庫。同『敬語再入門』丸善ライブラリーブック。

【参考文献・資料】

日本語表現演習Ⅳ

山内啓介

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

Ⅲまでの日本語表現演習で養われた発表技術をもう一段階発展させ、学会、企画会議、研修会等目的に応じたプレゼンテーション能力を養う。コンピュータのプレゼンテーションソフトを使いこなすとともに視聴覚機器の効果的な使い方も身につける。

【授業計画】

テーマを設定し、ディベートをおこなう。

- 1 日本語ディベートの効果
- 2 ディベートのルール
- 3 未来塾改良型4人制ディベート方式
- 4 ディベートのテーマと問題点
- 5 討論の応用

プレゼンテーションツールを用いた実習。

- 1 ホームページとプレゼンテーション
- 2 ウェブサイトとコンテンツ
- 3 パワーポイントとテンプレート
- 4 説得することは聞き手の立場を知ること
- 5 ツールの応用

【評価方法】

出席と参加度30%、実践練習50%、発言とコミュニケーション20%の割合で評価する。

【テキスト】

R・ベネディクト著、長谷川松治訳『菊と刀』教養文庫

【参考文献・資料】

日本文化論の変容（青木保 中央公論文庫）

日本語学Ⅰ

窪田守弘

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

音声は、人間がコミュニケーションをする際の最も基本的な言語行動の一つで、音声学はそれを科学的に研究する分野となっている。そして、この音声学は、日本語教育では外国語教育としての音声指導で重要な位置を占めている。そこで、本講義では、音声学の基本から専門的な分野まで、人間の発声行動や音声現象などを動的に把握し、そのプロセスを明らかにしていくようにする。

【授業計画】

本講義では、音声学の基本から専門的な分野まで、人間の発声行動や音声現象などを動的に把握し、そのプロセスを明らかにしていくようにする。とかく音声学というのは、学生に理解されにくい分野であるが、ヒトの日常生活の言語行動から、音声に関する内容を具体的に取上げて話を進めていくつもりである。

ヒトの声にはさまざまな特徴があって、学生は「声はどうして生じるのか」というような素朴な疑問を持つことでも、十分に音声学世界の世界に第一歩を踏み出したことになる。そこで、次に「声とは何か」、「声の仕組みは何か」、「声はなぜヒトによって違うのか」、「いい声と悪い声の違いは何か」というような問題を考える。

本講義ではそのような音声の基本的な知識を学び、さらにその応用として「日本語と音声」や「発声教育と日本語教育」の分野において、音声学がどのように機能しているかを分析する。

ビデオ、OHC、パソコンなどの視聴覚教材を使って講義の内容を分かりやすくする。また、有名な「マイ・フェア・レディー」のような映画を教材として活用する。

【評価方法】

レポートの内容、授業態度、出席状況などで評価する。

【テキスト】

日本語学（音声）（窪田守弘著 見学出版 1500円）

日本語学Ⅱ

阿部美枝子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代日本語の文法現象の中から基本的、かつ重要なトピックを演習の形で取り上げ、言語学的、日本語学的手法で分析し、日本語の体系を理解していく。

【授業計画】

現在日本語の文法現象を整理し、その体系を理解することをテーマとする。

1. 助詞と述語の型
2. 自動詞と他動詞
3. 受動文
4. 使役文
5. 可能文
6. テンスとアスペクト
7. 名詞修飾
8. 提題助詞「は」

以上のような項目について、言語学的、日本語学的に分析していく。

主に講義の形を取るが、随時課題を出すことを考えている。

【評価方法】

学期末筆記試験、及び課題の結果で評価する。

【テキスト】

使用せず。

専門演習 I

松本青也

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

【授業計画】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考えようとするものです。アメリカ英語とその背景にある文化、特に人生、孤独、愛と性、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して考え、更に自由、平等、人権といった理念が日米で現実の様々な問題解決にどう機能しているかまでを幅広く扱います

2年次前期では次のような活動を中心に進めます。

- ①アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- ②ゼミ合宿でのプレゼンテーションと討論
- ③松本ゼミのホームページ作成

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

専門演習 I

ジョリー幸子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

当演習は、我々の日常のコミュニケーションの93%を占めると言われる「非言語コミュニケーション」について学ぶもので、異文化コミュニケーションの1下位分野である。

【授業計画】

第1週	コースオリエンテーション
第2週	音声(発音)学
第3週	動作学(Kinesics)
第4週	〃
第5週	〃
第6週	〃
第7週	近接学(Proxemics)
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	領土性(Territoriality)
第12週	〃
第13週	〃
第14週	〃
第1週	接触学(Tactility・Haptics)
第2週	〃
第3週	〃
第4週	〃
第5週	嗅覚(Olfaction)
第6週	〃
第7週	空間学(Space)
第8週	〃
第9週	時間学(Chronemics)
第10週	〃
第11週	対物学(Objectics)
第12週	〃
第13週	準言語学(Paralinguistics)
第14週	〃

【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

1. 世界60カ国比較文化事典、T. モリスマン、マクミラン
2. 日本の常識はどこまで通じるか？異文化交流で失敗しないために。ジョリー幸子。風媒社

【参考文献・資料】

比較生活文化事典、金山盲夫
大修館

Gestures : DOs and TABOOS of Body Language Around the World. Roger E. Axtell, Wiley.1991.

専門演習 I

B. サン・ジャック

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

言語と文化というのは、人間の毎日の生活にたいして本質的な関係があり、生きるために、殆ど空気と同じく必要な要素です。ところが、人間が絶えず呼吸しているのに障害がない限り空気の必要性についてめったに考えません。言語と文化についても同様のことが言えます。なお、第二言語を上手に習得するために、その第二言語のnative speakersの文化と社会的運用をどうしても見習うべきである。

【授業計画】

色々な言語 [主に日本語と英語] の構造と翻訳を比べて、言語と文化の相互依存の事実を確認する。イタリア語の諺traduttore, traditore [翻訳者は、裏切り者である] は、言い過ぎではあるが、翻訳の深い要素を指している。Examining various translations, both from Japanese to English and from English to Japanese, students will not only improve their knowledge of English, but will also realize that the knowledge of the sound system and the grammar of a language is not sufficient to become a fluent speaker. Knowledge about culture is absolutely necessary. This seminar will require active participation of students. Both English and Japanese will be used.

【評価方法】

Presentations. Team presentations (2 or 3 students together) are also accepted

【テキスト】

Translation and Translating. 1991 Roger T. Bell
翻訳という仕事 1991 小鷹信光

専門演習 I

山内啓介

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

【授業計画】

演習のために、まず次の講義を行う。

- 1 日本語学① 日本語コミュニケーションと音声科学について
 - 2 日本語学② 日本語コミュニケーションと音韻論について
 - 3 日本語学③ 日本語コミュニケーションと文法・形態論について
 - 4 日本語学④ 日本語コミュニケーションと文法・統語論について
 - 5 日本語学⑤ 日本語と語彙について
 - 6 日本語学⑥ 日本語意味論について
- 次のテーマで受講生と演習を行う。
- 7 日本語教育と日本語コミュニケーション
 - 8 日本語コミュニケーションのさまざまなケース・スタディ
 - 9 日本語コミュニケーションが必要な場面とその会話
 - 10 日本語学の実践と理論
 - 11 日本語研究の将来
 - 12 インターネット日本語

【評価方法】

出席を重視する。演習のプレゼンテーションを評価する。議論の参加と発言を参考とする。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

言語学大辞典の日本語の項目 [三省堂、第2巻世界言語編、1569ページ-1791ページ]

専門演習 I

馮 富榮

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

【授業計画】

前期では、先生主導で授業を展開するが、具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や文法の重点などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明を加える。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをする。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。要するに、前期の授業を通して、11月の中国語能力検定の3級にパスすることが期待される。当然、そのための指導もする。

後期では、学生主導で授業を展開する。つまり講義中心の授業からディスカッション中心の授業へと変化していく。より具体的に言うと、学生を二人ずつのペアに分け、二人で協力しあって、単語の説明や文法の説明を行う。どのような単語は例を添えて説明したほうがよいか、どの文法現象を取りたてて説明したほうがよいか、また本文のどこに特に注意を払ったほうがよいかなどは、学生たちが自分で考えなければならないが、そのための事前指導や、アドバイスはもちろん先生がする。このゼミの最終的な目標は、受け入れ型の学生ではなく、挑戦型の学生を養成することにあるので、そのための第一歩はここからスタートする。つまり、最初からできないのではなく、勇気をもって挑戦すればどんなことでも怖くないという自信、他人と協力することの大切さ、そして受講者が自分に何を求めようとしているか、自分がその人達に何ができるかという人の心を思いやる気持を培うことができると期待している。さらに、後期の授業を通して翌年3月の中国語能力検定試験の準2級に合格することを期待している。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語系列閲読 第一冊 (北京語言文化大学出版社)

専門演習 I

アンドリュー・J. ムーディー

2年 前期 必修 2単位

【Course Content】

This course will examine the different forms and functions of English internationally. Because this seminar will focus on sociolinguistics (社会言語学) and applied linguistics (応用言語学), students should have interest in these areas as well as an interest in English. This seminar will further introduce students to such fields as language contact, language planning, ESL/EFL, language teaching, bilingualism/multilingualism, and language preservation. This seminar will be of interest to anyone who wants to study sociolinguistics or applied linguistics. In particular, students who are preparing to take language teacher certification will find this seminar especially helpful.

【Schedule】

- how did English become an international language
- where is English used as a national language or a second language
- what are the differences in Englishes (native and non-native)
- what is the future of English internationally
- what should be done about preserving native languages
- how does English support the development of world culture
- what important political issues concern the internationalization of English

【Assessment】

homework 30%
oral report 30%
final report 40%

【Textbooks】

A textbooks will be announced at the first class meeting.

【Reference】

Trudgill, P. and J. Hannah (1994) *International English: A Guide to the Varieties of Standard English*
Crystal, D. (1997) *English as a Global Language*.

専門演習 I

窪田守弘

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

【授業計画】

本演習では、映像の中で展開される人々の言語行動を言語と文化の関係を様々な視点から研究していく。例えば、テレビでは毎日多くの番組が放送されているが、それを単に娯楽として見ると、貴重な情報や教材として見るとでは全く事情が異なることを調べる。

今ではハリウッドの映画を始め世界中の映画が簡単に見ることができるようになった。しかし、一般的に映画は娯楽として鑑賞する機会が多いため、それを言語や文化との視点から考えていくことはほとんどなされていない。例えば、外国映画の台詞（セリフ）は字幕に翻訳されているが、この字幕をよく調べて見ると画面上の台詞と違っていることがよくある。これは誤訳ではなくて、その台詞が日本人の観客に分かりやすいように意識されていることが多いからである。

本ゼミでは、主に映画のシナリオや字幕翻訳を通して、ヒトの言語行動を新しい視点で分析しようとするものである。

【評価方法】

演習時の発表態度、提出レポートや作品、出席状況などで総合評価する。

【テキスト】

ハリウッド・ロード（窪田守弘著 晃学出版 700円）

専門演習 I

ダニー・T. モルデン

2年 前期 必修 2単位

【Course Content】

言語のコミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods--they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music television programs, movies, plays, art, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

専門演習Ⅰ

ジェニファ・J・マギー

2年 前期 必修 2単位

【Course Content】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

The Internet and information technology are changing the world we live in very quickly. This seminar will focus on some of the ways that the Internet is changing the world and some of the issues that are worrying people because of the Internet. For example, some people worry that the Internet may create a world in which neighbors don't talk to each other at all, and people don't have "real" friends. Other people worry about bad information (like how to make bombs) being put on the Internet where people can find it easily. We will look at these issues and others in this class.

【Schedule】

Topics to be covered include:

1. Copyright and intellectual property issues
2. Social isolation and community
3. Access to dangerous information

【Assessment】

Students will be expected to express their opinions in class. Students will have to write a paper during the semester reacting to one of the issues discussed in class. There will also be some short quizzes over content.

【Textbooks】

Readings will be taken from the media, and there may be a textbook as well.

専門演習Ⅰ

郭伏良

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

【授業計画】

この授業は、リスニング、会話能力、読む力、そして作文能力という4つの面から中国語のコミュニケーション能力を全面的に伸ばすことを目的としている。一年間の学習を通して、中国人と普通に会話ができ、文通ができ、そして中国人の簡単な会話が聞いて理解でき、さらに中国についての大まかな理解ができることが期待できる。そのほか、中国語のタブー表現や婉曲表現を含めた実際のコミュニケーション能力を養成し、中国語能力検定試験の3級または準2級にパスすることも狙っている。いわば、3年次の高いレベルの中国語の学習への準備段階に当たる。

中国の社会文化の特色を反映する興味深い文章を授業の内容とする。課題を授業の前に渡しておくので、学生たちがそれを各自で予習して、問題点を考えてくる。そして授業で、先生側から、単語や文法現象の説明を行い、その後、学生の問題点をもう一度学生に考え直させ、その回答を学生自身が出せるように学生とディスカッションしながら指導する。よって、学生の主体的な勉強の意欲と勉強への積極性を養成する。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況及びレポートの提出状況などに基づいて評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業のとき、指示する。

専門演習 I

ディビッド・C. ダイカス

2年 前期 必修 2単位

【Course Content】

言語コミュニケーションについての、それぞれの分野における先行研究を概観し、基本的な知識を与えながら学生の理解と関心を深める。

This course offers students a survey of key concepts related to processes of intercultural communication. We will consider the essential role of context (social, cultural, and historical) in intercultural interactions, using Japanese communication habits/preferences as a basis for comparison with those of other nations and cultures. We will examine the complex relationship between culture and communication by considering 1) the nature of Japanese culture and Japanese communication preferences, 2) situated communication in other countries and cultures, with a focus on English speaking nations, and 3) accounts and studies of intercultural communication, usually cases involving Japanese communicating with someone of a different culture. The lectures and discussions will be conducted in English.

【Schedule】

In the first semester we will focus on key concepts in intercultural communication. Lessons in the first semester will be devoted to the following (although changes can be made depending on student level and interest) :

1. Key concepts relating to the notion of culture
2. Key concepts in intercultural communication
3. Key concepts in intercultural communication (continued)
4. The values approach to intercultural communication
5. General aspects and theories of culture and communication in Asia
6. General aspects and theories of culture and communication in the West
7. General aspects of culture and communication in Japan
8. General aspects of culture and communication in Japan (continued)
9. Language and world view
10. Nonverbal communication
11. Student presentations (based on final papers)
12. Student presentations (based on final papers)

【Assessment】

The general pattern of classes will involve homework reading assignments that form the basis for lectures AND discussion. Students will be expected to do the reading and be prepared to discuss the content of the assignment in class. Occasionally classes will involve lectures only. Students will write one end-of-semester paper and give a short presentation to the class based on it. There will also be quizzes on the reading assignments.

【Textbooks】

To be announced

専門演習 I

ポール・C. リンガー

2年 前期 必修 2単位

【Course Content】

This course will attempt to cover some of the many different aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and major areas of modern life in Britain.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. The course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and groupwork, interviews, and presentations.

【Schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period. Topics in the first semester will include:

COUNTRIES IN BRITAIN
VARIETY OF CULTURES
CUSTOMS AND HABITS
MULTICULTURALISM
EDUCATION
MUSIC

【Assessment】

Grades will be determined from the following:

Homework assignments
Presentations
Participation in pair and groupwork
Reports

【Textbooks】

No set text.
Handouts will be prepared and made available.

専門演習Ⅱ

松本青也

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

【授業計画】

今や世界共通語とも言われるアメリカ英語と、日本人の考え方や生き方にも大きな影響を与えているアメリカ文化を考えようとするものです。アメリカ英語とその背景にある文化、特に人生、孤独、愛と性、生と死、幸福などの基本的なテーマについて日米の思想を比較対照して考え、更に自由、平等、人権といった理念が日米で現実の様々な問題解決にどう機能しているかまでを幅広く扱います。

2年次後期では次のような活動を中心に進めます。

- ①アメリカの作家、哲学者、科学者、ジャーナリストなどによる珠玉の英文の味読と討論
- ②各自が選んだテーマについて、インターネットによる情報検索やE-mailでの情報収集をもとにした研究発表
- ③研究小論文の執筆

【評価方法】

レポート、研究発表、学習態度、出席状況などによる総合評価

【テキスト】

自作プリント教材、ビデオ、インターネットによる資料

専門演習Ⅱ

ジョリー幸子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

当演習は3年生の言語文化演習Ⅰa、bに継続するもので、言語よりも更に重要であると言われる「非言語コミュニケーション」について研究・追求するものである。

【授業計画】

第1週	コースオリエンテーション
第2週	研究企画と方法論 (Research Methodology)
第3週	文献録作制 (Bibliography・Reference)
第4週	Speech : Research (Reading・Discussion)
第5週	〃
第6週	〃
第7週	〃
第8週	〃
第9週	〃
第10週	〃
第11週	〃
第12週	〃
第1週	Project Presentation : Group 1 & 2
第2週	〃 : Group 3 & 4
第3週	〃 : Group 5 & 6
第4週	〃 : Group 7 & 8
第5週	〃 : Group 9 & 10
第6週	〃 : Group 11 & 12
第7週	〃 : Group 13 & 14
第8週	〃 : Group 15 & 16
第9週	〃 : Group 17 & 18
第10週	〃 : Group 19 & 20
第11週	〃 : Group 21 & 22
第12週	Summary and Conclusion

【評価方法】

演習への出席、ディスカッションへの参加、発表、レポート等を総合的に判断する。

【テキスト】

1. 世界60カ国比較文化事典、T. モリスマン、マクミラン
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために。(ジョリー幸子 風媒社)

【参考文献・資料】

比較生活文化事典、金山盲夫
大修館

Gestures : DOs and TABOOs of Body Language Around the World. Roger E. Axtell, Wiley, 1991.

専門演習Ⅱ

B. サン・ジャック

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

人々は、国語と自分の文化を子供の時から良く把握して、殆ど無意識に毎日国語を利用し、自分の文化に適切な行動もします。しかし、自分の言語と文化というのは、客観的に、意識的に、何のものであるか、言語と文化との関係は何であるか、というような事について全く考えません。演習Ⅰ（前期）の時に始めた翻訳の研究をもっと深く考察して、言語と文化の関係を徹底的に理解する。実際には、翻訳は応用言語学の根本的な要素である。

"Translators as applied linguists will further our understanding of language and our ability to explain the acts of human communication" (Bell, 1991) .

【授業計画】

専門演習Ⅱに於いて、学生は色々な翻訳を研究し、自分でも日本語から英語に、英語から日本語に、翻訳の練習します。同時に、日本語と英語の有名な翻訳者の作品を考察して、その翻訳者がどういふふう人間のことばと文化の意味の微妙なニュアンスを訳したかと研究して、もっと深く自分の国語と第二言語を理解して、もっと上手にコミュニケーションができるようになる。

"Translators breach the walls created by language differences, thereby opening up new horizons and broadening our vision of reality to encompass the entire world" (J. Delisle, Translators through History) .

This seminar will require active participation of students. Both English and Japanese will be used.

【評価方法】

Presentations. Team presentations (2 or 3 students together) are also accepted.

【テキスト】

Translation and Translating. 1991 Roger T. Bell
翻訳という仕事 1991小鷹信光

専門演習Ⅱ

山内啓介

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

【授業計画】

専門演習Ⅰにつづき、日本語学、日本語教育の演習を行う。なお、課題の発見は広く領域をとって国語教育や日本文化などの問題に及ぶことがあってよい。

次の演習を行う。

文献解題

問題点と調査・実験

演習は2回を担当する。プレゼンテーションにはそれぞれ、レジュメを用意する。

1回目：文献選択、内容の抄録、梗概説明、問題提起。

2回目：課題提示、トピックとアンサー、調査実験のプロセス。

演習の参加は、発表について事前準備に3週間は必要とする。あらかじめ、発表当番をエントリーし、計画的に学習が進められるように話し合い、プレゼンテーションを実行する。

【評価方法】

プレゼンテーションによる。

【テキスト】

特になし。各自の発表用レジュメ。

【参考文献・資料】

授業時に示される。

専門演習Ⅱ

馮富榮

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日の課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

【授業計画】

前期では、先生主導で授業を展開するが、具体的に説明すると、先生側から本文に出ている新しい単語や重点文法などを説明し、本文の翻訳を学生たちが行う。できないところは先生が補足的な説明をする。練習問題は、学生各自でやるが、授業の最初にその答えあわせをする。言語の力は、普段の努力にあると信じているので、単語の小テストなどは、ときどき行う。要するに、前期の授業を通して、11月の中国語能力検定の3級にパスすることが期待される。当然、そのための指導もする。

後期では、学生主導で授業を展開する。つまり講義中心の授業からディスカッション中心の授業へと変化していく。より具体的に言うと、学生を二人ずつのペアに分け、二人で協力しあって、単語の説明や文法の説明を行う。どのような単語は例を添えて説明したほうがよいとか、どの文法現象を取りたてて説明したほうがよいとか、本文のどこに特に注意を払ったほうがよいなどは、学生たちが自分で考えなければならないが、そのための事前指導や、アドバイスはもちろん先生がする。このゼミの最終的な目標は、受け入れ型の学生ではなく、挑戦型の学生を養成することにあるので、そのための第一歩はここからスタートする。つまり、最初からできないのではなく、勇気をもって挑戦すればどんなことでも怖くないという姿勢、他人と協力することの大切さ、そして受講者は自分に何を求めようとしているか、自分がその人達に何ができるかという人の心を思いやる気持を培うことができると期待している。さらに、後期の授業を通して翌年3月の中国語能力検定試験の準2級に合格することを期待している。

【評価方法】

平常点で評価する。

【テキスト】

漢語系列閲読 第一冊（北京語言文化大学出版社）

専門演習Ⅱ

アンドリュー・J・ムーディー

2年 後期 必修 2単位

【Course Content】

This course will continue to examine the different forms and functions of English internationally. Because this seminar will focus on sociolinguistics (社会言語学) and applied linguistics (応用言語学), students should have interest in these areas as well as an interest in English. This seminar will further introduce students to such fields as language contact, language planning, ELS/EFL, language teaching, bilingualism/multilingualism, and language preservation. This seminar will be of interest to anyone who wants to study sociolinguistics or applied linguistics. In particular, students who are preparing to take language teacher certification will find this seminar especially helpful. Whereas the focus of the first semester was on native Englishes, the focus of the second semester will be upon non-native Englishes.

【Schedule】

- ・ English pidgins and creoles
- ・ English as a Second Language
- ・ English as a Foreign Language
- ・ English and ethnic/national identity
- ・ Areas where local Englishes have developed (i.e. Caribbean, India, Singapore, Kenya, South Africa, Hong Kong, etc.)

【Assessment】

homework 30%
oral report 30%
final report 40%

【Textbooks】

A textbooks will be announced at the first class meeting.

【Reference】

- Cheshire, J. (1991) *English Around the World: Sociolinguistic Perspectives*.
Kachru, B. (ed) (1992) *The Other Tongue: English Across Cultures*.
McArthur T. (1998) *The English Languages*.

専門演習Ⅱ

窪田守弘

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日の課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

学生は言語や文化に関する論文の専門的な内容について学ぶとともに、代表的な映画のシナリオの調査をして、十分時間をかけて議論や発表を繰り返しながら言語の多様性を整理し、概念の抽象化をはかるようにする。

本ゼミでは専門演習Ⅰの知識を基にして、具体的な調査やフィールドワークも実施する。例えば、昨年度の場合、日本映画の中で日本人がどのように描かれているかを調査したが、映像の中における日本人の言語表現や言語行動について、新たな発見をする学生が多かった。今年度もこのような調査を行っていくつもりである。そして、可能であれば今春大阪にオープンしたユニバーサルスタジオ・ジャパンに出かけ、本場の映画作りのノウハウの一端を知るために、フィールドワークを計画している。言語と文化を知るには幅広い知識が必要になるが、その意味で映画は語学、文学、歴史、音楽、宗教などあらゆる分野にわたる総合芸術であり、時間をかけて調べていくだけの価値がある。

このゼミでは、映画を見てただ評論するのではなく、それが個々の学生に対して多くの示唆と教訓を与えてくれるし、各自のテーマに沿って自由に学べるような内容になっていることに重点をおきたい。

【評価方法】

演習時の発表内容や態度、提出レポート、出席状況などで判断する。

【テキスト】

ムービー DE イングリッシュ (窪田守弘 編著
スクリーンプレイ出版 1,200円)

専門演習Ⅱ

ダニー・T. モルデン

2年 後期 必修 2単位

【Course Content】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日の課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively. It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods--they are really ways of studying or thinking about a topic. So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates. The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject. We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectures and discussion about rhetoric.

Topics covered will include:

1. Classical rhetorical theory
2. Contemporary rhetorical theory
3. The rhetoric of movies, music, art, etc.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and an oral presentation.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided.

専門演習 II

ジェニファ・J. マギー

2年 後期 必修 2単位

【Course Content】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日の課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

The Internet and information technology are changing the world we live in very quickly. This seminar will focus on some of the ways that the Internet is changing the world and some of the issues that are worrying people because of the Internet. For example, some people worry that the Internet may create a world in which neighbors don't talk to each other at all, and people don't have "real" friends. Other people worry about bad information (like how to make bombs) being put on the Internet where people can find it easily. We will look at these issues and others in this class.

【Schedule】

Topics to be covered include:

1. Privacy concerns
2. Cultural imperialism
3. The "information gap" and information overload

【Assessment】

Students will be expected to express their opinions in class. Students will have to write a paper during the semester reacting to one of the issues discussed in class. There will also be some short quizzes over content.

【Textbooks】

Readings will be taken from the media, and there may be a textbook as well.

専門演習 II

郭伏良

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日の課題について問題提起を行い、学生に自らの課題を発見させ、情報検索の方法についても指導する。

【授業計画】

この授業は、リスニング、会話能力、読む力、そして作文能力という4つの面から中国語のコミュニケーション能力を全面的に伸ばすことを目的としている。一年間の学習を通して中国人と普通に会話ができ、文通ができ、そして中国人の簡単な会話が聞いて理解でき、さらに中国についての大まかな理解ができることが期待できる。そのほか、中国語のタブー表現や婉曲表現を含めた実際のコミュニケーション能力を養成し、中国語能力検定試験の3級または準2級にパスすることも狙っている。いわば、3年次の高いレベルの中国語の学習への準備段階に当たる。

人間の病理現象、結婚や恋愛、そして政治外交及び民族習慣などの面から中国語コミュニケーションにおけるタブー表現や婉曲表現の様式を検討する。さらに、日・中両言語の比較を行うように学生を指導すると同時に、実際のコミュニケーションの場面を設定して、実践訓練を行う。よって中国文化への理解を深め、中国語によるコミュニケーション能力を高める。

【評価方法】

受講態度、出席率、宿題の完成状況及びレポートの提出状況などに基づいて評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業のとき、指示する。

専門演習Ⅱ

ディビッド・C. ダイカス

2年 後期 必修 2単位

【Course Content】

基本的な論文を読みながら、それぞれの分野における今日的課題について問題提起を行い、学生に自らの課題をはっけんっせ、情報検索の方法についても指導する。

This course offers students a survey of key concepts related to processes of intercultural communication. We will consider the essential role of context (social, cultural, and historical) in intercultural interactions, using Japanese communication habits/preferences as a basis for comparison with those of other nations and cultures. We will examine the complex relationship between culture and communications by considering 1) the nature of Japanese culture and Japanese communication preferences, 2) situated communication in other countries and cultures, with a focus on English speaking nations, and 3) accounts and studies of intercultural communication, usually cases involving Japanese communicating with someone of a different culture. The lectures and discussions will be conducted in English.

【Schedule】

In the first semester we will focus on key concepts in intercultural communication. Lessons in the second semester will be devoted to the following (although changes can be made depending on student level and interest) :

1. Communication patterns of Americans
2. Communication patterns of Americans (continued)
3. Communication patterns of the British
4. Communication patterns of the Chinese
5. Communication patterns of Germans
7. Communication patterns of Arabs
8. Communication patterns of Australians
9. Communication patterns of Koreans
10. Communication patterns of Mexicans / Latin Americans
11. Student presentations (based on final papers)
12. Student presentations (based on final papers)

【Assessment】

The general pattern of classes will involve homework reading assignments that form the basis for lectures AND discussion. Students will be expected to do the reading and be prepared to discuss the content of the assignment in class. Occasionally classes will involve lectures only. Students will write one end-of-semester paper and give a short presentation to the class based on it. There will also be quizzes on the reading assignments.

【Textbooks】

To be announced

専門演習Ⅱ

ポール・C. リンガー

2年 後期 必修 2単位

【Course Content】

This course will attempt to cover some of the many different aspects of life in contemporary Britain. Through articles, short documentary films, and other published materials, students will be introduced to facts and major areas of modern life in Britain.

As well as reading and writing about and discussing various topics, the students will be expected to relate what they have understood to similar aspects of their own culture.

British and Japanese cultural awareness will be used to encourage analytical and imaginative participation of students in the language learning process. The course is based around genuine communication and will take into account genuine contexts, reproducing realistic conditions through pair and groupwork, interviews, and presentations.

【Schedule】

Each topic will be covered over a two to three week period.

Topics in the first semester will include:

THE MONARCHY
THE COMMONWEALTH
WOMEN IN BRITAIN
THE MEDIA
FESTIVALS
RELIGION

【Assessment】

Grades will be determined from the following:

Homework assignments
Presentations
Participation in pair and groupwork
Reports

【Textbooks】

No set text.
Handouts will be prepared and made available.

批評理論

杉本一直

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

文学作品を構造や文体の面から分析し批評する方法を学ぶ。具体的には、時制や話法などの言語学的形態の分析とテーマ分析の双方を行い、作品において両者がいかんにして連関するのかを調べる。

【授業計画】

現代小説を具体的に例にとりながら、さまざまな批評の視点を学んでいく。以下に主な項目を挙げておく。

- ・ヴァーチャル・リアリティと多層的世界：メタフィクション小説と1990年代の映画
- ・メタフィクションとは何か？：イタロ・カルヴィーノとジョン・バース
- ・幻想小説というジャンル：ラテン・アメリカ文学を中心に
- ・文学的主題としての「記憶」：ウラジーミル・ナボコフ
- ・意味の不在、肉体の不在：サミュエル・ベケットとポール・オースター
- ・パロディとパステイッシュ：清水義範、筒井康隆、ウンベルト・エーコ
- ・誌におけるアヴァンギャルド：フレーブニコフとマヤコフスキを中心に

【テキスト】

プリント配布、および授業中に指示した書籍

日本語教授法 I

阿部美枝子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教授法というのは、外国人対象に外国語として日本語を教えることであり、日本人対象に行われる「国語教育」とはその内容も方法も全く異なるものなのであるが、このことが一般にはほとんど理解されていない。「日本語教授法」の中では、この違いについて理解することを目標とする。

方法としては、まず、これまでに提唱され、実践されてきた種々の「外国語教授法」一般の変遷を辿り、それらが実際に、日本語教授にどのように適応できるか、あるいはできないかを検証する。このように外国語教授法の一環として日本語教授法を捉えた上で、日本語を外国語として教えるとは何かを考えていく。

【授業計画】

1. 日本語教育と国語教育一般説
2. 外国語教授法の変遷とその日本語教授への適応性
 - a. オーラル・メソッド
 - b. オーディオリンガル・メソッド
 - c. トータル・フィジカル・リスポンズ/コミュニケーション・ランゲージ・ラーニング/サイレント・ウェイ/サジェストベディア
 - d. ナチュラル・アプローチ
 - e. CLT
3. 日本語を外国語として教えるということ

【評価方法】

期末試験による。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

1. 石田敏子 (1995)『改訂新版日本語教授法』大修館書店
2. 鎌田修他編 (1996)『日本語教授法ワークショップ』凡人社
3. 岡崎敏雄、岡崎眸 (1990)『日本語教育におけるコミュニケーション・アプローチ』凡人社
4. 名柄迪、茅野直子、中西家栄子 (1989)『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク

日本語教授法Ⅱ

山内啓介

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

外国人に対する日本語教授法、特に初級レベルの日本語教授法を中心に学習する。まず、初級コースで教えることを確認する。日本語教育の用語と初級の表現文型を確認する。ビデオやミニ・デモンストレーションにより口頭練習、読解指導について学び、実際の教案を作成し、教壇模擬授業を行う。

【授業計画】

次の講義を行う。

- 1 日本語学習入門期の指導
- 2 日本語学習の実際
- 3 日本語初級の文型と積み重ね方式
- 4 初級の学習第1段階 基本文型・助辞
- 5 初級の学習第2段階 動詞活用
- 6 初級の学習第3段階 複文構造
- 7 敬語の指導
- 8 文字教育と漢字語彙
- 9 新聞の読解
- 10 教授法と教科書
- 11 教育方法①
- 12 教育方法②
- 13 まとめ

【評価方法】

単位取得の評価は、授業参加30%、複数回のテスト60%、受講生のコミュニケーション10%で行う。

【テキスト】

特に指定しない。授業時にプリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

『日本語教授法』監修 佐治圭三・真田信二 とうほう
ほか、講義中に紹介する。

ノンバーバル行動

芳賀裕子

2~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

初めにコミュニケーション自体の構造を理解し、その中で非言語コミュニケーションの位置づけと役割をとらえる。その後、非言語コミュニケーションの種類や一般的な理論について概観した上で、ヒトを含めた様々な動物の非言語的コミュニケーションについて事例をあげながら理解を深める。動物のコミュニケーションについては動物行動学、動物心理学の知見を主に引用する。また、ヒトについては人類学的知見や社会心理学的知見をまじえて考察する。

【授業計画】

- 第1回 コミュニケーションとは
- 第2回 コミュニケーションツールとしての知覚
- 第3回 親子間のコミュニケーション
- 第4回 幼体期のコミュニケーション
- 第5回 求愛のコミュニケーション
- 第6回 闘争のコミュニケーション
- 第7回 表情表出
- 第8回 動物における言語様コミュニケーション
- 第9回 言語に伴うノンバーバル情報：パラ言語
- 第10回 サインの種類と機能
- 第11回 ジェスチャーの種類と機能
- 第12回 パーソナルスペースと視線

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

マン・ウォッチング 上下 (デズモンド・モリス 藤田統訳 小学館ライブラリー 1991)
動物行動学入門 (P. J. B. スレーター 日高敏隆・百瀬浩訳 同時代ライブラリー (絶版) 1994)
動物は世界をどう見るか (鈴木光太郎 新曜社 1995)
他多数

認知心理学

岩原昭彦

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義では、認知心理学の概説を行う。人間がどのように外界の情報を取り入れ、処理するのかに関する心理学的アプローチについて学習する。具体的には、人間の知覚、記憶、学習、思考、言語活動と理解について講義する。

【授業計画】

1. 認知心理学とは／講義計画指示
2. 知覚
- 3～4. 記憶
5. 学習
6. 概念の構造
- 7～9. 思考
- 10～12. 記号としての言葉（単語認知）

【評価方法】

期末テスト、または講義内で課すレポートによって行う。実験（あるいは調査）への参加回数も加味する。

【テキスト】

使用せず。講義内で理解の助けになるよう、プリントを配布する予定。

統計学基礎

坂井貞彦

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

コミュニケーション行動・心理学に関する実証的研究を進めていく場合、さまざまな種類の資料・データを集めて分析を進めていくことになる。多くの場合、得られた資料・データは数値として扱われる。この数値はどのような特徴をもち、そこからどのようなことが読みとれるのであろうか。こうした数値を扱う際に必要となる統計的な考え方、方法の基礎について講義する。

【授業計画】

講義方式による。

1. 統計と統計分析
2. 日本の統計調査
3. 代表値、標準偏差、時系列データ
4. 相関、相関係数
5. 総合指数、物価指数
6. 回帰分析
7. 統計的推測のあらまし

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させ、また小テストを実施した場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

入門統計学（木下宗七、有斐閣 2,520円（税込））

英語科教育法Ⅱ

宮田 修

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力の基礎を育成するためには、日本の中学校ではどのような授業を行えばよいのか、模擬授業を行いながらその具体的な指導法を研究する。

英語科教育法Ⅲ

宮田 修

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

学習指導要領の趣旨に沿って、コミュニケーション能力を育成することに主眼をおいて、生徒の多様化した日本の高等学校における英語教育を効果的に行うにはどのようにするか、具体的、実践的に指導する方法を研究する。

応用言語学特殊講義Ⅰ

外池俊幸

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この講義では、脳科学、計算機科学、哲学、数学、心理学などとの学際的な研究領域としての認知科学、その一部としての言語研究を、関連する領域の成果と共に学ぶ。Ⅰでは、認知科学の観点からの言語研究の歴史をたどる。

応用言語学特殊講義Ⅱ

外池俊幸

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この講義では、Ⅰと内容を分け、認知科学の言語に関する領域の研究の歴史を概観し、その後、認知科学的な言語研究の最新の成果・動向を取り上げて、その問題点、今後の課題だと考えられる事柄を論じる。

応用言語学海外研修

松本青也 他

集中 3年 前期 選択 8単位

【授業の概要】

異文化体験学習（ホームステイ、小旅行など）を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、メーリングリストを利用したE-メール発信などによって各自のテーマに沿った調査・研究も行う。

American Literature Ⅰ

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

20世紀初頭の黒人をテーマに、南部での黒人差別、北部への大移動、ハーレム・ルネッサンスなどに関連したものを扱う。取り上げる作家は、ラングストン・ヒューズ、ゾラ・ニール・ハーストン、カウンティー・カレン、ジョン・トゥーマー、リチャード・ライトなど。

American Literature II

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

公民権運動、ブラック・パワー運動、そして現代のアメリカ系アメリカ人のアイデンティティ確立への運動などを含めた、戦後の動きに関連したものを扱う。取り上げる作家は、ラルフ・エリソン、ロレイン・ハンズベリー、アメリ・バラカ、グェンドリン・ブルックス、スパイク・リーなど。

Writing and Presentation III

ジェニファ・J. マギー

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

I と II におけるテーマと練習をさらに発展させる。又、即興スピーチや質疑応答など、形式張らない形の発表の仕方を学び、練習する。

Writing and Presentation I

ダニー・T. モルデン 他

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

英文を書き、英語で口頭発表する際に役立つ実用的な知識や方法を学ぶ。更にコミュニケーションの様々な状況を考えながら実際に論文を完成し、それを口頭発表する。

Writing and Presentation IV

ジェニファ・J. マギー

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英語による発表を学ぶ上級クラス。ここでは様々な場合の口頭発表（情報伝達、説得、特別な状況など）に焦点を当てて体験させるとともに、高度な論文の作成と、その口頭発表について学ぶ。

Writing and Presentation II

ジェニファ・J. マギー 他

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

I に引き続き英文を書く練習を重ね、英語による様々な形式の口頭発表を試みることで英語による発表能力を更に高めながら、「発表」の背景にある考え方と書き言葉と話し言葉による文体の違いなどについて考察する。

Communication Strategies I

ダニー・T. モルデン 他

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

Communication Strategies II

ダニー・T. モルデン 他

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

Seminar Overseas

ジョリー幸子 他

集中 3年 前期 選択 8単位

【授業の概要】

異文化体験学習（ホームステイ、小旅行など）を加味した語学研修を中心に、両大学教員の連携指導のもとで、メーリングリストを利用したEメール交信などによって各自のテーマに沿った調査研究も行う。

Communication Strategies III

ダニー・T. モルデン

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

主張や証拠、理論の組み立てを論破する様々な方法を学びながら、論議やディベートへの対応について考察する。

中国語聴解Ⅲ

馮富榮

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

テレビの衛星放送やインターネットなどを利用して、主として中国の現代社会に関する多くの情報を紹介する。たとえば、中国の政治、経済、また中国の教育の現状及び現代の社会問題などが教材の中心となる。本講義の目的は幅広い領域のことを耳から理解する訓練に加え、中国の現代社会についての理解を深めることにある。

Communication Strategies IV

ダニー・T. モルデン

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

議論やディベートにおける相互作用という側面に焦点をあてながら、実際にディベートを準備してクラスで行い、ディベートのもつ様々な要素について考察を加える。

中国語聴解Ⅳ

馮富榮

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

貿易取り引き・家庭会話・学校の授業・病院での医師と患者との会話の録音及びニュース放送と多分野に関するラジオ放送などを教材にして、同時通訳訓練を行う。要するに、視覚からの情報をカットし、耳のみに頼る理解の力を養成することがこの講義の目的である。授業は、グループ分けをして、小人数で進める予定である。

中国文学Ⅰ

郭伏良

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国文学史について、簡単に紹介し、主として中国現代の有名な作家の代表作を説明する。たとえば、郭沫若、魯迅や矛盾などの作品を教材とする。各作品の紹介の後、必ずその作品に関する評論を書くように課題を提出する。よって文章を書く力を高め、作品を客観的に読み、自分の目で作品を評価する姿勢を養成する。

中国文学Ⅱ

郭伏良

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

中国現代の有名な作家を紹介する。主として劇作家の曹禺、老舎などの作品を説明し、必要に応じて、作品のビデオを見ることもあり、それについて評論文を書いたり、感想文を書いて発表したりする。要するに、文学作品を理解するのみでなく、それを文章で評価し、また口頭で自分の考えを発表するという総合的な言語能力を養成することも本講義の目的である。

中国語学Ⅰ

馮富榮

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は、中国語の全体的な文法知識、中国語の構文ルール、また中国語研究の基本方法など、中国語学に関する基礎的な知識の紹介に重点を置いて行う予定である。中国語の教師として、または中国語の研究者として基本的な知識を身につけることを本講義の目的とする。

中国語学Ⅱ

馮富榮

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は、中国語研究の歴史、研究の分野などを紹介すると共に、中国語研究の最新成果を反映する代表的な論文を講読する。更に、中国語と日本語の構文ルールなどの相違点を探り、その相違点による日本人の中国語学習上の問題点を想定する。そしてその問題点を質問紙調査などで検証すると同時に、その問題点を解決することのできるような中国語の教授法も吟味する。

日本語学Ⅲ

山内啓介

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

語彙についての基本的な理解を得るため、術語や理論を学習して言語研究の応用方法を解説する。また、意味についての研究史から、意味の基本三角形、指示の意味、差異化、概念の外延と内包、関係の意味などの基本的な知識を得る。

日本語特殊講義Ⅰ

窪田守弘

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

将来、日本語教師を目標としている学生は、少なくとも外国語の文献や資料を読みこなす能力が必要である。20世紀には多くの言語学者の学説が発表されたが、著名な論文や著述の中から、日本語に関する基本的な文献を広い視野から整理しながら概観する。

日本語特殊講義Ⅱ

窪田守弘

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

外国語の文献では、欧米学者の学説を極力原書で紹介するが、原書で読めないものに関しては、翻訳によってその言語学者の考えの凡そを理解するようにする。そして、学生が各自関心のある学説に関しては、各自が分担して発表を行うようにする。そして、少なくとも分担した部分は、原書で読めるような読解力を身につけることを目標とする。

日本語教育海外研修

山内啓介 他

集中 3年 前期 選択 4単位

【授業の概要】

日本語教育の関連科目の一環として、姉妹校である中国の南京師範大学の日本語学科で、日本語教育実習を実施する。将来日本語教師を目指す者は、当校で、約3週間の日本語教育実習を行うが、中国の学生と直接交流するという意味で、貴重な異文化体験プログラムともいえる。

専門演習Ⅲ

松本青也 他

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学生による課題発表と討議と並行して、関連するいくつかの研究論文を読みながら、調査・研究方法、論文作成法について解説を加える。

専門演習Ⅳ

松本青也 他

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

学生による研究発表を中心に、発表の内容、方法について自由に討議させ、四年次のプロジェクトにつながる発展的な課題と、その実践・調査・研究方法について考えさせる。

プロジェクト

松本青也 他

4年 通年 必修 8単位

【授業の概要】

それぞれの分野において、個性を生かした多様な学習・研究活動の目標を主体的に選択、設定させ、各自の目標達成に向けて適切な指導を加えながら、学習・研究業績をあげさせようとするものである。

比較教養特論

渡辺かよ子

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

比較教養論での各国の状況をふまえて、本論では日本の教養論の生成と今日的課題に焦点を絞り、「共生」に向けての言語コミュニケーションの視点から「教養」の意義を概説する。

比較文化特論Ⅰ

國信潤子

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

近年ジェンダーつまり社会・文化的に形成された性についての固定的概念が流動化し、国際的にも女性差別撤廃条約、人種差別撤廃条約などの人権規約が批准されるようになっている。こうした世界的趨勢はジェンダー関係の多様化が多くの文化にみられるようになった結果でもある。この講座ではジェンダー概念とは何かを紹介し、ジェンダー関係の文化多様性がどのような現象としてみられるか、またジェンダー間の勢力関係のアンバランスが差別となる様相について考察する。統計データ分析や英文資料による購読も含まれる。

比較文化特論Ⅱ

トマー・トドロヴィック

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

西ヨーロッパの主な諸国（フランス、英国、ドイツ、イタリア、スペイン）と日本におけるさまざまな文化活動の状況、問題点に関する最近のデータを利用して比較を行う。

日本語教授法Ⅲ

山内啓介

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

外国人に対する日本語教授法、特に中級、上級レベルの日本語教授法を中心に学習する。初級における口頭練習、読解指導の教案作成および模擬授業をふまえ、中級、上級と様々なレベルの日本語教育が日本語学習者の立場に立って体験できるようにする。

日本語教授法Ⅳ

山内啓介

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本語教師の役割、教材およびテスト等学習環境を教育所産として再確認した上で、日本語教育の現場を見据えた実践的な日本語教育教材の取り扱い方を学ぶ。また、日本語教育におけるテストの作成およびその評価法についても学ぶ。

日本語教育実習

山内啓介

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

具体的な日本語の授業のための「授業計画」（指導案）に基づいて授業実習を行なう。授業実習の準備、授業実習、そして授業実習後の振り返りを通して日本語の授業への取組み方を身をもって学ぶ。日本語教育の現場を想定して、模擬授業を行なう。

ことばの発達と障害

二宮 昭

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間のことばによるコミュニケーション行動に関して、それは一体どのような過程を経て発達してくるのか、また、その障害はそのような場合にどのようなかたちで現れ、それを改善していくにはどういうことが重要であるか、ということを通して、人間にとってことばのもつ意義を考える。

ビジネス英語

蜂須賀幸志

3・4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は、中国経済と日・中経済交流の全般の紹介から入り、日・中貿易の実務や、中国への投資および中国の金融・為替などを中心的に説明する。経済理論よりも対中貿易の実務に力を入れる。具体的には、商談する前の準備事項から商談最中の注意事項、また商談の仕方、それに関連する知識、中国の課税状況及び対中貿易に関する一般的な手続きなどを紹介する。

ビジネス中国語

王建国

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は、中国経済と日・中経済交流の全般の紹介から入り、日・中貿易の実務や、中国への投資および中国の金融・為替などを中心的に説明する。経済理論よりも対中貿易の実務に力を入れる。具体的には、商談する前の準備事項から商談最中の注意事項、また商談の仕方、それに関連する知識、中国の課税状況及び対中貿易に関する一般的な手続きなどを紹介する。

教職入門

小木曾通男

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうかが、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

1. 東西の優れた教育者をとりあげ、教育とは何か、教育者とは何かを考える契機とする。
2. 近代市民社会の教育需用の増大と教育養成についてイギリス、アメリカにおける教員養成の概要及び日本における教員養成を歴史的に概観する。
3. 社会構造の変化の著しい現代社会における教員への期待について、地域構造、家族構造、職業構造等の変化に伴い教員の役割の変化と多様化・個性化した保護者・生徒の教員への期待と変化への対応を考える。
4. 中学校、高等学校における望ましい教員像とは何かを学級担任、教科担任、部活顧問、進路指導、生徒指導において各人の体験をもとに考えてみたい。
5. 信頼される教員とはどんな教員か、生徒の人間性の尊重とは何か、生徒との望ましいコミュニケーションのあり方を考えてみたい。
6. 21世紀の教育を担う教員の在り方を求め、社会の進歩と変化に対応する不断の研修と教育技術の開発により、常に新鮮な教育を行う努力は教員にとって不可欠であることを理解する。

【評価方法】

授業中にテキストに添付した用紙に記載する感想文とレポートによる総合評価とする。

【テキスト】

教職入門（200円）

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教育原理

佐藤実芳

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

- | | |
|--------|--|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2回 | 教育とは何か |
| 第3～5回 | 人間と教育 <ul style="list-style-type: none">・動物学からみた人間の特殊性・人間の成長と環境・教育の重要性・人間形成の場 |
| 第6回 | 教育の本質 <ul style="list-style-type: none">・注入主義・開発主義 |
| 第7～10回 | 教育の目的 <ul style="list-style-type: none">・教育目的とは・教育目的の歴史的変遷 |
| 第11回～ | 現代の教育 |

【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

教育原理—教育の目的、方法、制度—（七訂版）（教師養成研究会編著 学芸図書）

教育思想史

梅村敏郎

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

教師がひとり一人の子どもの発達を真の意味で援助できるためには、教育の諸々の技術を体得していることが必要であることはいうまでもない。しかし、教師は何よりも先ず人間の教育について「哲学する」ことが要請されている。

この講義はプラトンからデューイにいたるまで、歴史上、教育を哲学した偉大な人物の思想を辿ることによって、未来の教師各自が自ずからの思考を通して独創的であると同時に普遍性のある教育の理念を確立する能力を養おうとするものである。

【授業計画】

- 1 教育思想史を学ぶことの意義
- 2 プラトン
- 3 クインティリアヌス
- 4 ナザレのイエス
- 5 エラスムス
- 6 イグナティウス・ロヨラ
- 7 コメニウス
- 8 ルソー
- 9 ベスタロッチ
- 10 ヘルバルト
- 11 デューイ

【評価方法】

自分が関心を持つにいたった教育思想史上の1人を取り上げ、レポートを作成する。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。読むべき文献は授業中に指示する。

欧米教育文化史

江藤恭二

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育的なアプローチを試みる。

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育・文化
3. ルネサンスと宗教改革
4. 近代教育・文化の生誕と展開
5. 啓蒙思想と教育
6. 市民革命期の教育思想

【授業計画】

講義方式、時折、欧米文化に関するVideo教材を用いる。

【評価方法】

試験又はレポート。

【テキスト】

西洋近代教育史（江藤他編 学文社 2,300円）

教育心理学 I

富安玲子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ／原因帰属をめぐって／知的好奇心の喚起／報酬の意味／目標のありかた

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特殊教育の現状と課題を認識するとともに、基本的には人間尊重の精神を涵養する。

【授業計画】

- 1 心身障害児の理解
 - ・「心身障害児理解のために」VTR視聴（感想文）
 - ・心身障害児と家族の関係 VTR視聴（感想文）
- 2 心身障害児の種類と程度
 - ・心身障害児とは
 - ・学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
 - ・視覚・聴覚・肢体不自由・病虚弱児の障害の程度と発生原因
 - ・知的障害児の障害の程度と発生原因
 - ・言語障害・情緒障害・重度重複障害児の教育的環境
- 3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性
 - ・なぜ早期発見、早期教育が必要か
 - ・社会自立に向けた後期中等教育の現状
- 4 心身障害児の就学指導の仕組み
- 5 心身障害児（者）教育の歴史
 - ・心身障害児（者）教育を開拓した人々
 - ・心身障害児（者）教育の歴史的変遷
- 6 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する。

教育制度

佐藤実芳

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

- 第1回 教育制度の意義
- 第2～3回 現代学校教育制度の起源
 - ・大学の成立
 - ・中等学校の成立
 - ・初等学校の成立
- 第4回 学校教育制度の類型
- 第5～6回 外国の学校教育制度
- 第7～9回 日本の学校教育制度
- 第10回～ 教育法規
 - ・教育法規とは
 - ・日本国憲法
 - ・教育基本法
 - ・学校教育法
 - ・学校教育法施行令
 - ・学校教育法施行規則
 - ・その他

【評価方法】

定期試験、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

教育原理—教育の目的、方法、制度—（七訂版）（教師養成研究会編著 学芸図書）

教育課程

梅村敏郎

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

- 1 教育課程とは何か
- 2 教育課程の原理
- 3 教育課程の種類
- 4 わが国の学校の教育課程
 - (1) 幼稚園の教育課程
 - (2) 小学校の教育課程
 - (3) 中学校の教育課程
 - (4) 高等学校の教育課程
- 5 まとめ

【評価方法】

評価は、最終授業（もしくは学期末定期試験期間中）に行われる筆答試験による。

【テキスト】

文部省『中学校学習指導要領』平成10年
文部省『高等学校学習指導要領』平成11年

英語科教育法Ⅰ

松本青也

2年 前期 選択 2単位

この科目は、言語コミュニケーション学科専門科目「英語教育法Ⅰ」で代用するため、その授業概要を参照すること。

道徳指導法

加藤文字

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探究する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・ 明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
 - ・ 戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・ 道徳教育の目標
 - ・ 道徳教育の内容
 - ・ 「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・ 「道徳の時間」の指導の実際 VTR視聴
 - ・ まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度。課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する。

特別活動指導法

小林春治

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1. 教育課程の位置と目標

特別活動は、各教科、道徳とともに教育課程を構成する領域の一つであり、これらそれぞれの充実と相まって、中学校・高等学校の教育目標を達成することができることを学習する。

2. 戦後の教育状況と教育改革

敗戦直後の教育状況と教育基本法・学校教育法の施行（六・三・三制の実施）にいたる大要を、GHQのとった教育政策にも注目しながら学習する。

3. 特別活動の変遷

特別活動の変遷を中学校・高等学校の学習指導要領を通して論じ、その社会的背景についても具体的な資料に基づいて学習する。また、平成12年度から移行措置がとられている新しい学習指導要領にも言及する。

4. 特別活動の基本となる指導法

中学校の学級／活動、高等学校のホームルーム活動が、生徒会活動、学校行事などと相互に関連していることの学習を通して、これらの集団生活の在り方、心身ともに健康で安全な生活習慣の形成などを基本にした指導法を、現状にも注目しながら考察する。

【評価方法】

期末試験の成績とレポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 特別活動編（文部省 東山書房 予価 130円）

教育方法

霜田一敏

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

今日親も教師も子どもの本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、一人一人の子ども理解を深め、子どもの立場に立って教材を開発し教育課程を組み、授業を構想して実践できる力量が求められている。そのような力量を培う教育方法を解明する。

I. 人間回復の学力と教師のあり方を学力論と教師論の検討から具体的に明らかにする。更に、II. 子どもの思考の発展をめざす授業 III. 自主的な学習を育てる学習指導 IV. 子どもの側に立つ指導技術 V. メディアの進歩と新しいリテラシーの育成 VI. 個を生かす学習集団等について学習者の立場に立って、幅広く教育方法を究明したい。

【授業計画】

テキストを中心に、ビデオ教材や学生同士の討議を入れた参加型授業形態で行う。学生からのミニレポートによる授業評価を生かしながら講義を進めたい。

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著 明治図書 2,370円）

学習メディア論

東浦信博

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

わが国の教育においても、従来の視聴覚教育機器からマルチメディア教育機器やネットワークメディア利用の学習まで多様なメディアが活用されている。主要な教育メディアや教育技術の新展開について、その背景となる学習理論やメディア自体のメカニズム・特性、ときには学習事例などもあげて学ぶ。

【授業計画】

1. 学習とは (学習とは何か、学習の定義、学習理論、学習条件、主体的学習など)
2. 学習とメディア (学習者-学習素材・教材のコミュニケーションメディア)
3. メディア各論 (集団学習と個別学習、音声・映像・音声映像・コンピュータ・マルチメディア)
4. 遠隔地とのコミュニケーション (通信ネットワーク [=インターネット] による学習)
5. メディアリテラシー (21世紀におけるメディア活用の技術は人間生活の基本技術となる。この技術の欠如は文盲にたとえられる時代がくる。)

講義中心であるが、可能な限り実物を用意する。OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

ノート持ち込み可による論述式定期試験。

【テキスト】

なし。

生徒指導(進路指導を含む)

小林春治

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

生徒指導を生徒の管理監督、青少年非行の防止といった消極的な視点からとらえるのではなく、正しい人間観(生徒観)に基づいて生徒の健全な育成、個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導を基本とする。なかでも進路指導については、その理念及び目的を、学習指導要領に基づいて具体的に学習する。こうした学習をととして生徒に接する教師の在り方についても具体例を示して指導する。

【授業計画】

1. 旧約聖書・新約聖書における人間観(アダムとイブなど)、カントの人格主義における人間観、法然・親鸞はじめその他先哲の人間観を学習する。
2. 戦前の「修身・教育勅語」、昭和初期にはじまる「軍国主義教育」の生徒指導と戦後の「民主主義教育」による生徒指導に視点をあて、その歩みを概観する。
3. 現代社会における社会構造の変化に注目し、社会学的視点から新しい教育観と社会集団のもつ教育機能の変質のなかで、生徒指導が果たす役割を青少年非行と矯正教育の現状にも注目しながら、中学校・高等学校における教育の現状と問題点を考える。
4. 進路指導の基本理念及び目的と内容を学習するなかで、中学校・高等学校における進路指導の現状と問題点に触れながら教師の在り方を、教育相談・カウンセリング・進路情報などを通して、具体的に学習する。

授業においては、中学校・高等学校時代の生活体験を生きた教材として、具体的に学習する。

【評価方法】

期末試験の成績と小テスト、レポートの評価及び出席率を統合する

【テキスト】

生徒指導講義ノート(小木曾通男編 250円)

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師－生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
 - 教育相談の位置づけ
 - 教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
 - カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

学校経営と学校図書館

小木曾通男

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

- (1)学校図書館の管理運営組織
 - ①生徒の利用時間の設定
 - ②生徒への図書等の貸し出し方法
 - ③長期休業期間中の開館状況
- (2)魅力ある学校図書館について
 - ①生徒が親しみやすい雰囲気のある学校図書館
 - ②学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - ③生徒が利用しやすい学校図書館経営
- (3)学校図書館と生徒会活動の連携
 - ①生徒会図書委員会の組織と活動
 - ②読書週間、読書コンクール、図書館だより
 - ③学校図書館の利用PR活動
- (4)学校図書館の充実
 - ①PTA組織を活用した寄贈図書等
 - ②地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - ③関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

学校図書館メディアの構成

中村和夫

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

- (1)児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - ①現在の学校図書館のメディア構成の実態の分析
 - ②児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の蔵書選定
 - ③児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
- (2)教育課程にマッチしたメディア構成
 - ①教養中心から教科学習に必要なメディアの収集
 - ②「総合学習の時間の学習」の視点からのメディア構成
 - ③「情報」「オーラル英語」等の新しい教科科目の教材
- (3)情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - ①ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - ②CDRom、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
- (4)学校図書館の資料分類と目録
 - ①分類の意義と必要性、分類表の構造、日本十進分類表の使い方
 - ②目録の意義と種類、目録規則、目録作業の基本

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校図書館は、児童生徒の豊かな人間性の育成に貢献することが必要であるのは論をまたないところであるが、同時に、学校における学習指導に深くかかわるものであることを看過してはならない。学習指導に効果的な学校図書館のあり方やその活用方法について、教育実践例に基づいて、次の視点に立って学習する。

【授業計画】

- (1)学習活動を促進する学校図書館
 - ①利用しやすい本や資料の配架の工夫
 - ②教科・科目別の配架、コーナーの設定
 - ③教科・科目に関係のある本や資料の充実
- (2)学習指導と学校図書館の利用
 - ①各教科・科目の課題学習と学校図書館の利用
 - ②学校図書館を利用した共同研究・グループ研究
- (3)各教科・科目の学習指導
 - ①学校図書館を利用する各教科・科目の課題学習
 - ②学校図書館を利用する各教科・科目の予習課題
- (4)新設された「情報」の学習指導
 - ①「情報」における学校図書館の活用方法
- (5)新設された「総合的な学習の時間」
 - ①「総合的な学習の時間」における学校図書館の役割
 - ②学校図書館を利用した「総合的な学習の時間」におけるテーマ別学習、課題学習、グループ学習の展開

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

- (1)読書のよろこび
 - ①人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - ②代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - ③受講者自身の学校図書館での本との出会い
- (2)人間形成と読書
 - ①幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - ②少年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - ③読書における、内省、思索の意義
- (3)学校教育における読書指導
 - ①教員による本の紹介、読み聞かせ
 - ②「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
- (4)読書と仲間作り
 - ①家庭での読書についての親子の対話
 - ②友達同士の読書グループ、読書会
 - ③学区図書館を利用した共同研究
- (5)読書の技術
 - ①情報化時代の読書のあり方
 - ②愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

集中 3・4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

- (1) 学校図書館と情報機器
 - ① 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - ② 学校図書館に設置する情報機器
- (2) 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - ① 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - ② インターネットを使用しての資料の収集
- (3) 学校図書館の情報メディアの活用
 - ① 視覚メディアとしてのVTR等
 - ② 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - ③ 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

図書館情報学概論 a・b

村主朋英

1年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学分野の世界への入り口となる科目である。前半は、図書館情報学における基本的な考え方について論ずる。後半は、情報に関する研究の世界や図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

0. オリエンテーション：分野と専門、学術と実務
1. 情報や知識をどのように捉えるべきか
2. 情報の流通過程
3. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
4. 図書館・情報サービスにおける機能と構造
5. 情報サービスと人間
6. まとめ：人とメディアのつくる宇宙の中で

【評価方法】

前期：定期試験

後期：定期試験と夏休みレポート

※なお「図書館情報学概論 a」の単位を取得済でない学生については、「同 b」の単位は認定しない。また、前期末に夏休みレポート課題を提示するので、今年度「同 b」のみ履修予定の学生は問い合わせること。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 税別定価 3,800円）

情報サービス基礎論 a・b

逸村裕

2年 前・後期 必修 各2単位

【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

前後期は連続する内容である。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕—直接サービス）
 - A. 貸出閲覧
 - B. レファレンス
 - C. 相互協力
 - D. 視聴覚資料
 - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織—間接サービス）
 - A. 選書
 - B. 収書
 - C. 整理
 - D. 雑誌
 - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
 - A. 蔵書
 - B. 人的サービス
 - C. その他のサービス

【授業計画】

講義中心に行う。適宜、小テスト、レポートを課す
インターネット講習会を受講しておくこと

【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による評価。詳細は初回講義の際に説明する。

【テキスト】

使用せず。

レファレンスサービス論

長澤雅男

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

図書館における情報サービスという広い観点から情報提供の問題を解説するが、とりわけレファレンスサービスを重点的に取り上げ、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセスのあり方について理解を深めることを主な目的とする。この科目は、「レファレンスメディア論」と相互に補完するものとして扱う。講義を中心に進める。

【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

【評価方法】

期末試験（多肢択一式問題）を予定しているが、出題形式については、試験日の1、2週間前に改めて説明する。

【テキスト】

レファレンスサービス—図書館における情報サービス
(長澤雅男 丸善 2,369円)

レファレンスメディア論

長澤雅男

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

レファレンス質問の処理に役立つ情報源の種類とその特性を理解し、情報と文献の探索技術を習得できるようにするため、各種の参考図書、データベース等、探索ツールとしての印刷メディアと電子メディアの特性を解説したうえで、質問事例を用いて情報および文献の探索方法について演習を行う。

【授業計画】

1. レファレンスサービスにおける情報源／問題解決と情報源／記録メディア／参考図書とデータベース
2. 参考図書・データベース関係の情報源／参考図書の解題書誌／書誌の書誌／データベースディレクトリ
3. 図書・叢書関係の情報源／書誌／目録（所蔵目録、総合目録）／叢書合集索引
4. 逐次刊行物関係の情報源／逐次刊行物リスト／新聞雑誌記事索引／抄録誌
5. 人物・団体関係の情報源／人名事典／名鑑／人物文献索引
6. 歴史関係の情報源／歴史事典／年表／年鑑類
7. 地理関係の情報源／地名事典／地図帳／地名索引
8. 事物・事象関係の情報源／事典／便覧類／図鑑類
9. 言語・文字関係の情報源／国語辞書／特殊辞書・諺語辞書／用語索引・詩歌索引
講義と演習（主として時間外に問題回答演習を行い、レポートを提出）。

【評価方法】

レポート、期末試験（出題形式は試験日の1、2週間前に説明する）の総合評価。

【テキスト】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男 丸善 3,296円）

情報検索演習B

逸村 裕 廣田慈子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。また、索引語の付与と抄録の作成による書誌レコード作成過程も習得する。さらに、検索効率やユーザー・インタフェースの検討とともに、各自の情報ニーズに基づくテーマ検索の結果も検討し、システムの評価方法を学ぶ。

1. 情報検索とは

蓄積と検索/索引作業/検索効率/探索コマンドの標準化

2. オンライン情報検索システムとCD-ROM

各種データベースの特徴/検索方法(メニューとコマンド)

3. DIALOGの検索(その1)

通信方法/デモンストレーション(DIALOG)/論理演算子/基本的な検索コマンド

4. DIALOGの検索(その2)

トランケーション/近接演算子/ストップワード/二次検索/フィールド指定子

5. DIALOGの検索(その3) 検索語の列挙/著名者検索

6. JOISの検索

7. 索引・抄録作成作業

索引語の付与とシソーラス/抄録作成の基準(SIST-01)

8. システム評価(DIALOGとJOISの比較)

9. テーマ検索(DIALOGとJOISの活用)

10. 各種システムとDBのデモンストレーション

STN-International/PATOLIS/日経ニューステレコン/MEDLINE/各種CD-ROM

【授業計画】

8号棟情報検査室で実習を中心に進める。実習助手も指導に加わり、受講生の理解度を確認しながら進める。「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

サブテーマごとに小テストを行う。また各自のテーマ検索での結果をまとめたレポートも評価の対象とする。

【テキスト】

なし(プリント配布)。

情報学Ⅱ a・b

村主朋英

2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

図書館サービスと情報検索サービスの発達過程を中心に、人類の情報環境の発達過程を概観する。まず、図書館等の情報サービス機関や図書館員等の情報専門職に焦点を当てながら、情報流通の制度・機構や情報の蓄積・検索の技術・技法がどのように整備されていったかを概観する。その上で、そうした情報環境に囲まれて、人類が情報や知識をどのように蓄積・継承してきたか、展望する。

【授業計画】

1. 図書館・情報サービスの起源と学術情報

1. 1 古代・中世の知識と図書館

1. 2 印刷革命

1. 3 近代における学術情報流通システム

1. 4 近代公共図書館と図書館界の成立

1. 5 図書館学とドキュメンテーション

2. 現代の図書館・情報サービス

2. 1 ドキュメンテーション運動その後

2. 2 情報技術の起源

2. 3 情報検索サービスの成立

2. 4 情報学の成立

2. 5 情報環境の変化

3. 理想の情報検索システムを求めて

Vannevar BushとそのMemex構想/MemexとWorld Brain, インターネット

4. 総括

情報学と情報サービスの今後

【評価方法】

定期試験。※穴埋め・訂正問題、論述問題。

【テキスト】

図書及び図書館史(新・図書館学シリーズ12、樹村房税別定価1,900円)

図書館情報学用語辞典(日本図書館学会用語辞典編集委員会編 丸善 税別定価3,800円)

個人コミュニケーション論1a (認知心理学)

岩原昭彦

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義では、認知心理学の概説を行う。人間がどのように外界の情報を取り入れ、処理するのかに関する心理学的アプローチについて学習する。具体的には、人間の知覚、記憶、学習、思考、言語活動と理解について講義する。

【授業計画】

1. 認知心理学とは／講義計画指示
2. 知覚
- 3～4. 記憶
5. 学習
6. 概念の構造
- 7～9. 思考
- 10～12. 記号としての言葉（単語認知）

【評価方法】

期末テスト、または講義内で課すレポートによって行う。実験（あるいは調査）への参加回数も加味する。

【テキスト】

使用せず。講義内で理解の助けになるよう、プリントを配布する予定。

博物館概論

長谷川銕治

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館とは何かからはじめて、その発達の歴史をたどり、日本と世界の博物館を概観する。

- ア はじめに…学芸員の資格、博物館学とは何かなど学習の基礎となる事項を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に「博物館」とは何かを考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の歴史を概観するにあたって、その始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの人々の文芸に対する態度の探求と博物館的な施設の形式を探る。
- オ 近代博物館の出發Ⅰ…王権の誇示の手段としての財宝の展示などから博物館を考える。
- カ 近代博物館の出發Ⅱ…市民革命などの動きにあわせて市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世から現代までを主要な博物館を例にとり、その特徴をまとめる。
- ク アメリカの博物館…独立から現代までをヨーロッパの博物館と対比しつつ、その特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど、今後の博物館の形態をみずえて、新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・大陸文化の請来から床の間の普及まで
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の出發
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
 - ・戦後の再出發

【授業計画】

授業概要の展開順にそって講義する。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銕治 戸谷印刷）

博物館概論

早川正一

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。十分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川銕治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銕治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

長谷川銹治

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

博物館について、その機能、役割、組織、運営、学芸員、施設・設備、情報化、協力などにふれ、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義づけられていることを念頭におき、その機能について考える。
- イ 博物館の分類…種類別、設置者別、制度別などの分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織の状態をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…現在、学芸員のおかれている地位、実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。外国のCURATORとも比較してみる。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて、予算を中心に考える。
- キ 博物館の施設・設備…人文系博物館・動物園・植物園・水族館などについて、その設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…博物館はもちろんのこと、大学・研究機関などとの連携について考える。

【授業計画】

授業概要の展開順によって講義する。

【評価方法】

- ・小テストと数回にわたるレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

早川正一

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。してがって、この講義も基幹をなす科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性と博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーはゆるさない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川銹治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

視聴覚教育メディア論

東浦信博

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業計画】

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3. 視聴覚教育メディア各論

領域と種類

録音メディア（レコード・テープ・CD等）

映像メディア1（スライド・OHP等）

映像メディア2（映画・ビデオ等）

マルチメディアと情報ネットワーク

講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

【テキスト】

新訂視聴覚教育（学芸図書 ¥1,800）

教育学概論

梅村敏郎

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

「人間は、教育されなければならない唯一の被造物である。」とは、カントが教育学講義の冒頭で述べた言葉であるが、確かにわれわれの現在は、誕生以来、両親を始めとする多くの人間や自然的、社会的環境からの「教育」なしに考えられない。

又、成人した暁には家族を始めとする諸々の社会的共同体の成員として種々の立場で今度は子どもや若者の教育に参加しなければならない。つまり、教育なしには人間の生活は成立しないのである。

このように人間生活に深く浸透している教育の諸々の側面に、できる限り広い視野のなかで光を当てることによってその全体像を明らかにしようとするのがこの概論の目的である。したがって、教育の特定の分野、あるいは特定の問題についての詳細な論述や厳密な考察は、他の特殊講義に譲ることになる。

【授業計画】

- 1 現代社会学部の学生が教育学を学ぶ意義は何か
- 2 「教育」の語源
- 3 教育とは何か
- 4 教育における正しい子ども（人間）の見方
- 5 近代の教育とジャン・ジャック・ルソー
- 6 教育学の成立と発展
- 7 両親と子どもの関係における教育
- 8 フォーマル・スクーリング
- 9 社会教育の問題
- 10 教育を再構築する概念としての生涯教育

【評価方法】

評価は、最終授業における筆答試験による。試験についての詳細は授業中に発表する。

【テキスト】

特定の著書を教科書として使用することはない。参考書は授業中に適宜紹介する。

民俗学

谷沢 明

2年 前・後期 必修 2単位

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

- 1、民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
- 2、稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
- 3、農耕儀礼～田遊びを中心に～
- 4、年中行事～正月行事を中心に～
- 5、年中行事～盆行事を中心に～
- 6、人生儀礼～人生の折り返しにあたって～
- 7、暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
- 8、暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
- 9、庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
- 10、日本民俗学のあゆみ～柳田国男の役割～
- 11、日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

学外教育を1回実施する（自由参加）

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

ドイツ語 a・b

浜田義孝

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（あるいはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

【授業計画】

テキストは、全14課で各課とも基本的な文法事項、練習問題、そしてドイツの生活をテーマにした読本（ディアローグ）で構成されている。

1課を2回の授業で修了するようゆっくりしたペースで進む。

【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新・じゃあ、またあした！（山本著 同学社）

フランス語 a・b

清水ベアトリックス

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

この授業は初級者を対象とし、フランス語の習得だけでなく、フランスの風俗、文化、習慣も「味わいながら」学ぶことを意図する。担当講師はフランス語の授業を通じて受講者の対仏国理解を深める手助けをすることを切に望む。

前期

日本で出版された平易なフランス語テキスト（CD付き）、漫画、ポップス、ビデオなどを使用する。

前期には、テキストの目次に沿って進み、フランス人講師が直接教えるので、受講者は「フランスに浸り」、「純粋な」フランス語の発音と文法の基礎を身に付ける。

できる限り前期では、下記の文法を学ぶ：

発音、名詞の『性』と『数』、冠詞、不定詞と動詞の活用：直接法現在形、疑問文：疑問代名詞と疑問形容詞、否定文、品質形容詞。

後期

前期に引き続き同じテキストを使用し、より高レベルの文法・語彙を学ぶ。しかし、特にコミュニケーションに重点を置くので、「純粋なフランスの環境」の中で簡単な作文を書いたり、寸劇をすることにより、受講者自身の考えをフランス語で表現する能力を養成することを主目的とする。

後期では、下記の文法事項を学ぶ：

目的語となる人称代名と強勢形、指示形容詞、所有形容詞、冠詞の縮約、半過去、複合過去。

【授業計画】

毎回学んだフランス語を会話練習に積極的に使用するとともに、文法を体系的に学んだり、平易なフランス語の文章を和訳する。

【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

Le français Passionnément (Fumiyo ANAN, Ce'cile MORIN 第三書房)

ロシア語 a・b

杉本一直

1・2年 前・後期 選択 各2単位

【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしててくださいね。

【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなががすいたら...
- g. 自分について話してみよう
- h. 好きな音楽について
- i. 手紙を書こう (本当にロシアへ送るぞ！)

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典 (白水社)

Intensive English 2001 A 1・2

ポール・ルイス プレット・スティープンソン
ジョナサン・E. ロング ベヴァリー・F・M. カレン

1～4年 前期 選択 各2単位

【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal language learning goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural. Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills—including vocabulary, comprehension, and grammar—will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers.

Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- * END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.

Intensive English 2001B 1・2

ポール・ルイス プレット・スティーンソン
ジョナサン・E. ロング ベヴァリー・F.M. カレン

1~4年 後期 選択 各2単位

【Course Content】

This unique course is aimed at low to high intermediate students with academic as well as personal language learning goals. The integrated skills format ensures the development of true communicative language that is authentic and natural. Emphasis will be predominantly on the development of listening and speaking skills, but reading and writing skills—including vocabulary, comprehension, and grammar—will also be cultivated.

Teachers from The United Kingdom, North America, Canada, and Australia will be teaching on this course, providing a well-rounded perspective of the contemporary themes found in the text and encouraging critical thinking.

Students will have a choice of four two-day courses of study (see student handbook for more detailed information).

【Schedule】

Topics will be covered over a two or three week period and will include a variety of themes selected by the teachers. Examples of such themes include the following:

- 1) GENDER STEREOTYPES AND WORK
- 2) THE AFFECT OF FOOD ON MOOD
- 3) VACATION SPOTS AROUND THE WORLD
- 4) STAYING HEALTHY
- 5) UNEXPLAINED PHENOMENA
- 6) OUTDOOR LEISURE ACTIVITIES

【Assessment】

Assessment will be continual and will be based on the following criteria:

- * ATTENDANCE
- * CLASS PARTICIPATION/EFFORT
- * HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
- * END OF SEMESTER REPORT

【Textbooks】

TO BE ANNOUNCED.

言語文化海外セミナー I

馬 富榮

集中 1~4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において3週間の中国語研修を行う。
 - ◎月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう！
 - ◎風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した1週間旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
5. 修了者には2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、参加希望者は履修登録を必ずする。9月下旬頃、参加者最終決定。10月中旬頃、第1回説明会。11月下旬頃、第2回説明会。1月下旬頃、オリエンテーションを実施する。2月中旬頃に出発し、3月中旬頃に帰国する。費用は30万円程度。

【評価方法】

引率者が平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

言語文化海外セミナーⅡ

窪田守弘

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国の大邱市にある大邱カトリック大学で、3週間の語学研修を行なう。参加学生は、必ずしも韓国語の知識は必要でなく、意欲的に異文化体験しようとする者であれば、だれでも自由に参加出来る。ただ、キャンパス内の寄宿舎では規則正しい時間を送りながら語学中心の勉強生活となるので、事前の心構えがしっかり定まっている人が望ましい。

この研修は単に語学や文化の研修をするだけでなく、韓国の学生との交流を通じて相互理解を図り、多くの新しい友人を得ることも大きな目的の一つである。

期間：8月6日～8月25日（予定）

内容：

- A. 韓国語研修（月～金）
 - 毎朝3コマ（1コマ50分）
- B. 文化研修（午後週1～2回）
 - 陶磁器実習
 - 韓国料理実習
 - 韓国伝統舞踊鑑賞
- C. 文化講座（午後週1回）
 - 韓日文化比較論
 - 韓日文化交流論

【授業計画】

参加学生は、必ず事前研修（週1回）を受けて、韓国語、文化、歴史などの基礎知識を得ることとする。

なお、参加希望者は、4月より始まるNHKのハンゲル講座を受講することが望ましい。

【評価方法】

研修後にレポートを提出し、全員で報告書を作成する。

【テキスト】

プリント、資料を配布する。

英語コミュニケーション5

石橋千鶴子

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

パラグラフ・ライティングを含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の育成を目指し、総合的な英語活動を行う。

授業では英語ビデオ教材を使い、内容把握のための活動を英語で行っていく。また、ライティング学習では、英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。与えられたトピックでパラグラフ・ライティング、レター・ライティングなどを行い、ライティングにおける運用能力の育成をはかる。

なお、後期「英語コミュニケーション6」の履修を希望する者は、「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

Survival Writing for College Students (Yasusada Uechi著 三修社)

英語コミュニケーション6

石橋千鶴子

2~4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEIC問題対策を含む英語総合演習。

【授業計画】

英語の4技能、すなわちリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングにおける運用能力の強化を目指し、総合的な英語活動を行う。

前期「英語コミュニケーション5」に引き続き、ビデオ英語教材を使い、内容把握のための活動を英語で行う。また、TOEIC問題の演習を行い、さらなる個人学習を促したい。

なお、本科目履修希望者は、前期「英語コミュニケーション5」を履修しておくことが望ましい。

【評価方法】

期末試験及び日常の勉学状況により評価を行う。

【テキスト】

TOEICテスト スーパー模試600問（発行 アルク）

英語コミュニケーション7

中村栄造

2~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

世界の様々な出来事が国際ニュースとして、われわれの手にすぐ届けられる時代を迎えて久しい。この授業では、日々われわれが接する膨大な情報から必要な情報を的確に入手することを念頭に、主にリスニングとリーディングを中心とした英語運用能力の獲得を目指す。

主にリスニング教材とするのは、VOA (Voice of America) のニュースである。これを毎回、ディクテーションする。リーディングは英字新聞や、雑誌 Newsweek などから幅広く教材を選び、読解を試みる。

【授業計画】

リスニングのトレーニングを60分、リーディングを30分毎回行う。なお、リスニングに関しては、5回ごとに小テストを実施する。

【評価方法】

授業内に行う小テスト2回、およびリーディング教材の読解度、定期試験を総合して判断する。

【テキスト】

使用せず。毎回プリント配布。

英語コミュニケーション8

大鐘洋司郎

2~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した授業内容。海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などとの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 場面を設定して受講生が英文ビジネスレターを作成する。英和・和英辞典を持参すること。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴（内容は下記参照）
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格FOB及びCIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 ビジネス英会話（時間と受講生数次第で実行）

【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。

英語関係の資格（英検・商英検・TOEFL、TOEICなど）は自己研修点として成績に加味する。資格を証明するもの（コピー可）を持参して授業担当者に報告のこと。授業に取り組む積極性も評価する。

【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション増補版（大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,520円）

ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」
授業担当者作成資料（プリント教材その他）

英語コミュニケーション9

小野迪雄

2~4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

アーネスト・ヘミングウェイは、20世紀を代表するアメリカの作家であり、多難な激しく変動した時代を生き抜いた作家でもある。『老人と海』でノーベル賞を授賞したが、彼の文学の本質を探ってみると、円環を描いて、初期の作品世界につながっているようにみえる。それ故、初期の短編を読み解くことは重要であり、彼の文学の本質に迫れるかもしれない。

ヘミングウェイの文章は簡潔で引き緊った文体で、現代の標準的な文章の一つの型をもっていて、読みやすい。

【授業計画】

テキストを中心に読み進み、随時プリントを配布して、作者や作品の理解を深めるようにする。

【評価方法】

定期試験の成績を主とするが、日常の授業に対する準備も判断の資料とする。

【テキスト】

Indian Camp and Other Stories (Hemingway)

『ヘミングウェイ短編集』 成美堂

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介する。必要に応じてプリントを配布する。

英語コミュニケーション10

ダグラス・L. ドイル

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

The objective of this course is to revise and augment students' knowledge of English vocabulary and non-verbal features, as well as developing their speaking, listening, reading and writing skills. Students who opt for this course will be expected to be able and highly motivated. Students who are less able will be expected to be extra-highly motivated.

【Assessment】

Assessment will be based on a combination of the following: general classroom performance (continually assessed) general standard of homework (continually assessed) and by examination.

【Textbooks】

Text: To be advised.

英語コミュニケーション10

テリー・ワコルツ

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

The aim of the course is to engage students actively in conversation with a partner or in a group. Students will try to express their ideas fully and coherently. The course will begin with exercises aiming to get the students to talk about things they like, dislike and providing simple reasons. The course and textbook will be based on providing examples of how students can express themselves and they will have plenty of chances during class to do so. Some listening will also be done.

【Schedule】

Term 1 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

Term 2 will focus on structured discussion with preset topics from the textbook.

【Assessment】

Evaluation will be based on attendance, participation and monthly vocabulary tests.

【Textbooks】

Let's Talk About It

英語コミュニケーション10

ディビッド・P. レヴィ

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to further develop students' skills in speaking, listening, reading and writing. The emphasis however will be on speaking and listening. Students who choose this course will be expected to be highly motivated.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, participation, writing assignments, homework assignments and a test.

【Textbooks】

To be advised.

【Reference】

Students are expected to bring English-Japanese and Japanese-English dictionaries (book or electronic) to class.

英語コミュニケーション10

ポール・ルイス

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course aims to focus on improving speaking and listening skills, particularly focussing on the latter. In particular, the different ways of listening will be covered, including extensive and intensive styles. The course will be given in English, and students are expected to use English as much as possible during class.

【Schedule】

Lessons 1 - 12: Various topics/listening skills.

【Assessment】

Assessment will be based on class participation and attendance, and a combination of continuous assessment, tests, and/or a final examination.

【Textbooks】

The textbook will be announced during the first class meeting.

英語コミュニケーション10

ディビッド・C. ダイカス

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will focus on developing speaking and listening skills, and expanding vocabulary, through topic-based discussion. Most topics will come from reading material (both from textbooks and newspapers), so reading will also play an important part in the course.

【Schedule】

The textbook will provide many of the topics to be studied, but the ones studied in class, and the order in which they are studied, will vary according to student interest and ability level. Some classes will include the use of outside materials, such as short newspaper articles, classroom surveys, and guided discussion activities.

【Assessment】

Assessment will be based on a combination of the following: general classroom performance (attendance AND participation, and using English instead of Japanese in class), quality of homework, and a final examination.

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション10

ハリー・T. ノリス

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course is designed to be a one semester course.

The course aims to improve the students' ability to communicate using English. To help them transmit their ideas to other Japanese people and native speakers of English. The course will show students key points about public speaking that will allow them to speak English confidently in front of small groups. Teaching strategies and techniques, voice control, and use of teaching aids will be studied. Reading, writing, listening and speaking will be addressed throughout the course. Speaking and listening being the main areas of assessment.

The course will be aimed mainly at developing confidence when speaking English in front of small groups of people.

【Schedule】

Introducing yourself.
Pronunciation "L/R", "B/V" and "Th" .
Voice control and eye contact.
How to use TV, OHC, OHP and pictures in a classroom.
Talking about travel experiences using photos.
Talking about family using photos.
3 minute seminar on hobbies

【Assessment】

Assessment will be based on attitude, attendance, speaking ability and improvement and a written report.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

英語コミュニケーション10

ブレット・スティーブンソン

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

Although this is an introductory level subject, classes will be conducted entirely in English. Students should thus avail themselves of the opportunity to develop both their listening comprehension and non-linguistic inter-cultural skills. Students will have the opportunity to discover elements of language and culture otherwise overlooked by traditional classroom techniques. Vocabulary building and development of the ability to think in the target language will also be emphasised during this program.

【Assessment】

Classroom activities will be the focus of the course. Regular attendance, active participation and completion of in-class assignments will be the criteria for assessment. Students who are enthusiastic about English are most welcome.

【Textbooks】

Hand-outs will be provided at the commencement of each class. These will be periodically collected for assessment purposes.

A final examination based on the content studied throughout the semester will also be a major part of the assessment.

英語コミュニケーション10

ジェームス・A・ジョリー

2～4年 後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will provide development and expansion of listening, speaking and reading skills in English. While conversational topics of each lesson provide practice in expressing personal information, each lesson is set in a different country to provide students with new vocabulary and knowledge to be able to converse about other people and cultures. Exercises and practice in class will be aimed at strengthening the ability of each student to express their thoughts accurately.

【Schedule】

A precise schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. Lessons will cover one unit of the textbook each week. A short quiz will be given after every third lesson, with a final examination over the whole course after the last lesson.

【Assessment】

The students will be assessed by their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) final examination.

【Textbooks】

The textbook will be *Speaking Internationally* (Paul McLean, MacMillan LanguageHouse). Additionally, each student is expected to bring to class her or her own personal English / Japanese dictionary.

英語コミュニケーション11

ジョナサン・E. ロング

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

Students who meet the prerequisites will in the class have to meet the challenges of reading scripts in English, watching the videos without subtitles, discussing them in English and writing reaction papers about them.

Usually, three weeks will be allowed for each video:

Week 1 : script

Week 2 : video

Week 3 : discussion; homework: reaction paper

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and the reaction papers.

【Textbooks】

none.

英語コミュニケーション12

ディビッド・C. ダイカス

2～4年 前・後期 選択 2単位

【Course Content】

This course will focus on skills and techniques needed for informative and persuasive writing and speaking. An important focus will be on recognizing and understanding the differences in rhetorical patterns between Japanese and English. Students will study how to gather, evaluate, and organize information, and assignments will include writing informative and persuasive essays and making presentations and speeches based on the information gathered.

The course be topic/theme oriented. Students will read about, discuss, research and write about these topics. Writing practice will include the study of paragraph organization and effective presentation and support of ideas in written English. Once this level of writing is mastered, we will move on to longer pieces of writing.

【Schedule】

As described above, the course will move from basic organization and presentation of ideas in short pieces of writing to essays and discussions based on their content.

【Assessment】

Grading will be based on attendance and participation, homework assignments, and a test.

【Textbooks】

To be announced

英語海外セミナー

石橋千鶴子 ジョナサン・E. ロング

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

英語／アメリカ文化研修を目的としたウェストバージニア大学での夏期英語研修プログラム。全学が対象。キャンパス内の大学寮に滞在し、約4週間の集中授業を受ける。さらに、週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流などが用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。8月下旬から9月下旬の約1ヶ月間を予定している。定員は、約30人。

2000年度実施上記研修プログラムにおける教室での学習時間は、合計約45時間、1日（9：00AM～3：30PM）の学習内容は、以下の通りだった：

午前 少人数で行われる会話クラスと総合英語の授業。
午後 アメリカ文化の授業およびプロジェクト。音楽／ドラマ／ニュースレター作成／ホームページ作成などから、各自興味のあるものを選び、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、卒業パーティーで発表する。

【授業計画】

本研修は、ウェストバージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムであり、全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびその他のプログラムスタッフがあたる。（期間中、本学教職員は滞在しない。）

【評価方法】

ウェストバージニア大学授業担当者の評価による。

【テキスト】

現地にて用意される。

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

集中 1~4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるポイント・オブ・ライト財団との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。（米国側協力団体）ポイント・オブ・ライト財団（Points of Light Foundation）

【授業計画】

- （事前研修）・インターンシップの活動分野の決定
- ・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習
- ・日本のNPO、ボランティア団体へフィールドワーク
- ・英会話のトレーニング
- （現地プログラム）・オリエンテーション合宿
- ・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン
- ・1日特別研修プログラム
- ・インターンシップの体験報告書の作成と提出
- ・評価会、修了式、さよならパーティ
- （事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）の評価を考慮し全体評価を行う。

情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。
情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

CG検定2級の合格を目指す教育科目である。

2級のレベルは、CGを実務に活用できるレベルであり、期待できる効果として以下のことがある。

- (1) アルゴリズムを理解し、目的に応じてCGの技法を活用できる。
- (2) デザインの知識をCG画像やCGアニメーションの制作に活用できる。
- (3) CGに必要なシステムを目的に応じて選び使用できる。

【授業計画】

1. CG基礎。2次元画像生成
2. 〃
3. モデリング
4. 〃
5. 3次元座標変換
6. 〃
7. レンダリング
8. 〃
9. 〃
10. 画像処理
11. 〃
12. 著作権その他。

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

Computer Graphics 技術編CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

Turbo Cによる3Dコンピュータ・グラフィックス（山岡祥著 森北出版）

CG検定対策講座3級 理論編（株式会社ユーミックス編著）

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

集中 1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

CG検定1級の合格を目指す教育科目である。

1級のレベルは、高度な知識と指導力に加えCGを制作や開発に応用できるレベルであり、期待できる効果としては以下のことがある。

- (1) アルゴリズムの記述やプログラミングによる高度なCG制作ができる。
- (2) デザインの知識を効果的に活用し高度な表現ができる。
- (3) CGに関する総合的な知識が身につく指導できる。

【授業計画】

1. VisualC++によるプログラミング
2. 〃
3. 〃
4. 〃
5. CGアルゴリズムのプログラミングと実例
6. 〃
7. 〃
8. 〃
9. 〃
10. CG検定1級の過去問題検証
11. 〃
12. 〃

【評価方法】

出席状況について評価

【テキスト】

CG検定1級問題集（画像情報教育振興会）

【参考文献・資料】

基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥著 CQ出版）

上級英語セミナー2001A

横山綾子

2~4年 前期 選択

【授業の概要】

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO (First - in First - out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

- 第一回 通訳一般概論 Sight translation
第二回 The Student Times からの記事使用 (テープ)
Shadowing Sight translation メモ取り
逐次通訳演習
同時通訳入門
第十回

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2001A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ポール・リンガー先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001A

ポール・C・リンガー

2~4年 前期 選択

【Course Content】

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task - based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2001A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ポール・リンガー先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001B

横山綾子

1~4年 後期 選択

【授業の概要】

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。

それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。

このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO (First - in First - out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。

最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

- 第一回 通訳一般概論 Sight translation
第二回 The Student Times からの記事使用 (テープ)
Shadowing Sight translation メモ取り
逐次通訳演習
同時通訳入門
第十回

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2001B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ポール・リンガー先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001B

ポール・C・リンガー

1~4年 後期 選択

【Course Content】

This course is designed to provide students with both the language tools necessary for good communication and the stimulus to use those skills in daily life. Its combination of reading, listening, and discussion centered on a single topic will help students to integrate new ideas, vocabulary, and idioms into everyday speech.

A variety of language learning materials taken from newspapers, books, and magazines will be used to encourage lively discussion and enthusiastic exchanges of ideas.

All the listening exercises and many of the speaking activities are task - based to give students a sense of realism and involvement.

Vocabulary plays a key role on this course and will be introduced in two main ways: productive vocabulary will be presented through a wide variety of vocabulary exercises and through speaking and grammar activities; receptive vocabulary is introduced through reading and listening exercises.

Guidelines will be given to help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test.

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2001B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日4限)、ポール・リンガー先生(水曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001C

ジョアン・M. ウッドマン

2~4年 前期 選択

【Course Content】

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists/tests will be generated from :

- a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary texts /materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs. Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components :-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2001C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（火曜日5限）、ブレット・スティーブンソン先生（木曜日4限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001C

ブレット・スティーブンソン

2~4年 前期 選択

【Course Content】

This course is intended to be a practical introduction to interpretation of both English and Japanese source materials. The focus of the course content will be on current affairs issues, therefore it will be useful for students to have some understanding of major contemporary economic, political and social issues.

【Schedule】

The topics to be covered include :

- Unit1 (Lessons 1-3) Note-taking skills workshop
- Unit2 (Lessons 4-5) Economic Issues
- Unit3 (Lessons 6-7) Political Issues
- Unit4 (Lessons 8-9) Social Issues
- Unit5 (Lesson 10) Review

【Assessment】

Assessment will be based on in-class participation and a final practical examination. Students will be required to practice the skills of interpretation diligently in order to obtain a passing grade.

【Textbooks】

No textbook will be used but a series of worksheets will be provided.

「上級英語セミナー2001C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（火曜日5限）、ブレット・スティーブンソン先生（木曜日4限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001D

ジョアン・M. ウッドマン

1～4年 後期 選択

[Course Content]

This is a new and exciting course designed for higher level students who are keen to further improve their English skills. Candidates will be selected on the basis of their TOEIC IP test scores, and part of the final grade will include a component of "TOEIC IP test score improvement".

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists/tests will be generated from :

- a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)
- b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).
- c) TOEIC vocabulary texts /materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask and answer questions about it.

[Schedule]

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

[Assessment]

Assessment will include the following components :-

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) TOEIC IP test score improvement
- 5) Attendance

「上級英語セミナー2001D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（火曜日5限）、ブレット・スティーブンソン先生（木曜日4限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー2001D

ブレット・スティーブンソン

1～4年 後期 選択

[Course Content]

This course is intended to be a practical introduction to interpretation of both English and Japanese source materials. The focus of the course content will be on current affairs issues, therefore it will be useful for students to have some understanding of major contemporary economic, political and social issues.

[Schedule]

The topics to be covered include :

- Unit1 (Lessons 1-3) Note-taking skills workshop
- Unit2 (Lessons 4-5) Economic Issues
- Unit3 (Lessons 6-7) Political Issues
- Unit4 (Lessons 8-9) Social Issues
- Unit5 (Lesson 10) Review

[Assessment]

Assessment will be based on in-class participation and a final practical examination. Students will be required to practice the skills of interpretation diligently in order to obtain a passing grade.

[Textbooks]

No textbook will be used but a series of worksheets will be provided.

上級英語セミナー2001D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。ジョアン・ウッドマン先生（火曜日5限）、ブレット・スティーブンソン先生（木曜日4限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

スポーツ特殊講座

松田秀子

集中 1～4年 前期 2単位

【授業の概要】 〈マリンスポーツ〉

各種のマリンスポーツを通し、海という自然を体験し、より深く理解する。各種目の基礎的技術の向上と知識の習得、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成13年8月6日(月)～9日(木)
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日(水) 5限目

第2回説明会 平成13年7月4日(水) 5限目

2. 場所 ヤマハマリーナ浜名湖 静岡県

3. 実習種目

ウェイクボード、ボードセーリング、
セーリングクルザー等

4. 実習費 約74,000円

5. 定員 約20名

(定員に満たない場合は中止になります。)

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ特殊講座

松田秀子

集中 1～4年 前期 2単位

【授業の概要】 〈ボウリング〉

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成13年9月5日(水)・6日(木)・
7日(金)・10日(月)・
11日(火)・12日(水)

計6日間 午前中のみ

第1回説明会 平成13年5月23日(水) 5限目

第2回説明会 平成13年7月4日(水) 5限目

2. 場所 星ヶ丘ボウル

3. 実習費 6,000円

4. 募集人数 40名

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ特殊講座

杉山 和

集中 1～4年 前期 2単位

【授業の概要】

〈スクーバダイビング〉

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

プール実習 平成13年8月20日(月)～25日(土)
この期間中に時差をつけて3日間実施します。

海洋実習 平成13年9月10日(月)～13日(木)
3泊4日

第1回説明会 平成13年5月23日(水)

第2回説明会 平成13年7月21日(土)

2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール(一社)

海洋実習 沖縄県 伊江島

3. 諸経費

実習費 約50,000円(講習費、テキスト代、申請料)

用具代 約50,000円(重器材レンタル代、個人器材)

海洋実習費 約78,000円(交通費、宿泊費)

その他 約30,000円(ウェットスーツ)希望者のみ

4. 定員 約20名

*諸経費については、12年度のものでありますので変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)。

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

スポーツ特殊講座

松田秀子

集中 1～4年 後期 2単位

【授業の概要】

〈スケート〉

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〈内容〉

1. 期日

実習 平成14年2月6日(木)・7日(金)・
8日(金)・12日(火)・
13日(水)・14日(木)

6日間 午前のみ

第1回説明会 平成13年11月7日(水) 5限目

第2回説明会 平成14年1月9日(水) 5限目

2. 場所 名古屋スポーツセンター (大須)

3. 実習費 約7,200円

4. 定員 約40名

*実習費に関しては、12年度のものでありますので変更する場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)。

【評価方法】

実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。

スポーツ特殊講座

金子恭久

集中 1～4年 後期 2単位

【授業の概要】

〈スキー〉

スキーを通して大自然の厳しさやおおらかさに接し、スキーの基礎的技術の向上と知識の習得を目標とする。

【授業計画】

《内容》

1. 期日

実習 平成14年2月17日(日)～2月21日(木)

4泊5日の予定

第1回説明会 平成13年11月7日(水) 5限目

第2回説明会 平成14年1月9日(水) 5限目

2. 場所 長野県 信州菅平高原スキー場

3. 宿泊所 福美津屋旅館

4. 実習費 約40,000円

(宿泊費・交通費・食事代・保険料・雑費)

5. その他の費用

リフト券代 約12,000円(レベルによって異なる)

レンタルスキー(板、ブーツ、ストック) 6,500円

レンタルウェア 4,000円

小物(帽子、手袋、ゴーグル) 1,500円

6. 定員 約40名

7. オプション企画(体験)

スノーボード(レンタル代、講習費) 6,000円

ヘリスキー(ヘリコプターの搭乗費) 6,000円

スキー検定(検定料) 6,000円

*定員に大きく満たない場合は中止になります。

*実習費及びその他の費用に関しての料金は、12年度のものでありますので、変更になる場合があります。

*説明会には必ず参加すること。(やむを得ない場合を除く)

【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。